

平成22年度

知識情報・図書館学類
開設授業科目シラバス

2010年1月22日版

筑波大学情報学群
知識情報・図書館学類

知識情報・図書館学類時間割案（平成22年度）2010/1/22版 凡例: *卒業要件上の必修科目, †司書科目, ‡教科に関する必修科目

1年次

1限 8:40~9:55, 2限 10:10~11:25, 3限 12:15~13:30, 4限 13:45~15:00, 5限 15:15~16:30, 6限 16:45~18:00

	月			火			水			木			金			
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	
1	総合科目 A* (天王台)			情報基礎*	情報システム概説	情報社会と法制度	情報数学*	基礎数学 A*	統計-1*	情報基礎実習-1*	プログラミング演習 I-1*	プログラミング演習 II-1*	情報基礎実習-2*	プログラミング演習 I-2*	プログラミング演習 II-2*	
2				7A205	7A205	春日講堂	7A205	7A205	7A205	7C102	7C102	7C102	7C102	7C102	7C102	7C102
3	第2外国語* (天王台)			知識情報概論*	哲学*	基礎数学 B*	総合 B*	リテラシ実習*			第2外国語* (天王台)			体育* (天王台)		
4	第1外国語* (天王台)			7A205	7A205	7A205	X			第1外国語* (天王台)						
5													第1外国語* (天王台)			
6	(教職論)			(キャリアデザイン I)		図書館概論†				(教職論)						
						春日講堂										

教職科目は以下のように履修することを想定して時間割を組んでいますが、下記以外のクラスを履修してもかまいません。

- 1・2クラス 教職論 9303 121 (1・2学期月6限), 教育心理学 9103 011 (通年金2限)
- 3・4クラス 教職論 9803 111 (1・2学期木6限), 教育心理学 9104 011 または 9104 021 (通年木2限)
- 集中: 日本国憲法 (3学期集中), 介護等体験の意義 9004 001 (3学期), 教職基礎実践 9003 002 (1学期)

2年次

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1	総合科目 A* (天王台)			(教育基礎学)			知識情報演習 I-2*	知識情報演習 II-2*	知識情報演習 III-2*				情報探索論†	質的調査法	情報行動論
2				知識情報演習 I-1*	知識情報演習 II-1*	知識情報演習 III-1*	7C102	7A102/7C102	7C102	7C102	7C102	7C102	7C102	7C102	7C102
3	データベース概説	コンピュータシステムとネットワーク	多変量解析	テキスト解釈-5	メディア社会学†	知的財産概論	専門英語 I-2*			経営・組織論†	公共経済学	生涯学習と図書館†	専門英語 II-1* 7A104		
4	7A205・7C102	7A205	7A103	(統計-2*) (7A105)	春日講堂	春日講堂	7A105			7A205	7A205	7A205	7A206,207		
5	知識発見基礎						専門英語 I-1* 7A105			7A205	7A205	7A205	7A206,207		
6	7A205					図書館概論†	X			知識資源組織化論†	量的調査法	自然言語解析基礎	学問と社会		
					春日講堂	7A205				7A205	7A205	7A205	7A205	7A205	7A205・春日講堂

集中: 知的探求の世界 I (通年)

教職科目は以下のように履修することを想定して時間割を組んでいますが、下記以外のクラスを履修してもかまいません。

- 1・2クラス 道徳教育 9302 001 (1・2学期水2限), 特別活動 9702 011 (3学期水2限), 教育基礎学 I~III 9201 011, 9201 021, 9201 031 (各学期集中)
- 3・4クラス 道徳教育 9303 011/9306 021 (集中), 特別活動 9706 021 (集中), 教育基礎学 I~III 9206 011, 9206 021, 9206 031/9206 551, 9206 561, 5206 571 (通年火1限)
- 社会科免許志望者は「欧米の歴史と文化」(3学期水1・2限)を必ず履修すること。そのため、3・4クラス生は1・2クラスのパターンで知識情報演習と教職科目を履修すること。社会科志望者は全員、特別活動は 9706 021 (集中)を受講すること。社会科志望者かつ3年次に情報経営・図書館主専攻実習の履修を希望する者は、2年次に人文地理学(地球; 2・3学期火4限), 地誌学(地球; 2・3学期火5限)を履修し、メディア社会学は3年次に履修すること。
- 集中: 道徳教育 9303 011/9306 021, 特別活動 9706 021, 教育基礎学 I~III 9201 011, 9201 021, 9201 031 (各学期集中), 教職実践特講 (今年度開講せず)

3・4 年次

	月			火			水			木			金					
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III			
1	司書科目 図書館論 [†] 7A205 読書と豊かな人間性 [†] 7A205 コレクションとアクセス [†] 7A205			知識発見 (知識科学) 知識構造化法 7A106 計量情報学 7A101・7C103 データマイニング 7A101・7C103			知識共有 (知識科学) 知識論 7A104 知識形成論 7A104 レファレンスサイエンス 7A204			知識行動 (知識科学) 学術メディア論 [†] 7A205 システム思考とモデリング 7A103 コミュニティ情報論 7A105			知識情報システムの実装 (システム) Web プログラミング [‡] 7A101・7C103 情報検索システム [‡] 7A104 マルチメディアシステム [‡] 7A101					
	その他 マークアップ言語 7A106・7C202			情報サービス構成論 [†] 7A104 司書教諭科目 学習指導と学校図書館 7A104 学校図書館メディアの構成 7A205			知識情報システムの原理 (システム) テキスト処理 7A101・7C103 データ構造とアルゴリズム [‡] 7A204 ソフトウェア工学 7A201・7C103			知識情報環境の構築 (情報経営) 学術情報基盤論 7A104 図書館情報法制度論 7A207			知識情報の社会化 (情報経営) メディア教育の実践と評価 7A104 教育文化政策 7A101 学校図書館論 7A104					
3	知識行動+知識発見 (知識科学) 図書館建築論 7A106 ソフトコンピューティング 7A207・7C103 情報評価 7A106			知識情報システムの設計 (システム) データ表現と処理 7C102 データベース技術 7C102 情報デザインとインタ... 7A101・7C102			知識情報特論 (共通・4 年次) 知識情報特論 I 春日講堂 知識情報特論 II 春日講堂 専門情報サイエンスコミュニケーション... 7A106			知識情報システムの実際 (システム) 情報サービスシステム 7C102・7B206 デジタルドキュメント 7A106 デジタルライブラリ 7A105			知識情報の組織化 (システム) 知識資源の分析 7A102 知識資源の記述 7A102 知識資源の用語管理 7A102					
	図書館と書物の文化 (情報経営) 図書館文化史論 7A104 中国図書館学 7A104 日本図書館学 7A104			専門情報 (知識科学) テクニカル... 7A102・7C103 医療情報論 7A105・7C103 特許情報論 7A102・7C103			X			知識情報の規範 (情報経営) 情報法 [‡] 7A104 知的財産権論 A 7C102 知的財産権論 B 7A206			メディア社会と情報文化 (情報経営) メディア社会文化論 7A205 出版文化・書誌論 7A205 専門英語 III-1 [†] 7A103 専門英語 IV-1 [†] 7A103					
4	図書館と書物の文化 (情報経営) 図書館文化史論 7A104 中国図書館学 7A104 日本図書館学 7A104			専門情報 (知識科学) テクニカル... 7A102・7C103 医療情報論 7A105・7C103 特許情報論 7A102・7C103						知識情報サービスの経営 (情報経営) 情報サービス経営論 [†] 7A106 情報経済論 7A106 パブリックガバナンス論 7A106			知識情報システムその他 (システム) ヒューマンインタフェース 3A402 グリッドコンピューティング 7A101・7C102 ソフトウェア構成 7A101・7C102			知識科学実習* 7A208・7C102		
5	知識情報システム実習* 7B206・7C102			図書館と書物 古文書論 7A106 情報経営・図書館実習* 7A105 (+7A103 1 学期) (+7B206/7C102 2 学期)														
6																		

集中：情報メディアの活用 (1 学期)、経営情報システム論 (2 学期)、知的探求の世界 II (1・2 学期)

早期卒業をめざす人のために、月・火・水の 1・2 限に開講する科目 (マークアップ言語を除く) は各科目の受講上限を超過しない範囲で 2 年次による履修を認めます
教職科目は以下のように履修することを想定して時間割を組んでいますが、下記以外のクラスを履修してもかまいません。

- 知識科学 生徒指導 9801 321 (通年火 5 限)、障害児指導法 9606 111 (1 学期火 6 限)、教育内容方法論 I 9604 301 (2 学期水 6 限)、教育内容方法論 II 9605 111 (1 学期水 6 限)
- 知識情報システム 生徒指導 9801 321 (通年火 5 限)、障害児指導法 9606 111 (1 学期火 6 限)、教育内容方法論 I 9604 301 (2 学期水 6 限)、教育内容方法論 II 9605 111 (1 学期水 6 限)
- 情報経営・図書館 生徒指導 9801 361 (通年月 5 限)、障害児指導法 9606 111 (2 学期金 6 限)、教育内容方法論 I 9604 201 (1 学期月 6 限)、教育内容方法論 II 9605 121 (1 学期水 6 限)

集中：生徒指導 9801 311 (2 学期集中)、進路指導 9303 011/9703 011

他学類開設の教科に関する科目 (必修) および教科指導法

- 数学科 情報数学 III (創成; 3 学期水曜 1・2 限)、CG 基礎 (創成; 3 学期月 4・5 限)、教科指導法 (通年木 1・2 限)
- 社会科・公民科 人文地理学 (地球; 2・3 学期火 4 限)、地誌学 (地球; 2・3 学期火 5 限)、東洋の歴史と文化 (日日; 3 学期木 2・3 限)、教科指導法 (通年水 1・2 年)
- 情報科 情報と職業 (集中)、教科指導法 (2・3 学期木 5・6 限)

平成 22 年度時間割は現時点では未確定です。参考のために公開しますが、今後の調整で一部が変更されることもあります。確定版は 2 月末に公開予定です。

平成22年度学年暦カレンダー

(学群関係)

第1学期								第2学期								第3学期											
曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考	
4月					1	2	3	春季休業 4.1~4.6	8月	1	2	3	4	5	6	7	第2学期入学式 8.6	12月					1	2	3	4	第3学期授業開始 12.1
	4	5	6	7	8	9	10	入学式 4.7		8	9	10	11	12	13	14			5	6	7	8	9	10	11		
	11	12	13	14	15	16	17	新入生オリエンテーション		15	16	17	18	19	20	21			12	13	14	15	16	17	18		
	18	19	20	21	22	23	24	4.8~4.9		22	23	24	25	26	27	28			19	20	21	22	23	24	25		
	25	26	27	28	29	30		第1学期授業開始 4.12		29	30	31							26	27	28	29	30	31		冬季休業 12.26~1.5	
5月							1	春季スポーツデー 5.22~5.23	9月				1	2	3	4	第2学期授業開始 9.1	1月								1	
	2	3	4	5	6	7	8				5	6	7	8	9	10	11			2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15				12	13	14	15	16	17	18			9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22				19	20	21	22	23	24	25		※22日は月曜日の授業を実施	16	17	18	19	20	21	22	※18日は月曜日の授業を実施
	23	24	25	26	27	28	29				26	27	28	29	30					23	24	25	26	27	28	29	
6月			1	2	3	4	5	第1学期授業終了 6.24 第1学期期末試験 6.25~7.1	10月						1	2	開学記念日 10.1	2月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12				3	4	5	6	7	8	9		学園祭 10.9~10.11	6	7	8	9	10	11	12	※9日は金曜日の授業を実施
	13	14	15	16	17	18	19				10	11	12	13	14	15	16		※14日は火曜日の授業を実施 筑波キャンパス電気設備点検 (全学停電) 10.16 ~10.17	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26				17	18	19	20	21	22	23		秋季スポーツデー10.23~10.24	20	21	22	23	24	25	26	英語・ドイツ語検定試験 2.24
	27	28	29	30							24	25	26	27	28	29	30			27	28						
7月					1	2	3	夏季休業 7.2~8.31	11月		1	2	3	4	5	6	第2学期授業終了 11.18 第2学期期末試験 11.19~11.25 ただし11月23日の休日に当たる期末試験は11月16日に繰り上げて行う。 秋季休業 11.26~11.30	3月			1	2	3	4	5	第3学期期末試験 3.2~3.8	
	4	5	6	7	8	9	10			7	8	9	10	11	12	13				6	7	8	9	10	11	12	春季休業 3.9~3.31
	11	12	13	14	15	16	17			14	15	16	17	18	19	20				13	14	15	16	17	18	19	
	18	19	20	21	22	23	24	第1学期末卒業式 7.23		21	22	23	24	25	26	27				20	21	22	23	24	25	26	卒業式 3.25
	25	26	27	28	29	30	31			28	29	30								27	28	29	30	31			
授業日数	10	10	10	10	10	10	10	1・2時限 3時限以降	授業日数	10	10	10	10	10	11	10	1・2時限 3時限以降	授業日数	10	10	10	10	10	10	10	1・2時限 3時限以降	

- (注) 1. 太字は、国民の祝日に関する法律による休日(振替え休日含む)を示す。(ただし、春分の日は予定である。)
2. 入学式、新入生オリエンテーション及び卒業式は|||||||で示す。
3. 期末試験日は■■■■で示す。
4. 休業日は■■■■で示す。
5. 1月14日(金)及び1月17日(月)の授業はセンター入試の関係で全日臨時休業とする予定、2月24日(木)は英語・ドイツ語検定試験の実施及び前期試験の設営のため、全日臨時休業とする予定であり、試験日程決定後、改めて周知することとする。
6. △印は、学園祭の実施に伴い、10月8日(金)3時限以降、10月12日(火)1、2時限の学群の授業は、臨時休業とする。

総合目次

開設授業科目一覧	i
----------------	---

科目シラバス

1年次科目	1
2年次科目	15
学類共通専門科目	41
知識科学主専攻	55
知識情報システム主専攻	69
情報経営・図書館主専攻	89
自由科目・その他	111

解説

履修のてびき	121
科目選択ガイド	130
教職ガイド	136

資料

情報学群履修細則	139
教科に関する科目	145
大学において修得すべき図書館に関する科目	148
大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目	148
大学が単位を与える学修一覧	149

索引

教員一覧（教員名索引）	151
科目名索引	153

開設授業科目一覽

1 年次科目

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	石井 啓豊	オフィスアワー と研究室	木 4 限 315		
授業概要	総合科学としての図書館情報学の全体像と、その知識情報学への発展を論ずる。知識情報学は、図書館情報学を「メディアを介した知識共有とその社会的・文化的・技術的仕組み」という視点の中でとらえ直し、より一般的な枠組に発展させるべく構想されるものである。この視点から、図書館情報学を、個人、知識情報資源、社会のそれぞれのレベルで展開される知識のサイクルとして組み替えて解説する。図書館情報学（とその発展としての知識情報学）は人間、知識情報資源、社会の各レベルでの固有の課題と、各レベルでの技術的課題、及びレベル間の相互作用をカバーする総合的領域であることに目配りをしながら解説する。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識情報・図書館学類の対象主題領域（図書館情報学とその知識情報学への発展）の概要を理解する。 2. この領域の学問的特性、歴史的発展、方法的特徴を理解する。 				
授業計画	I 知識共有の基礎過程 コミュニケーション、知識と知識共有、情報と情報メディア等 II 知識の形成と共有 知識の表現と解釈、知識形成におけるドキュメント等 III 知識情報資源の構成 知識情報資源、知識情報資源の組織化、計量情報学等 IV 知識情報と資源の技術 知識共有の情報技術、知識情報の蓄積・検索技術、知識情報システムを支える思想と論理、知識発見の技術等 V 社会における知識情報資源の構成と制度 知識・情報共有の社会的制度、図書館の制度と経営、デジタル知識情報資源と知識共有等 VI 知識情報資源の文化 知識表現の文化的側面、知識情報資源とその制度の文化的側面等 附 図書館情報学と関連領域の発展				
成績評価の方法	期末試験による（出席状況が悪い場合はマイナス要因として加味する）。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配付する。また、授業の中で参考書等を紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業後の復習として、毎回の授業内容を A4 用紙数枚程度にまとめて整理する。試験は小論文形式で授業内容を記述する方式とするので、復習をきちんと積み重ねておくこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	横山 幹子	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D405		
授業概要	古代ギリシアに源を発する西洋哲学の歴史を、古代の哲学から現代の哲学まで概観する。また、哲学史を概観するなかで、随時、演繹や帰納、帰謬法などの、論理学の基本的な概念の説明も行う。そして、特に、現代の哲学との関わりにおいて、記号論理（命題論理と第一階の述語論理）の基本的な考え方や表記の方法についても触れる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 西洋哲学史に関する基礎的な知識を習得する。 論理学の基本的な考えを理解する。 「考えること」の意味と重要性について考える契機を得る。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ソクラテス以前の哲学 アテナイ期およびヘレニズム期の哲学 中世の哲学とルネサンス 経験論と合理論（および演繹と帰納） カントとドイツ観念論 啓蒙思想・社会主義・実証主義 功利主義・進化論・新カント派 現象学・生の哲学 実存主義・プラグマティズム 10) 記号論理の基本的な考えと哲学 				
成績評価の方法	出席と学期末の筆記試験による。授業の2/3以上は出席することを前提とする。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定せず、資料を配付する。 参考書は授業において、指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	配布資料の見直しと指示された参考書のうち、興味を引かれたものを読むこと。				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0301 情報基礎

Basics of Information Technology

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	鈴木 伸崇	オフィスアワー と研究室	金 6 限 7D204		
授業概要	情報やデータの表現、メール、Web、インターネット接続などの仕組み、それらを実現するための必要なコンピュータとネットワークに関連した諸要素の原理を概説する。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報やデータの表現の基礎を理解する 2. コンピュータの構成と動作原理の基礎を理解する 3. ネットワークの基礎を理解する 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに <ul style="list-style-type: none"> ・春日キャンパスにおける計算機の利用方法 ・コンピュータで処理できるデータについて 2. 情報の表現(1) 3. 情報の表現(2) 4. ハードウェア 5. アルゴリズムとデータ構造 6. ソフトウェア 7. ネットワーク(1) 8. ネットワーク(2) 9. 情報システムと社会 10. 予備 				
成績評価の方法	出席状況・小テスト(30%)および期末試験(70%)				
教材・教科書・参考書等	授業時に資料を配布する。 参考書：大内東・岡部成玄・栗原正仁，情報学入門，コロナ社，2006				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	資料の PDF ファイルを予め公開するので、事前によく読み内容の理解に努める必要がある。また、授業時に課題を指示する。				
備考 講義のホームページ等	ホームページ： http://klis.tsukuba.ac.jp/jk10/				

GE1 0413

情報基礎実習-1,-2

GE1 0423

Basics of Information Technology Lab. -1, -2

開設学期 曜時限	1 学期 木曜日 1・2 時限 1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7C102	1 年	1 単位
担当教員	逸村 裕 長谷川 秀彦	オフィスアワー 研究室	水 1 限 7D313 水 16:00-17:00 7D211		
授業概要	知的生産のための基礎技術を修得する。情報検索、文献情報管理、文書作成、画像加工、表計算、プレゼンテーション作成、Web ページ作成など、コンピュータを用いた情報処理技術の基礎を実習によって学ぶ。実習には学術情報メディアセンターの教育用計算機システムの Windows を利用する。				
学習・教育目標	知識情報・図書館学類の学生として学ぶべき情報技術の基礎を修得する 図書館及び情報通信技術を用いたデータベースなど、情報検索の基礎を修得する				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な情報処理技術 (3 回) メールをきちんと書く 文書作成 画像加工 PDF 表計算とグラフ作成 2. 図書館と情報検索－基礎 (2 回) WWW, 図書、雑誌記事／論文、新聞記事、辞書、データ、各種情報を探す 筑波大学附属図書館 WWW を使いこなす 情報源と書誌要素 サーチエンジンと二次資料データベースの細かい使い方 Bibliography を作る 3. Web と HTML 言語 (2 回) 4. 図書館と情報検索－応用 (2 回) RefWorks 雑誌記事／論文を探す－続編 図書を探す 5. プレゼンテーションの作成 (1 回) 				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、レポートなどを総合的に評価する 参考：2009 年度は A+(レポートの得点の合計)* 出席回数/B, A, B は定数とした				
教材・教科書・ 参考書等	実習教材は Web ページにて公開、あるいはプリントとして配布する 参考書等は授業時に紹介する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	木曜は 1 年 1・2 クラス対象、金曜は 1 年 3・4 クラス対象 受講定員を超えた場合は知識情報・図書館学類の学生を優先する				
授業外の学習内 容・方法	実習時間外に試行錯誤を繰り返しながら与えられた課題を完成させ、レポートにまとめる なお、実習時間は基本操作をマスターするだけで手いっぱいである				
備考 講義のホームページ等	ホームページ： http://klis.tsukuba.ac.jp/jk10/				

1320 102
1320 202
1320 302
1320 402

フレッシュマン・セミナー

Freshmen Seminar

開設学期 曜時限	1 学期 水曜日 3 時限	教室	7A206,202,203,204 7A205	1 年	1 単位
担当教員	綿抜 豊昭 鎮目 浩輔 松村 敦 村井麻衣子	オフィスアワー 研究室	教員一覧参照		
授業概要	大学と社会の関係や大学における生活，学問に対する取り組み方などについて指導を行いつつ，クラス担任と学生間および学生相互の間のコミュニケーションをはかる。				
学習・教育目標	大学生としての生活や学習態度を身につける 将来の進路を考え始める 同級生，クラス担任との社会的な関係を築く				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム説明・質疑 2. 学生生活を送る上での注意 3. 進路やキャリアの形成を考える (1) 4. 進路やキャリアの形成を考える (2) 5. 附属図書館の使い方 6. クラスの親睦を深める 7. 上級生の話を聞こう (大学生生活とその先にあるもの) 8. 個別面談 (1) 9. 個別面談 (2) 10. 一学期の総括，二学期に向けて 				
成績評価の方法	出席状況、参加態度など総合的に評価する (P または F による評価)				
教材・教科書・ 参考書等	授業時に配布及び紹介する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等	初回は 7A205 に集合				

GE1 0513
 GE1 0523
 GE1 0533
 GE1 0543

情報リテラシ実習-1~-4

Information Literacy Lab.

開設学期 曜時限	2・3 学期 水曜日 3 時限	教室	7A206,202,203,204 7A205	1 年	1 単位
担当教員	綿拔 豊昭 鎮目 浩輔 松村 敦 村井麻衣子	オフィスアワー 研究室	教員一覧参照		
授業概要	レポートライティング、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ディベートなど大学生の 3R's に相当する基本的な知的生産技法を少人数クラスで学ぶ。				
学習・教育目標	大学における学習方法を学ぶ。 レポート作成技術の基礎について実習を通じて修得する。 論理的な文章の作成、Bibliography 作成、基礎的な英文（メール）記述、情報探索の基礎、図書館及び基礎的なレファレンス資料と文献データベースの使い方、グループワークの実践等を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学における 3R's 2. レポート作成の基礎 3. より良いレポートを作成する 4. 図書館を実践的に使う 5. 情報を探索する 6. 情報を分析する 7. 発表する 8. 質問する 9. グループワークによる問題解決を行う 10. ライフデザインとキャリアデザインを検討する 				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、発表、レポートなど総合的に評価する（A~D または X による評価）				
教材・教科書・参考書等	授業時に配布及び紹介する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	3 年次編入生は情報リテラシ実習-5（GE1 0553）を履修すること これ以外の単位未修得者は初回に指定されたクラスを履修すること				
授業外の学習内 容・方法	教科書、参考書の確認とレポート作成				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A205 に集合				

GE1 0612

プログラミング演習 I -1,-2

GE1 0622

Computer Programming Lab. I-1, -2

学期曜時限	2 学期 木曜日 1・2 時限 2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7C102	1 年	2 単位
担当教員	松村 敦 時井 真紀	オフィスアワー と研究室	木 6 限 7D212 火 5・6 限 7D203		
授業概要	コンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得するプログラミング演習を行う。最終的にはプログラムが自分で書けることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・逐次実行の仕組みと多くのデータを繰り返しや場合分けで処理する仕組みを理解する。 ・プログラムの有用性と必要性を理解する。 ・単純な処理を行うプログラムを自力で書ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：自作プログラムでコンピュータを操ることを体験する。 2. プログラミング基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・変数，配列，文字列，クラス ・制御構造（繰り返し，条件分岐） ・メソッド 3. 応用問題による演習 				
成績評価の方法	演習中の課題，レポートと試験を総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	知識情報・図書館学類生に限る。 木曜は1年1・2クラス対象，金曜は1年3・4クラス対象 情報基礎実習で学ぶコンピュータの基本的な操作方法に習熟していることを前提とする。				
授業外の学習内容・方法	配布テキストの予習と復習、数回のレポート課題				
備考 講義のホームページ等	http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/				

GE1 0712

プログラミング演習Ⅱ-1,-2

GE1 0722

Computer Programming : Lab II-1, -2

学期曜時限	3 学期 木曜日 1・2 時限 3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7C102	1 年	2 単位
担当教員	真栄城 哲也 中井 央	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 7D409 金 3 限 7D309		
授業概要	プログラミングの基礎知識を前提として、マルチメディアデータを使うようなより実践的なプログラミング技術を身につける。最終的に問題解決手段としてのプログラミングが行えることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際のデータ（テキスト、マルチメディア等）を扱うプログラムが書ける。 ・ 大きな問題を切り分けることができ、切り分けた問題に対するプログラムが書ける。 ・ プログラムの分かりやすい説明が書ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：自作プログラムで自在にデータを操ることを体験する。 2. 実データの処理 <ul style="list-style-type: none"> ● ファイル入出力 ● テキストデータ処理 ● マルチメディア表現とその処理 3. GUI(グラフィカルユーザインタフェース)プログラム作成 4. 応用問題による演習 				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	知識情報・図書館学類生に限る。 木曜は1年1・2クラス対象、金曜は1年3・4クラス対象 プログラミング演習Ⅰでの学習内容に習熟していることを前提とする。				
授業外の学習内容・方法	配布テキストの予習と復習、数回のレポート課題				
備考 講義のホームページ等	http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/				

GE1 0801 情報数学

Information Mathematics

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	鎮目 浩輔	オフィスアワー と研究室	木 3・4 限 7D314		
授業概要	<p>数学の基礎であり情報科学にも直接的な応用を持つ記号論理、集合と写像、ベクトルと行列の入門的な部分を講義する。基礎的な概念とともに簡単な応用例にも触れる。また数学では手を動かしての習得が不可欠なので、練習問題を多く入れ、授業中にもある程度演習を行う。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的・論理的な考え方を論理の形式論を通してきちんと身につける。 ・ 集合と写像の基礎概念を理解し基本的な演算ができるようになる。 ・ ベクトルと行列の関係を理解し、行列計算ができるようになる。 				
授業計画	<p>I. 論理学の基礎 命題論理、ブール代数、述語論理</p> <p>II. 集合と写像 集合の概念、集合演算、写像、写像の合成と逆写像等</p> <p>III. ベクトルと行列の演算 幾何学的ベクトルと行列、行列の定義、行列の演算（和、差、積、逆行列）、ベクトルの線形変換（回転、拡大など）</p>				
成績評価の方法	試験による。必要に応じてレポートも課す。				
教材・教科書・参考書等	プリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>前提知識 高校数学 A の「論理と集合」 また高校数学 B の「ベクトル」の入門的な事項</p>				
授業外の学習内 容・方法	プリントに練習問題を多く入れるので、それを解きつつプリントやノートで復習すること。				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0911

統計-1,-2

GE1 0921

Statistics -1,-2

学期曜時限	3 学期 水曜日 1・2 時限 1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205 7A105	1 年	2 単位
担当教員	長谷川 秀彦	オフィスアワー と研究室	水 16:00～17:00 7D211		
授業概要	<p>統計はデータの分析と解釈，意思決定において不可欠で，好むと好まざるとにかかわらず日常でも目にするものである。世間には統計のハウツー本があふれているが，大事なことは「統計リテラシー」，「統計的なものの考え方」である。本講義では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にとりあげられたテーマを講義し， ・各自が関連した身近な話題について考える <p>というプロセスを通して，統計の意味，確率，二項分布，正規分布，統計的仮説検定，推計の考え方などを理解してもらう。</p> <p>「自分で試してみる」，「自分で考える」ことが重要なので必ず課題をこなすこと。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計的考え方のマスター：統計量についての基本概念，正規分布 少なくとも「統計でだまされない」，できれば「統計でだませる」ようになってほしい。 ・ 統計的仮説検定の考え方 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 データを図や表にまとめる 2 平均・分散・標準偏差・モード・メディアン 3 相関・回帰 4 確率の考え方 5 正規分布の使い方 6 統計的仮説検定の考え方 7 独立性の検定・母平均の検定・等平均仮説の検定 8 推定 				
成績評価の方法	レポートと試験				
教材・教科書・参考書等	小寺平治，ゼロから学ぶ統計解析，講談社サイエンティフィク，2500 円，ISBN 4-06-154656-2 を教科書とする				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「統計-2」は再チャレンジコースです ・ 卒業予定者は「統計-1」を受講できません 				
授業外の学習内 容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に書いてある式・論理を注意深く読んで理解すること ・ 少なくとも教科書の演習問題は自分で解いてみる ・ 与えられた課題に対して，課題を満足する問題を自分で設定し，解くこと ・ 指定された文献を読むこと 				
備考 講義のホームページ等					

GA1 0101 情報社会と法制度

Information Society Law

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	春日講堂	1 年	2 単位
担当教員	石井 夏生利	オフィスアワー と研究室	火 3 限 7D000		
授業概要	<p>ネットワーク社会における法制度を総合的に学ぶ上で必要な基礎知識を習得することを目指します。ネットワーク社会では、多くの人が利用している情報発信活動や電子商取引、電子政府の構築を目指して推進されている行政の情報化、サイバー犯罪をはじめとする新たな犯罪の出現、ネットワーク社会の安全確保のための情報セキュリティ対策などとの関係において、日々新たな法律問題が発生しています。それに伴い、これらの諸問題に対応すべく新たな法律が制定され、従来の法律も改正されていますが、それらの問題解決に必要な法的枠組みの基本は従来から変わらないものです。そこで、本講義では、法学の世界、憲法、民事法の世界、刑事法の世界、行政法、会社を取りまく法律問題を講義し、現行の我が国の法制度の基礎を学んだ上で、ネットワーク社会における最近の議論を取り上げ、具体的な法的問題をとともに考えていきます。</p>				
学習・教育目標	<p>情報化社会における身近で具体的な法律問題に即しながら、法学の基礎知識と主要な概念や法理を習得することにより、情報化社会において最低限必要な法的知識を身につけます。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 法学の世界 2 憲法(基本的人権、統治機構) 3 民事法の世界(1) 4 民事法の世界(2)(民事訴訟手続の電子化を含む) 5 刑事法の世界(1) 6 刑事法の世界(2)(サイバー犯罪対応、裁判員制度を含む) 7 行政法 8 会社を取りまく法律問題(会社法、消費者問題、労働問題) 9 ネットワーク社会における最近の法的問題(1) 10 ネットワーク社会における最近の法的問題(2) 				
成績評価の方法	定期試験、授業の最後に行う質問用紙への記載により評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>毎回必ず六法を持参すること。デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)等のハンディなタイプで構わない。講義資料は、事前に<http://kabochan.info/>にアクセスし、授業資料をプリントアウトして持参すること。第2回目以降の授業資料については、認証を設けるため、履修予定の者は第1回目の授業に出席し、IDとPWの付与を受けること。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	<p>講義資料に記載されている法令の条文について、電子政府の総合窓口<http://www.e-gov.go.jp/>の「法令検索」を活用し該当条文の内容を講義前に確認しておくこと。</p>				
備考 講義のホームページ等	上記のとおり、講義資料は< http://kabochan.info/ >から入手すること。				

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	佐藤 哲司	オフィスアワー と研究室	月 6・7 限 7D205		
授業概要	<p>情報化社会を迎えて、私たちは様々な形のコンピュータに取り囲まれている。本講義では、1 台のコンピュータの組成、複数のコンピュータを接続するネットワーク、様々な生活の場面で活用されている社会情報システムを概観し、そこで実現されている機能や役割を理解する。</p> <p>情報システムを理解し説明するためには、様々な専門用語を必要とすることから、個々の用語について歴史的な経緯を含めて、それが示す概念を深く理解する。</p>				
学習・教育目標	<p>店頭でパソコンを購入するにも、多様な性能を示す様々な用語を知らなければならない。本授業では、豊かな情報化社会を過ごすために不可欠となった情報システム・社会システムに関する基礎的な知識を修得し、より高度なシステム設計や構築、プログラミングなどへの礎とする。</p> <p>授業は、1 台のコンピュータの成り立ちを学ぶ計算機アーキテクチャ、複数のコンピュータを接続して相互に機能させるためのインターネットプロトコル、社会に組み込まれて機能している社会情報システムの 3 パートからなり、情報システムを体系的に理解することを目標とする。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計算機アーキテクチャ <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス、パソコンカタログの見方 (2) 計算機としてのコンピュータ (3) データ管理のためのコンピュータ (4) 管理するコンピュータ 2. インターネットプロトコル <ol style="list-style-type: none"> (5) イーサネットと TCP/IP (6) ネットワークサービス (7) サーバソフトウェアと認証 3. 社会情報システムの事例 <ol style="list-style-type: none"> (8) 生活の中に浸透する情報通信技術 (9) 社会インフラとなるクラウドコンピューティング (10) まとめ 				
成績評価の方法	期末試験およびレポート等による総合評価。各回とも小テストあり				
教材・教科書・参考書等	主要部分についてテキストを配布します（配布方法は備考欄を参照のこと）。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	<p>情報システムに関する新しい用語、説明がたくさん出てくるのでそれらを使用する場面、文脈、使われ方について復習をしましょう。自分の利用環境について調べて次週までに報告する等の課題も何回か出題されます。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>テキストは http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~satoh/index-j.html から迎れるようにしますので、各自で所定の様式に印刷して持参してください。詳細は第 1 回に説明します。</p>				

学期曜時限	3 学期 火曜日 5・6 時限	教室	春日講堂	1・2 年	2 単位														
担当教員	葉袋 秀樹	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D310																
授業概要	図書館とは何かについて概説し、これからの図書館のあり方を考える。図書館の定義、役割、意義、社会と図書館、図書館の種類、関係法令、運営原理と経営、サービスとネットワーク、地域支援サービス、デジタル図書館とハイブリッド図書館、図書館職員、図書館行政、図書館情報学、図書館関係団体、図書館の歴史について論ずる。																		
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会において図書館が果たすべき役割、果たしてきた役割を理解する。 ・日本の図書館の現状を理解し、図書館を取り巻く社会との関係を考える。 ・社会の変化に対応する図書館の新しいモデルについて考える。 																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 図書館とは何か</td> <td>8. 図書館のサービスとネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2. 図書館の定義と役割</td> <td>9. これからの図書館</td> </tr> <tr> <td>3. 図書館の意義</td> <td>10. 図書館職員</td> </tr> <tr> <td>4. 社会と図書館</td> <td>11. 図書館行政</td> </tr> <tr> <td>5. 図書館の種類</td> <td>12. 図書館情報学</td> </tr> <tr> <td>6. 図書館関係法令</td> <td>13. 図書館関係団体</td> </tr> <tr> <td>7. 図書館の運営原理と経営</td> <td>14. 図書館の歴史</td> </tr> </table>					1. 図書館とは何か	8. 図書館のサービスとネットワーク	2. 図書館の定義と役割	9. これからの図書館	3. 図書館の意義	10. 図書館職員	4. 社会と図書館	11. 図書館行政	5. 図書館の種類	12. 図書館情報学	6. 図書館関係法令	13. 図書館関係団体	7. 図書館の運営原理と経営	14. 図書館の歴史
1. 図書館とは何か	8. 図書館のサービスとネットワーク																		
2. 図書館の定義と役割	9. これからの図書館																		
3. 図書館の意義	10. 図書館職員																		
4. 社会と図書館	11. 図書館行政																		
5. 図書館の種類	12. 図書館情報学																		
6. 図書館関係法令	13. 図書館関係団体																		
7. 図書館の運営原理と経営	14. 図書館の歴史																		
成績評価の方法	試験が中心であるが、あわせて、レポート、出席、授業中の意見発表も考慮する。																		
教材・教科書・参考書等	教科書に準ずる文献を指定する。教材として、講義概要を配付し、関連文献を紹介するほか、関連する新聞・雑誌記事のコピーを配布する。 参考書：『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～』																		
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	毎日、新聞をよく読むことが望ましい。																		
授業外の学習内 容・方法	教科書に準ずる文献、配付資料、関連文献を読む。 授業中に紹介する図書館を見学する。毎日、新聞を読む。																		
備考 講義のホームページ等	担当教員 ホームページ： http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~himinai/ つくばリポジトリ： http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/handle/2241/91043/browse-title																		

GE2 0201 基礎数学 A

Basic Mathematics A

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教 室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワー と研究室	月・火 10:00～11:00 7D202		
授業概要	関数や微積は、必ずしも数学・物理などの自然科学に限られたものではなく、統計処理や情報学、グラフィックスなど様々なところで必要となっている。本講義では、図書館情報学・知識情報学の基礎となる、解析学の初歩を行う。授業では、数学的厳密さを求めるのではなく、これらの数学を使いこなせるように平易に解説するつもりである。また、解析的な解法だけでなく、数値計算に関する解法も時間があれば紹介する				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 関数の概念を理解し初等関数を使いこなせるようにする。 2 微積の概念を理解し、それらに関する具体的問題解決の応用力をつける。 3 実際の計算を通して、基礎的な計算力や技術（工夫）を身につける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 実数の概念・実数の連続性・実数の性質・数列の極限 3 関数（連続関数・逆関数・指数関数・対数関数・三角関数） 4 微分・初等関数の微分・平均値の定理・テーラー展開・微分法の応用 5 数値微分の例 6 積分・初等関数の積分・広義積分・積分法の応用 7 数値積分の例 8 無限級数 				
成績評価の方法	出席（クイズ）、レポート、試験を総合的に評価する				
教材・教科書・参考書等	必要に応じてプリントを配布する。参考図書等は授業時に紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	前提知識は特に必要としないが、高校の数Ⅱ程度の知識を習得している方が望ましい。高校で数Ⅲを履修した者には、復習的な内容である。				
授業外の学習内容・方法	必ずノートを作り、毎回、予習復習をする必要がある。授業中に理解し得なかった部分を各自で調べ理解することも必要である。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	月 17:30～19:30 7D214		
授業概要	<p>図書館情報学の基礎となる数学のうち、線形代数の初歩を講義する。 連立1次方程式の解法であるガウスの消去法を基礎として、抽象的な理論と具体的な計算の結びつきを示しながら、諸概念を論じる。内容の確実な理解のために演習を課すが、その際、「技巧的・場当たりの」な解法を排除し、「アルゴリズム的」な解法が身に付くよう指導する。これは、プログラミングを学ぶ際の基礎的な思考訓練でもある。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校数学の確実な理解を土台として、線形代数における基本的諸概念を理解する。 ● 問題解決のための計算が確実に実行できるようにする。 ● 数学の答案の記述法およびレポートのまとめ方を身に付ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガウスの消去法 連立1次方程式の代表的な解法であるガウスの消去法を用いて、連立1次方程式が確実に解けるようにする。「軸選択」の手順を通して、「すべての場合に適用できる一般的な手続き」のための思考方法を指導する。 2. 実数ベクトル空間と線形写像、行列 ベクトルの1次独立性・行列の正則性・逆行列・行列の階数とゼロ空間の次元などの概念を論じる。具体的な計算はすべて、ガウスの消去法に帰着させる。 3. 行列の固有値・固有ベクトル、行列式 まず、固有値・固有ベクトルを定義に基づいて直接求める方法を示し、固有値を特性方程式の根として位置づけるために、行列式を導入する。行列式の計算においても、ガウスの消去法に基づいた方法を用いる。 <p>内容の確実な理解のため、各自における講義時間以外の演習を重視する。</p>				
成績評価の方法	複数回のレポートと試験の結果をあわせて評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書：村田健郎 『線形代数と線形計算法序説』 サイエンス社 (1986) 教科書：岡本和夫 『行列と1次変換』 実教出版 (1998) 教科書：佐藤文広 『数学ビギナーズマニュアル』 日本評論社 (1994)</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ● GE1 0801 「情報数学」の単位取得者に限る。 ● 高校数学 I,A,II,B までの知識が確実に使いこなせることを前提とする。 ● 履修希望者が100名を大幅に超えた場合は、知識情報・図書館学類1年次生を優先として、人数制限を行う可能性がある。 				
授業外の学習内容・方法	授業内容に関連する課題をほぼ毎週示す。期末試験を受けるためには、それまでのすべてのレポートが提出済みで、かつ合格点を獲得している必要がある。				
備考 講義のホームページ等					

2 年次科目

GE1 1012

知識情報演習 I -1,-2

GE1 1022

Knowledge Information Resources Lab. I-1, -2

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限 1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7C102	2 年	2 単位
担当教員	谷口 祥一・阪口 哲男 原 淳之・鈴木 伸崇	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	知識資源の組織化とそのメタデータ作成，検索システム構築などの概要理解を目的として，知識資源に対するメタデータ（図書館目録用書誌レコード，ダブリンコア・メタデータなど）の作成演習と，作成したメタデータの検索システム構築演習を行う。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・標準的な書誌レコード（図書館目録用）の作成法について理解し，書誌レコードと著者名典拠レコードの作成が行えること ・ダブリンコア・メタデータの作成法について理解し，同メタデータ作成が行えること ・書誌レコード用のデータベースを構築できること ・構築したデータベースに対する検索システム（検索インタフェース）を構築できること 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (1) 2. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (2) 3. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (3) 4. 日本目録規則を用いた書誌レコード作成 (4) 5. ダブリンコア・メタデータの作成 6. OPAC 構築 (1) 7. OPAC 構築 (2) 8. OPAC 構築 (3) 9. OPAC 構築 (4) 10. OPAC 構築 (5) 				
成績評価の方法	レポート（100%）。レポート評価の観点は指示事項について妥当な処理が行われているか，考察は十分に展開されているかなど なお，著しく低い出席状況については加味（減点）することもある				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配布する				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	<p>2 年 1・2 クラスは火曜クラス，3・4 クラスは水曜クラスを受講すること （ただし，1・2 クラスで，情報基礎を履修する者は水曜クラスを受講して良い。3・4 クラスで，社会の教員免許取得中の者は火曜クラスを受講して良い）</p> <p>1) 「知識資源組織化論」を履修している（履修中である）ことが望ましい。2) 「データベース概説」を履修している（履修中である）ことが望ましい。3) 「プログラミング演習 I・II」を履修し，Ruby 言語でプログラミングできることを前提に進める。</p>				
授業外の学習内容・方法	指示された演習課題の処理 レポートは 3 回程度課す予定				
備考 講義のホームページ等	知識情報・図書館学類 2 年次生以外の受講希望者は，4 月 12 日までにメールで受講の意思と出席する曜日（火曜または水曜）を必ず連絡すること（メール送付先：taniguch@slis.tsukuba.ac.jp）				

GE1 1112

知識情報演習Ⅱ-1,-2

GE1 1122

Knowledge Information Resources Lab. II-1,-2

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限 2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A102 7C102	2 年	2 単位
担当教員	原 淳之・芳鐘冬樹 原 淳之・辻 慶太	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	本授業の前半では冊子体、オンラインデータベースなど図書館のレファレンスサービスで必要な各種情報源の概要や使い方を学ぶ。後半では HTML、CSS 及び Web での公開方法の基本を学び、かつ前半で習得した知識技能を生かしながら、いくつかのテーマに関するパスファインダーを作成する。レファレンスサービスには(1)利用者が求める情報・資料の直接的提示、(2)利用案内、(3)二次資料の作成、などが含まれるが、本授業の前半部分はこれら全体の基礎に関連し、後半部分は主に(3)に関連することになる。				
学習・教育目標	本授業では主に以下の知識・技術の習得を目指す： ・レファレンスサービスの基本となる各種情報源の概要及び利用方法 ・パスファインダーの定義・内容と日本における概況 ・HTML、CSS、Web 公開に当たっての基礎的知識				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) レファレンスサービスの基本となる各種情報源の概要 (2) 各種情報源の利用法 1 (図書・叢書の情報源) (3) 各種情報源の利用法 2 (新聞・雑誌の情報源) (4) 各種情報源の利用法 3 (言語・文字、事物・事象の情報源) (5) 各種情報源の利用法 4 (歴史・日時、地理・地名、人物・人名の情報源) (6) パスファインダーの目的・定義 (7) パスファインダーの評価法 (8) 印刷体パスファインダーの作成 (9) Web 版パスファインダーの作成 (HTML の理解) (10) Web 版パスファインダーの作成 (CSS の理解) 				
成績評価の方法	出席と授業参画度 (30%)、レポート (40%)、試験 (30%)。レポートについては、出題意図と必要とされるツールの理解、様式がポイントとなる。				
教材・教科書・参考書等	授業開始時に指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年 1・2 クラスは火曜クラス、3・4 クラスは水曜クラスを受講すること (ただし 3・4 クラスで、社会の教員免許取得中の者は火曜クラスを受講して良い)				
授業外の学習内容・方法	教科書、参考書、配布資料掲載ツールの確認とレポート作成				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A102 集合				

GE1 1212

知識情報演習Ⅲ-1,-2

GE1 1222

Knowledge Information Resources Lab. III-1, -2

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限 3 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7C102	2 年	2 単位
担当教員	緑川 信之・上保 秀夫 吉田 右子・辻 慶太	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	<p>前半は主題分析のツールと方法について学ぶ。主題分析とは、文献が扱う主題を明らかにし索引語、分類記号、要約などの形で表現することである。主題分析のためのツールにはシソーラスや分類表がある。これらのツールを用いて主題分析の演習を行う。</p> <p>後半は情報検索システムの構築について学ぶ。具体的には、自動インデクシングや検索エンジンの構築に関するプログラミング演習を行う。</p>				
学習・教育目標	<p>前半は、主題分析ツールの構造と使用法を習得し、主題分析のプロセスを理解することを目標とする。</p> <p>後半は、情報検索システムの仕組みについて理解し、自分である程度のプログラミングができることを目標とする。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主題分析(1) 2. 主題分析(2) 3. 主題分析(3) 4. 主題分析(4) 5. 主題分析(5) 6. 情報検索システム構築(1) 7. 情報検索システム構築(2) 8. 情報検索システム構築(3) 9. 情報検索システム構築(4) 10. 情報検索システム構築(5) 				
成績評価の方法	出席（30%）とレポート（70%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業時間に提示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年 1, 2 クラスは火曜クラスを受講し、3, 4 クラスは水曜クラスを受講すること。 (ただし、3, 4 クラスで社会の教員免許取得中の者は火曜クラスを受講して良い)				
授業外の学習内容・方法	演習資料の予習・復習、レポートの作成を行う。 レポートは 1 回から数回に一度を目安に出す。				
備考 講義のホームページ等					

GE1 1312

専門英語 I -1,-2

GE1 1322

English for Specialized Subjects I-1,-2

学期曜時限	1～3 学期 水曜日 4 時限 1～3 学期 水曜日 3 時限	教室	7A101	2 年	1.5 単位
担当教員	田中 裕司	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	大学で専門科目を学習・研究していくとき、英文の読み書きは避けて通ることはできない。この授業では、論文・レポートにおいて理路整然とした議論を展開するのに不可欠な知識と技法を養うため、いくつかの題材について英文を読み、書く練習を行なう。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい（伝えなければならない）内容を平易な英語で表現できるようになること ・ 読み手が納得するような形で話が進められるようになること。 ・ きちんとした書式に従って文書が作成できるようになること。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章を読み、正確に内容を把握するために、語彙の意味と使い方、英語らしい表現方法、話の組み立て方を学習する。 2. その主題について、さらに知りたいことや知っておくべきことをインターネット、新聞・雑誌記事、その他の情報源を使って調べ、理解を深める。 3. 収集した情報を整理・分析して意見をまとめ、口頭で発表したり、文章にしたりする。 				
成績評価の方法	評価は主に各学期末に提出される課題作文に基づいて決める。				
教材・教科書・参考書等	教科書：初回の授業で指示する 参考書：長部三郎. 2001. 『伝わる英語表現法』岩波新書 765. 辞書：①英英辞書（ <i>Collins COBUILD Dictionary for Advanced Learners, Longman Dictionary of Contemporary English</i> など）②連語辞書（『研究社新編英和活用大辞典』など）				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	水曜 4 限 (I-1) は 2 年 1・2 クラス対象、水曜 3 限 (I-2) は 2 年 3・4 クラス対象。				
授業外の学習内容・方法	予習・復習は必ずすること。なるべく英和・和英辞書に頼らず、英英辞書・連語辞書を使って、より正確に内容を把握・表現する力を養ってほしい。新たに電子辞書の購入を考えているのであれば、少なくとも①が収録されているものを検討してほしい。授業には必ず辞書を持参すること。				
備考 講義のホームページ等					

GE1 1412

専門英語Ⅱ-1,-2

GE1 1422

English for Specialized Subjects II -1, -2

学期曜時限	1～3 学期 金曜日 3 時限 1～3 学期 金曜日 4 時限	教室	7A104	2 年	1.5 単位
担当教員	トルファシュ, リアナ	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	この授業の第一の目的は、英文の読解力を強めることであるが、さらに、読む文献を通して欧米文化に関する知識や関心を増すことも大切である。そのため、取り扱う英語文献（新聞やウェブサイトの記事、論文、書物など）は主として二種類で構成する。すなわち、1）日常生活および現代社会に関するもの、2）欧米文化、とりわけ中世ヨーロッパ（ステンド・グラス、写本、音楽、大学のはじまりなど）に関するものである。これらの文献を講読することによって、会話的な文体から学問的な文体にかけての、英語の幅広い言い回しや語彙を獲得することが期待される。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い英語文献の講読を通して、英文の特殊な構造への理解を深め、語彙を増やす。 英文の意味やニュアンスをできるだけ正確に日本語に訳すには、文脈を特に大事にすることの重要性を講読する中で知る。 時には英文は誤って翻訳されることもあるが、可能な限りその理由を明らかにすることの大切さを知る。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、次の授業で取り扱う二つの英文資料のコピーを配布し、課題として、その一部（示された箇所）を全員が日本語訳し、期日までにメールで提出する。 2. 授業では、担当者となる三、四人の学生が示された英文箇所と訳を読み、その訳の内容把握、正確さ、問題点などに関して他の学生たちと質疑応答を行う。 3. 英文資料の他の箇所を、学生と一緒に直接に訳すことを試みる。 4. 時折、中世ヨーロッパに関するテーマについては、英文に加えて造形芸術のカラー資料、CD、ビデオなどを紹介する。 				
成績評価の方法	出席・提出された課題の結果・授業への積極的参加に見られるそれぞれの状況及び試験の成績を考慮に入れて評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業計画に沿い、必要に応じて授業時に提示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	金曜3限（II-1）は2年1・2クラス対象、金曜4限（II-2）は2年3・4クラス対象。				
授業外の学習内容・方法	毎回、次の授業で取り上げる英文のコピーを配布する。課題としてその一部を全員が日本語に訳し、期日までにメールで提出すること。				
備考 講義のホームページ等					

GA1 0201 知的財産概論

Introduction to Intellectual Property

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	春日講堂	2 年	2 単位
担当教員	松縄 正登 村井 麻衣子	オフィスアワー と研究室	木 5 限 7D502 木 14:00～15:00 7D506		
授業概要	知的財産に関する法制度を主要な概念や法理に基づいて学ぶ。著作権法、特許法を中心に、不正競争防止法、商標法、意匠法、実用新案法など、知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、知的財産法の法技術的な特色を理解する。				
学習・教育目標	知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、現代における望ましい制度のあり方について考察し、情報の保護と利用についてのバランス感覚や、問題解決能力を身につけることを目的とする。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産法概論 ・ 法律を学ぶための基礎知識（法令・六法、判決について） ・ 不正競争防止法の概要 ・ 著作権法の概要 ・ 商標法の概要 ・ 意匠法の概要 ・ 実用新案法の概要 ・ 特許法の概要 				
成績評価の方法	主に試験による。その他、小テスト、出席、授業態度等を考慮する予定。				
教材・教科書・参考書等	教科書：田村善之、知的財産法 第4版、有斐閣、2006 六法（詳細については授業で指示する） 参考書：青山紘一、特許法第12版、法学書院、2010 松縄正登、特許審判—法理と実務—、朝倉書店、2008 中山信弘、工業所有権法(上) 第2版、弘文堂、2000				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「情報社会と法制度」を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内 容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習として：教科書、参考書などを読み、内容を把握する ・ 復習として：授業内容を教科書等に照らして確認する、授業で示された論点を自分なりに検討する、判決原文にあたって理解を深める ・ 試験（及び小テスト）に向けて、講義内容を復習すること 				
備考 講義のホームページ等					

GE2 0401 量的調査法

Quantitative Survey

学期曜時限	2 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	歳森 敦	オフィスアワー と研究室	木 9:30～11:30 7D114		
授業概要	質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の方法論と、結果の分析のための一連の統計的手続きを学ぶ。具体的には、調査の計画、標本抽出の方法、調査票の設計、調査の実施から、データの入力、結果の集計、調査結果の報告に至る一連のプロセスを、演習を交えつつたどる。				
学習・教育目標	一般的な量的調査の方法を理解し、その結果を批判的に評価できる。 量的調査の企画と実行のための基礎知識を身につけ、適切な指導の下で調査ができる。 調査結果の情報処理手順を理解し、定型的な報告書を作成することができる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 質問紙調査の方法 2) 標本の抽出方法 3) 調査テーマの設定 4) 調査票の作成 5) 調査票の作成 6) 結果の入力 7) 結果の単純集計・グラフ化 8) 結果の集計・分割表 9) 結果の集計・相関 10) まとめ 				
成績評価の方法	試験				
教材・教科書・参考書等	原純輔，浅川達人，改訂版 社会調査，放送大学教育振興会，2009，250p.				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	より高度な分析のために「多変量解析」の履修を，関連科目として「質的調査法」の履修を勧める				
授業外の学習内容・方法	毎回，教科書の指定箇所までを予習してくること。復習のための宿題あり。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A103	2 年	2 単位
担当教員	田村 肇	オフィスアワー と研究室	水 10:00～11:30 311		
授業概要	<p>情報社会を生き抜いていくために我々に必要となる基本的な能力の一つとして、客観的なデータに基づく分析能力がある。本授業では、データ分析に用いられる有力な手法の一つである多変量解析について解説する。授業は講義によって行うが、あまり理論的になりすぎないように配慮し、さまざまな多変量解析の手法が、現実のどのような問題にどのように適用可能であるかということの解説を中心に行う。また、分析を行う際に必要となる実際的な知識も解説する。</p>				
学習・教育目標	<p>なんらかの現象（特に社会現象）が、何故、どのように生じているかを客観的に記述し説明するための基礎的な知識と技術が身につく。また、分析を通じて予測を行うための能力も得ることができる。原則的に演習は行わないが、分析のためのツール（ソフトウェア）の使用方法についての解説は授業で行い、実際に課題をツールを用いて解き、レポートとして提出してもらうので、実際的なデータ分析の技術も身につく。</p>				
授業計画	<p>第1・2週 多変量解析を理解するために必要となる主に統計学の知識の復習 第3週 多変量解析をパソコンで行うための各種ツールの使い方の紹介 第4週 回帰分析と判別分析 第5週 主成分分析と因子分析 第6週 クラスター分析と潜在クラス分析 第7週 事例研究1（現実の問題をどのように多変量解析で分析するか） 第8週 事例研究2 第9週 より進んだ話題（アソシエーションルール） 第10週 さらに進んだ最近の話題</p>				
成績評価の方法	<p>成績は、レポート、試験、出席によって総合的に決定する。ウェイトはレポート50%、試験50%であり、出席は足切りに用いる。レポートはデータをコンピュータで分析し、結果をまとめてもらう。</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>基本的にプリントを配布する。 参考書としては、「Rによるデータサイエンス」（金明哲著 森北出版）を紹介しておく。レポートの課題を解くときに役に立つ。その他の参考書などは授業中に紹介する。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<p>授業中に指定しない限り予習の必要はない。レポート課題を3～4回課す予定なので、それを作成するためにかなりの労力を要すると思う。（1回15～20時間程度）</p>				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	岩澤 まり子	オフィスアワー と研究室	随時 7D304		
授業概要	情報探索の基本的な方法・理論を、情報の分析・加工・蓄積・探索・アーカイブなど情報探索に関わる組織化、および再発見の両プロセスについて、利用者の探索行動の特性および情報要求と関連付けながら学ぶ。また、情報探索戦略については、図書館情報学分野の代表的なデータベースを取り上げ、実践的な方策を解説する。				
学習・教育目標	情報探索の基本を理解する。 情報探索戦略を策定できるようになる。 卒業研究に必要な先行研究論文が、調査できるようになる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報探索とは 2. 情報探索の歴史 3. 情報の組織化と再発見のプロセス 4. シソーラス 5. 情報探索に関わる規格 6. 情報探索の流れ 7. プレサッチインタビュー 8. 情報探索戦略の策定 9. 検索結果の評価 10. 情報検索システム 				
成績評価の方法	出席状況、小レポートおよび学期末試験の成績により、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料はプリントとして配布する。また参考書および関連文献は、講義の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	復習を行ない、理解できなかった点を明らかにして、授業に出席して下さい。情報探索に対する理解を深めるために、図書館情報学分野のデータベースを使用した情報探索を、三回程度、宿題として課します。また宿題の一部は、小レポートとして提出していただきます。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	武者小路 澄子	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D516		
授業概要	<p>人文・社会科学における調査方法としての質的調査法について、その基本的考え方と手法を理論的・実践的に学ぶ。質的調査法が前提とする「研究とは何か」、そこで基盤とされる諸々の研究上の立場 — 方法論 (methodology) — も射程に入れ、代表的な調査・分析方法を具体的に習得する。</p> <p>質的調査法は、未知で複雑な現象に対して、調査者が予め意識化していなかったことを多層的に発見するのに有効であり、また人々が現実世界をどのように認識し、意味付けし、言語化しているか、等についての洞察を深めることが可能である。一方で、調査や分析における“客観性”や“妥当性”が問われることも多いため、こうした問題を整理して扱い、研究成果の提示方法についても検討する。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査法とは何か、その基本的立場や考え方について理解する ・ 具体的な諸手法について学び、これらを用い方・有効性・用いる上での留意点などの基礎知識を身に付ける ・ 自らの調査課題について、具体的に諸手法の適用・応用を検討する ・ 具体的な事例の中から、どのような課題にどういった手法が適切であるか、どのような成果はどのような提示の仕方が有効かなどを整理・判断する能力を身につける 				
授業計画	<p>以下の課題を順に取り上げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質的調査法とはどのような方法か 2. 調査方法とその実践計画、具体例 (インタビュー調査、参与観察、エスノグラフィ、ライフヒストリーとオーラルヒストリー、ドキュメント分析等、フィールドワークにおける代表的調査方法を取り上げる) 3. 調査に関する基本用語、調査上にあたっての理論的背景と立場 4. 分析方法とその方法論的立場、具体例 (データとその解釈、コーディング、内容分析、会話分析、談話分析、映像資料の分析等と方法論的立場を取り上げる) 5. 質的調査法による研究成果の提示 (研究の評価基準、倫理的問題、プレゼンテーションに関して取り上げる) 6. 質的調査の選択と意義 				
成績評価の方法	学期末試験				
教材・教科書・参考書等	授業中に配布するプリントおよびプリントにて参照する文献				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	プリントと講義中に説明したこと・考えてみるように促したことについて理解し考えてください。特に、卒業研究で質的調査を用いる場合自分だったらどうするかを必ず考え、そのために準備段階として必要な知識・技能を上記の教材を基に出来る限り実践して身につけてください。				
備考 講義のホームページ等	プリント以外に講義で説明することがあるので講義ノートを取るようになさってください。				

学期曜時限	3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	松林 麻実子	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D111		
授業概要	<p>情報行動とは、コミュニケーションやメディアの利用など、人間が情報と関わる行為全般を指す。すなわち情報行動とは、人間が日常的に行っている様々な行為のうち、特に重要なものの一つである。本講義では、そのような人間の行為がこれまでどのように研究されてきたのか、ということ概観するとともに、自分が日頃行っている情報行動を様々な方向から解釈してみることが目的とする。昨今、様々な文脈で話題になる新規メディア（Google や SNS など）を題材にするなど、出来る限り身近な事例を取り上げながら分析を進めていきたい。</p>				
学習・教育目標	<p>本講義は下記のような知識や能力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館情報学領域で発展してきた情報行動研究の系譜を知っている ・自らの行動をモデル化（＝構成要素とその関係に分解）してとらえることができる ・論理的に思考することや学術的な文章を書くことができる 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：情報行動とは 2. 情報通信モデルとコミュニケーションモデル 3. 情報行動の契機となる要素／情報行動を表現したモデル 4. 認知的観点からとらえる情報行動 5. 社会的観点からとらえる情報行動 6. 情報行動を様々な視点から解釈してみる 7. 技術決定論的メディア観からみる人間とメディアの関係 8. 社会に埋め込まれたメディア観からみる人間とメディアの関係 9. 人間とメディアの関係を様々な視点から解釈してみる 10. まとめ 				
成績評価の方法	<p>授業期間中に課す 3 回程度のレポートによる。レポートの採点基準は、1)学術的な文章を書いているかどうか、2)自分の行動を概念図や専門用語を使って説明することができるかどうか、3)指示した形式にしたがっているかどうか、である。提出期限は厳守するものとし、指定した期限までに提出されなかったレポートが一つでもあった場合、授業を放棄したものとみなす。出席状況を評価に加味するかどうかは初回の授業において受講生と相談の上決定する。</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は特に指定しない。ただし、毎回、次の授業までに読んでおくべき関連文献を指示するので、それを読んだ上で授業に臨んでもらいたい。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<p>レポートを 1 ヶ月に 1 本程度のペースで課す予定。分量はどれも A4 判 2～3 枚程度のものとする。ただし、第 1 回レポートの出来や講義における受講生の反応などを見ながら、第 2 回以降のレポートの内容や分量を変更する可能性もある。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>現象学、心理学、認知科学、社会学など多様な領域の考え方を駆使しながら、人間の情報行動について考える講義です。図書館情報学に限らず、様々なバックグラウンドを持った学生を歓迎します。</p>				

学期曜時限	1 学期 月曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	中山 伸一	オフィスアワー と研究室	月 1・2 限 7D410		
授業概要	我々が知的活動を行っていく上において、課題やその解決法の発見は欠くことのできない要素であり、その能力を開発する事は、研究や社会生活をおくる上で有用である。この授業においては、創造性の科学について概観するとともに、各種の創造性開発技法を紹介し、その実践を行うことにより、問題発見や課題解決における創造的思考を身につけさせる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創造性とは何かを理解する ・創造的な問題発見や課題解決の方法を身につける ・創造的な心を養う 				
授業計画	1 : 創造とは 2 : 創造性の科学 3 : 創造性の測り方 4 : 自由連想法 (ブレインストーミング) とその実践 5 : 強制連想法 (チェックリスト法) とその実践 6 : 類比法 (シネクティクス法) とその実践 7、8 : KJ 法とその実践 9 : PERT 法とその実践 10 : その他の技法				
成績評価の方法	出席および実践への取り組み状況、レポート、試験をそれぞれ等価に評価する。なお、レポートは技法毎に提出させるが、技法の理解を中心に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：『創造的能力：開発と評価』佐藤三郎, 恩田彰共編. 東京心理, 1978. 『発想法』川喜田二郎著. 中央公論社, 1967 (中公新書:136). 『続発想法』川喜田二郎著. 中央公論社, 1970 (中公新書:210).				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	各種技法については、あらかじめどのようなものを調べさせる。授業中に実践を行うが、そのまとめを授業後に行わせる。これらについては5回程度をレポートとして提出させる。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	谷口 祥一 緑川 信之	オフィスアワー と研究室	火 6 限 7D303 随時 7D306		
授業概要	知識資源の組織化全体を概観するとともに、主に効果的かつ効率的な利用を目的として行われる広義のメタデータを用いた組織化について学習する。具体的には、対象とする知識資源の分析や記述に基づく組織化について基本的な考え方を学ぶ。				
学習・教育目標	知識資源の組織化に関する基本的な考え方、および、メタデータ、固有名称管理、分類、索引、要約など組織化のための様々な手法・技術について理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識資源組織化の概要 2. 図書館目録のメタデータ 3. 固有名称管理（典拠コントロール） 4. ダブリンコア・メタデータ 5. 検索システム 6. 分類 7. 索引 8. 要約 				
成績評価の方法	レポート（30%）、筆記試験（70%）。レポート評価の観点は指示事項について妥当な処理が行われているか、考察は十分に展開されているかなど なお、著しく低い出席状況については加味（減点）することもある				
教材・教科書・参考書等	[教科書] 谷口祥一、緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房、2007 その他、適宜プリントを配布する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業内容の再確認による復習、教科書の該当箇所の内容確認による復習 レポートは、2 回程度課す予定				
備考 講義のホームページ等					

GE2 1101 データベース概説

Introduction to Databases

学期曜時限	1 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A205 7C102	2 年	2 単位
担当教員	宇陀 則彦	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D210		
授業概要	<p>“データベース”という言葉は、データを指す場合もあればシステムを指す場合もあり、文脈によって意味が異なる。本講義では、データベースの基礎概念を学ぶことで、知識資源システムの基礎となるデータベース技術を総合的に理解する。具体的には、データベースの定義と種類、データモデリングの考え方、リレーショナルモデルの基礎、データベース管理システム(DBMS)の基本機能、データベース設計と管理などを講義と演習を通じて学ぶ。</p>				
学習・教育目標	<p>図書館情報学を学んでいると“データベース”という言葉がたくさん出てくるが、データベースの基礎概念を学ぶことで、単なるデータの集まりとデータベースの違いがわかるようになる。また、データベースが知識情報システムにおいてなぜ不可欠な技術なのかも理解できる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースの意義 2. データベースの実際(1) [演習] 3. データベースの実際(2) [演習] 4. リレーショナルデータベース (1) 5. リレーショナルデータベース (2) 6. データベースの設計 (1) 7. データベースの設計 (2) 8. データベースの設計 (3) 9. データベース管理システムの機能 (1) 10. データベース管理システムの機能 (2) 				
成績評価の方法	試験				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内 容・方法	データベースに関する図書は非常に多く出版されているので、最もわかりやすいと思ったものを選ぶ。本を選ぶのも勉強の一部である。前もって読んでおけば授業はすらすらと理解できる。				
備考 講義のホームページ等	講義のページ http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/lecture/				

学期曜時限	2 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D312		
授業概要	コンピュータシステムとネットワークについてその基本構成と動作原理について学ぶ。コンピュータシステムのハードウェア構成要素の概要を示し、それと関連付けながらプログラムやデータ等のソフトウェアについて解説する。またネットワークについてはインターネットを事例とし、コンピュータシステム間のデータ送受の基本的な手順とそのための通信規約の役割について概説する。そして総括としてコンピュータシステムとネットワークを組み合わせた活用事例を紹介する。				
学習・教育目標	以下の事項に関する基本原理と実際について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータのハードウェア構成 ・ コンピュータソフトウェア ・ コンピュータネットワークとプロトコル(通信規約) 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基本構成 2. コンピュータにおける情報の表現とその処理 3. 記憶装置と入出力装置 4. ソフトウェア 5. コンピュータネットワークとプロトコル 6. インターネットとは 7. ネットワーク事例: WWW と電子メール 8. セキュリティなど諸問題 				
成績評価の方法	筆記試験				
教材・教科書・参考書等	教科書: 趙華安 著. コンピュータとネットワーク概論. 共立出版. ISBN 4-320-12148-1. 補足資料は随時配布する				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	情報基礎、情報基礎実習、プログラミング演習 I および II についての履修を終えていることを前提として授業を進める				
授業外の学習内容・方法	教科書のほかに授業内容に関する有益な情報資源を紹介し、各自の予習復習を促す。				
備考 講義のホームページ等	講義情報 Web ページ: http://www.sakalab.org/lectures/				

GE2 1301

自然言語解析基礎

Foundations of Natural Language Analysis

学期曜時限	3 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員		オフィスアワー と研究室			
授業概要					
学習・教育目標					
授業計画					
成績評価の方法					
教材・教科書・ 参考書等					
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	春日講堂	2 年	2 単位
担当教員	後藤 嘉宏	オフィスアワー と研究室	木 2 限 7D513		
授業概要	<p>社会学の基礎を学び、それにあわせて情報メディアの比重が大きくなった現代社会を見る目を養おうとする授業科目である。</p> <p>この授業では、社会現象を捉える際の、社会学的な物の見方（方法論・捉え方）を学ぶ。特に図書館やマスメディア、インターネットを文科系的に研究する際、アンケート調査やインタビュー調査等を行うことが多いと思われる。そういった調査を行う場合の基本的な考え方、背景にあるものの捉え方を学ぶ授業である。</p> <p>それら社会学的な物の見方の修得を経て、メディア社会といわれる現代社会の根本的な流れを受講生各自が自分なりに捉えることを目指す。</p>				
学習・教育目標	<p>社会学的なものを見方を学ぶことによって、論理的かつ柔軟に社会を見る眼を養おうとするものである。また世の中の動きを斜に構えた視線から眺め、なにものにも騙されない批判精神が身につく。</p>				
授業計画	<p>第1週 1. 社会学とは？－その学際性と固有性（1）</p> <p>第2週 1. 社会学とは？（2）</p> <p>第3週 1. 社会学とは？（3）</p> <p>第4週 2. 行為の意味理解について</p> <p>第5週 3. 属性的な理解</p> <p>第6週 4. 性別</p> <p>第7週 5. 年齢</p> <p>第8週 6. 学歴</p> <p>第9週 7. 職業と地位、収入</p> <p>第10週 8. メディアと現代社会（詳細は情報メディア創成学類の本科目のシラバス参照）</p>				
成績評価の方法	<p>平常点（出席点・質問頻度）と最終試験結果を加味する。最終試験の評価の観点は、授業内容の適切な要約がなされているか否かと、授業内容への批判の鋭さや適切性、あるいはそれらを補足し発展させる際の説明の独自性等である。これらをあわせて評価する。</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は使わない。授業直前に配付資料を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップするが、あくまでも参考で、基本は板書。後藤は板書魔だ。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>特に本科目を受講するに際して、予備知識はいらない。</p> <p>ただし知識情報・図書館学類の「量的調査法」「質的調査法」「メディア社会文化論」を履修する人にとって、それらの前提となる（あるいは相互に関連する）科目といえる。</p> <p>また本科目の前提知識ではないが、「メディア社会学」を将来きちんと学ぶためには、「統計学」「多変量解析」あるいは上記「量的調査法」などを履修して、統計的手法に精通するか、「質的調査法」を履修して、質的調査を熟知しておくことが望まれる。</p>				
授業外の学習内 容・方法	<p>単位の実質化に向けて次のようなことを想定している。1. 授業で説明した専門用語の簡単な説明のための小テスト。これは必ずしもペーパーテストの形式に限らず、出欠表で任意に当てた受講生に、答えさせる方式も想定できる。2. 授業の進捗状況によっては、配付資料の一部分を事前に受講生に読んでおいてもらい、受講生数名ずつグループを組んで貰って、配付資料の知識を前提にした新たなテーマについて討論させ、その結果を授業時間内に発表させる時間を用意する。最低限、配付資料等の予習・復習をきちんと行うことで、上記1, 2には対応できる。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>「教材・教科書・参考書等」の項にも記したが、本授業科目の配付資料等を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップの予定。</p>				

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D113		
授業概要	この講義では、図書館の経営や情報システムの構築に必要な、経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎を概説する。経営管理機能は、一般に人々が共通の目標を達成するために協同で活動する場合に、常に存在する機能である。そこで、この講義では、経営管理一般についての入門的解説に重点を置いて講義を展開し、あわせて、経営管理論の視点から図書館や情報システムのとらえ方について解説する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の経営や情報システムの構築に必要な、経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎知識を理解することができる。 ・人々が協同で活動する際の組織とそれを取り巻く環境について、経営学の視点から考察することができる視野を養うことができる。 ・「経営学検定試験（初級）」に自学自習で取り組めるような、経営学の入門知識を身につけることができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「経営・組織論」のガイダンス 2. 経営管理とは 3. 経営組織体としての図書館や情報システム 4. 経営の計画 5. 組織化 6. 組織の運営 7. 経営コントロール 8. 経営と情報 9. 「経営・組織論」の総まとめ(1) 10. 「経営・組織論」の総まとめ(2)：経営学検定試験 11. 「学期末試験」・「授業評価」 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況と授業参画度（発表）（約 20%）、課題レポート（約 30%）、学期末試験（持込不可）（約 50%）によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。 				
教材・教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：塩次喜代明ほか著. 経営管理. 新版. 東京, 有斐閣, 2009.4, xviii,308p. (有斐閣アルマ) ・教科書：野中郁次郎, 紺野登. 知識経営のすすめ：ナレッジマネジメントとその時代. 東京, 筑摩書房, 1999.12, 238p. (ちくま新書, 225) 				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年次以上の学生のみ対象。 ・履修希望者は、TWINS で早めに履修申告をして下さい。 				
授業外の学習内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を必ず復習する。 ・教科書や課題文献の指定箇所を必ず読む。 ・新聞を毎日読む。 ・課題レポートに取り組む。 				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回目の講義開始までに、必ず教科書を購入し、講義に出席すること。 ・毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の講義を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講すること。第 1 回から出席することを前提に講義は組み立てられているので、出席していないと不利になります。課題レポートの提出の遅れは、認めないので注意すること。 				

学期曜時限	2 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	池内 淳	オフィスアワー と研究室	火 3・4 限 7D413		
授業概要	本講義は、(I) 経済学の概要 (第 1 回～第 3 回)、(II) ミクロ経済学 (第四回～第七回)、(III) 公共経済学 (第八回～第十回) の III 部構成です。(I) では、経済学の学説史的系譜を学習し、経済学の現在的意義を理解します。(II) では、消費者の理論・生産者の理論・市場均衡・余剰分析といったミクロ経済学の基礎的概念について講義と演習を行います。それを踏まえて、(III) では、市場が失敗する諸条件と、その対処法について解説します。				
学習・教育目標	本講義の学習・教育目標は、経済学の基礎から始めて、ミクロ経済学と公共経済学の基本的な概念と方法について学習することです。 これによって、知識や情報を共有するための社会的システム (インターネット、図書館、著作権など) に関わる現代的諸問題にアプローチするための基盤となる知識の習得を目指します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 経済学の概要とその系譜 (3) 厚生経済学の基礎概念 (4) 消費者の理論と効用最大化行動 (5) 生産者の理論と利潤最大化行動 (6) 需要の弾力性と財の分類 (7) 政策効果と余剰分析 (8) 市場の失敗と政府の機能 (9) 公共財の性質とその最適供給 (10) 外部性とその内部化方策 				
成績評価の方法	出席・平常点と学期末試験によって総合的に評価します。				
教材・教科書・参考書等	教科書：なし 参考書：J.E.スティグリッツ『公共経済学 第二版 上・下』藪下史郎訳、東京、東洋経済新報社、2003.				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業は講義中心ですので、授業外では、講義内容をきちんと復習してください。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	吉田 右子	オフィスアワー と研究室	火 2 限 7D116		
授業概要	生涯学習の歴史的展開を踏まえつつ、生涯学習の概念や意義を理解し、学習活動を援助する政策と制度について考えていく。また日本および諸外国の生涯学習施設とプログラムを幅広く見ていくとともに、生涯学習における図書館の位置づけについて詳しく論じる。さらに生涯学習プログラムを計画・実施していくための基本的スキルを修得する。				
学習・教育目標	(1) 講義を通して、生涯学習活動に関わる基本的な知識を修得する。 (2) 生涯学習者を取り巻く現代的課題を踏まえて、生涯学習プログラムを計画・実施していくための基本的スキルを修得する。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・生涯学習論の系譜と歴史 ・生涯学習の行政 ・生涯学習の施設・プログラム・学習方法 ・生涯学習をめぐるトピック：連携・ボランティア・評価 ・海外の生涯学習：施設・プログラム ・生涯学習と図書館：日本・北米・イギリス ・生涯学習と図書館：北欧 ・まとめ 				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題するレポートを中心に評価する。最終的には受講態度などを考慮して総合的に評価する。レポートは形式および内容から評価する。受講態度（30%）とレポート（70%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業で使う資料はウェブサイトに掲載する。参考資料については、授業中に示す。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	予習：次回の教材に目を通し、概要をつかんでおく。 復習：授業で紹介したウェブサイトを通覧する。				
備考 講義のホームページ等					

GE2 1812 テクスト解釈-1

Comprehension of Text -1

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 3 時限	教室	7A206	2 年	2 単位
担当教員	白井 哲哉	オフィスアワー と研究室	金 4 限 7D407		
授業概要	<p>この授業では、江戸時代から明治時代にかけての記録資料をテキストに取り上げる。 記録資料（アーカイブズ）とは、個人や組織が作成・収受したさまざまな文書・記録類の総称であり、地域社会に残された古文書、官公庁の行政文書、作家など個人の書簡や取材ノートまでを幅広く含む。地域資料として、これらの記録資料を所蔵する図書館も少なくない。 授業では、古文書を中心にさまざまな記録資料の読み方や内容理解のトレーニングをすすめ、あわせて日本における記録資料の変遷と、内容理解のための知識および方法を学ぶ。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の記録資料についての基礎知識を得る。 ・古文書を中心とした記録資料の読み方や内容理解の方法がわかる。 ・図書館の地域資料の観点から、記録資料についての理解が広がる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1, 記録資料についての基礎知識 2, 記録資料を読んでみる（翻刻文を講読） 3, 記録資料の内容理解について 4, 記録資料の本物に触れてみる 5, 記録資料を読んでみる（原文を講読） 6, 記録資料の取り扱い方 7, 記録資料の調べ方 				
成績評価の方法	<p>出席状況とレポート（複数回提出を予定）による。 授業では記録資料の原文解読をおこなうが、それ自体を成績評価の対象とはしない。</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書（参考書としても用いる） 大石学監修『改訂新版 古文書解読事典 文書館へ行こう』東京堂出版（2000）</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<p>記録資料の翻刻文を講読する際は、特に予習・復習が望ましい。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>希望者は、夏期・春期に実施する古文書の現地調査（2泊3日）に参加することができる。</p>				

学期曜時限	2・3学期 金曜日 3時限	教室	7A207	2年	2単位
担当教員	松本 浩一	オフィスアワー と研究室	火2限 7D301		
授業概要	漢文テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。				
学習・教育目標	標準的な漢文を、日本独自の読み方である訓読の方法によって読解する能力、および漢文読解のための基本的なツールを使いこなす能力を身につけると同時に、この方法によって日本語と構文が異なる漢文をどのように理解し解釈していったかを学ぶ。				
授業計画	漢籍の編纂・整理に偉大な業績を残した人たちの伝記を、『漢書』などの正史から選び読み進めていく。テキストとしては、訓点付きの和刻本を参考にしながら、中華書局版の句点付きのテキストを使用する。どの伝を取り上げるかについては、いくつかの候補を用意し、希望を聞いて決める。始めに受講者それぞれの担当部分を決めておき、授業では担当者が、はじめに訓読で読み、その後現代日本語で解釈するという順序で進めていく。そのため受講者は、次の授業で読み進める部分を予習しておく必要がある。				
成績評価の方法	基本的に出席を重視する。さらに授業における発言と、最後に担当した部分についてのレポートによって評価する。				
教材・教科書・参考書等	テキストはプリントを配布する。 漢和辞典は必須アイテムであるが、手持ちのものでよい。漢文の文法書や参考書については、授業の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	担当した部分についての下調べが必要である。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 4 時限	教室	7A206	2 年	2 単位
担当教員	綿抜 豊昭	オフィスアワー と研究室	水 7 限 7D511		
授業概要	<p>古来、日本では多くの和歌集が編纂された。その中で日本の伝統文化にもっとも影響を与えたものの一つが藤原定家の編んだ「小倉百人一首」である。その「百人一首」をテキストとして、収録和歌および選集そのものの解釈などを通じて、言葉および意味などの視点から、メディアの読解などに関する基礎的なトレーニングを行う。</p>				
学習・教育目標	<p>編纂者の視線を理解 享受者の視線を理解 日本文化の一特質の理解</p>				
授業計画	<p>1 「百人一首」について 2～5 巻頭・巻尾について 6～9 春の和歌について 10～13 秋の歌について 14 日本の季節感について 15～20 恋について 21 試験</p>				
成績評価の方法	出席状況、レポート、試験など総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教科書 「百人一首集Ⅱ」桂書房、1, 500円				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	使用テキストには現代語訳、作者略歴、語注などはないので、そうしたものを講義がはじまる前に予習する。復習は、予習事項と講義中の説明との違いなどを整理する。				
備考 講義のホームページ等					

GE2 1842 テクスト解釈-4

Comprehension of Text - 4

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 4 時限	教室	7A207	2 年	2 単位
担当教員	原 淳之	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D406		
授業概要	西洋における図書館の歴史について、この分野の教育や研究で使用される文献資料（教科書、教養書、専門書、参考ツール、専門雑誌）を紹介し、それらの読み方や活用法などを説明する。内容としては、19 世紀におけるアメリカやイギリスの公共図書館（パブリック・ライブラリー）の成立が中心となる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> この研究分野の教科書、教養書、専門書、参考ツールなどの種類と特徴を理解する。 専門書についてはその読み方の基礎を理解し、実践できるようになる。 外国語で書かれた原書については、その利用法や読み方の基礎を理解する。 				
授業計画	<p>授業前半は、この研究の分野について、以下のような内容を扱う。</p> <p>(1) 研究の方法や過程、(2) 教科書、教養書、専門書の種類と特徴、(3) 専門雑誌の構成、(4) 参考ツールの種類と扱い方、(5) 原書と翻訳書</p> <p>授業後半では、アメリカやイギリスにおける研究を中心に、その代表的な専門書などについて、内容を紹介し、読み方の基礎を具体的に紹介する。（取り上げる文献については未定であるが、次のような代表的な研究者のものを考えている。） J・H・シェラ、シドニー・ディツィオン、マイケル・ハリス、トーマス・ケリー、ブラック・アリスティア、新しい潮流を示す著作（出版や読書の社会史との関係など）</p>				
成績評価の方法	出席、レポート（日本語で書く）				
教材・教科書・参考書等	教科書は使用しない。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	講義内容を聴くだけでなく、興味をひかれた文献（教科書、教養書、専門書、翻訳書や原書）を実際に自分で読むことで授業の理解が促進される。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A201	2 年	2 単位
担当教員	黒古 一夫	オフィスアワー と研究室	木 3 限 7D504		
授業概要	本授業では、「小説」というテキストを題材に、どのような「読み」＝解釈が可能なのか、具体的な作品（よしもとばなな「キッチン」、村上春樹「アフターダーク」、林京子「祭りの場」、立松和平「遠雷」など）を通して検討し、「読み」＝解釈の多様性を考察する。また同時に、その「読み」＝解釈の多様性が社会や時代状況との関係によって作り出されるものであることを学ぶ。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者は、まず日本の現代文学がどのような状況にあるか、またそれはどのような「よみ」＝解釈を可能にしているのかを理解すること。 ・ またそれは、具体的な作品を実際に読み、分析・検討することから実現されることを学ぶ。 ・ 4 人（または 3 人）の作家（作品）を読むことによって、その多様性を読み取る。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～2 週：現代文学講義（概論：現代文学はどのような状況にあるか） ・ 3～4 週：よしもとばなな「キッチン」を読む ・ 5～6 週：村上春樹「アフターダーク」を読む ・ 7～8 週：林京子「祭りの場」を読む ・ 9～10 週：立松和平「遠雷」を読む ・ 11 週：試験（ないしは「まとめ」） <p>※授業の展開によって村上春樹「アフターダーク」は割愛する場合がある。</p>				
成績評価の方法	受講生の人数によって、「試験」か「レポート」かを定める。レポートの場合、授業中の報告を課す場合がある。				
教材・教科書・参考書等	教科書（テキスト）として指定はしないが、様々な形で流布しているもの（例えば文庫本）を各自用意する。 また、参考文献としては、黒古の著作（図書館にあり）を読むことが望ましい（強制はしない）				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	何より大事なのは、ただ講義を聴いているのではなく、作品を読むこと。それにできれば、様々な「読み」＝解釈が可能であることを、参考文献を読むことによって実践的に知ってほしい。				
備考 講義のホームページ等	時間があつたら黒古のブログ（ http://blog.goo.ne.jp/kuroko503 ）を読んで欲しい。				

学期曜時限	1・2 学期 隔週金曜日 5・6 時限	教 室	7A205 (春日講堂)	2 年	2 単位
担当教員	松本 紳 綿拔 豊昭 大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	この科目では、(1)知識情報・図書館学類で学ぶ学問領域が、社会の中でどのような役割を担っているのか、(2)この学問領域を学び、分野に応じた専門知識・技術を身につけることで、どのような社会貢献ができるようになるのかについて、講義やキャリアポートフォリオ (TCPF) を活用した演習等を通じて理解を深める。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知識情報・図書館学類で学ぶ学問領域が、社会の中でどのような役割を担っているのか理解できる。 ・この学問領域を学び、分野に応じた専門知識・技術を身につけることで、どのような社会貢献ができるようになるのか理解できる。 ・知識情報・図書館学類の主専攻の概要、主専攻と社会との接点について理解できる。 ・就業の意義や 10 年後の自分をイメージすることによって、大学における基礎教養・専門科目の履修指針を再確認できる。 				
授業計画	<p>【1 学期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス／知識情報・図書館学類で学ぶ学問 (図書館情報学／知識情報学) の世界 2. 2 年次の目標シート (TCPF) の作成／職業興味シートの作成／グループワーク 3. 知識情報・図書館学類の最前線 (活用領域：外部講師の講演) (1) 4. 知識情報・図書館学類の最前線 (活用領域：外部講師の講演) (2) 5. 知識情報・図書館学類の最前線 (活用領域：外部講師の講演) (3) <p>【2 学期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 主専攻の世界(1)：知識科学主専攻 7. 主専攻の世界(2)：知識情報システム主専攻 8. 主専攻の世界(3)：情報経営・図書館主専攻 9. 知識情報・図書館学類からの飛躍 (大学院進学・海外留学) 10. 新しい目標シート (TCPF) の作成／グループワーク／まとめ／授業評価 				
成績評価の方法	・受講状況，課題レポート (複数回) によって総合的に判定する (P または F による評価)。				
教材・教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回，キャリアポートフォリオ (TCPF) を持参すること。 ・必要に応じて資料を配布する。参考文献は，適宜，紹介する。 				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・知識情報・図書館学類の 2 年次生。 3 年次編入生については個別相談とする。 				
授業外の学習内容・方法	適宜，レポートを課す。				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年次末の主専攻を決める際に有用な情報を提供するので，知識情報・図書館学類の 2 年生は，全員履修することが望ましい。 ・各月の第 1 週と第 3 週の隔週開催を基本とするが，外部講師等の都合により開催週が変更となる場合がある。詳細は，第 1 回のガイダンス(4/16)で説明する。 				

学類共通専門科目

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	平久江 祐司	オフィスアワー と研究室	月 4・5 限 7D404		
授業概要	学校図書館及び学校図書館メディアを効果的に活用する学習指導計画の立案，教師や児童・生徒に対する司書教諭の支援の在り方等について解説し，学校図書館における情報リテラシー育成のための学習指導の在り方について理解を図る。				
学習・教育目標	「授業計画」に掲げた 10 項目についての基礎的知識や重要な概念を習得するとともに，それらについて考察し，自己の見解や主張を形成する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導における学校図書館の役割 2. 学習指導における情報・メディアの活用 3. 学校図書館における利用指導の変遷 4. 学校図書館における情報提供サービス 5. 学校図書館における情報リテラシーの育成 6. 学校図書館における利用指導の理論的展開 7. 学校図書館メディアの利用指導計画の立案 8. 学校図書館メディアの利用指導計画の展開 9. 学校図書館メディアの利用指導計画の評価 10. 学習支援における司書教諭の役割 				
成績評価の方法	期末試験，レポート，出席等により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配布する。また教科書・参考書等については講義の初回に説明する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	司書教諭科目や教職関連科目を履修していることが望ましい。 履修希望者が 90 名を超える場合は，初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法	レポートの詳細については学期の中頃に発表する。レポートの分量は原稿用紙 6 枚程度で，期末試験時に提出する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	三波 千穂美	オフィスアワー と研究室	月 13:30～16:00 7D302		
授業概要	この授業では、学校図書館メディアの意義と役割、種類と特性をふまえ、メディア構築のための選択・収集及び組織化について解説する。				
学習・教育目標	<p>受講生が学校図書館メディアについて自分なりの考えをまとめていく機会を持てるよう授業を構成し、以下のような目標を達成する。</p> <p>(1) 学校図書館メディアに関わる基本的な知識を修得する。</p> <p>(2) 学校図書館メディアに関わる様々な資料から学校図書館の持つ課題を理解し、司書教諭の役割と結びつけて考えられるようになる。</p>				
授業計画	<p>(1) 学校図書館メディアの構成、メディア専門職としての司書教諭</p> <p>(2) メディアの種類、メディアにかかわる情報源</p> <p>(3) コレクション形成の方針</p> <p>(4) コレクション形成の計画</p> <p>(5) メディアへのアクセス支援</p> <p>(6) 学校図書館メディアの組織化①</p> <p>(7) 学校図書館メディアの組織化②</p> <p>(8) 学校図書館メディアの組織化③</p> <p>(9) 学校図書館メディアの組織化④</p> <p>(10) 学校図書館メディアの組織化⑤</p>				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題する数回のレポートを中心に、受講態度なども考慮し、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業時に紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	司書教諭科目を全て履修することが望ましい。 履修希望者が 100 名を超える場合は、初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	鈴木 佳苗	オフィスアワー と研究室	月 4 限 7D112		
授業概要	読書は、児童・生徒の学力や社会性の発達を促すものとして期待されており、学校教育、社会教育の中でも読書活動が推進されている。本講義では、児童・生徒の読書の現状、学校や公共図書館での読書活動の実態、読書と児童・生徒の発達に関する理論、発達段階に応じた読書指導・読書活動の方法について概説する。また、学校や公共図書館での具体的な読書活動の実践についても紹介する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の読書の現状、学校や公共図書館での読書活動の実態を理解する ・読書と児童・生徒の発達に関する理論についての理解を深める ・発達段階に即した読書指導や読書活動の工夫について考える 				
授業計画	<p>授業では、以下の順番に基づいて説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 読書の意義と目的 2. 児童・生徒の読書の現状 3. 児童・生徒への読書の影響 4. 読書活動の方法 -1 5. 読書活動の方法 -2 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク ・朝の 10 分間読書 6. 学校図書館における読書活動の実践 7. 公共図書館における読書活動の実践 8. 発達段階に応じた読書指導と計画 <ul style="list-style-type: none"> ・読書興味の発達 ・読書能力の発達 9. 児童・生徒向けの図書資料 <ul style="list-style-type: none"> ・各種図書資料 ・図書資料の評価 10. 読書環境の整備と読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館での読書環境の整備 ・家庭・公共図書館・地域関連機関との連携と協力 				
成績評価の方法	試験、授業中の課題、出席状況により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>講義資料を配布する。</p> <p>参考書：「新学校図書館学」編集委員会編『読書と豊かな人間性』、全国学校図書館協議会、2006 『読書と豊かな人間性』、朝比奈大作著、樹村房、2002。 『児童図書館サービス論（新訂版）』 赤星隆子・荒井督子編著、理想社 2009。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	履修希望者が 120 名を超える場合は、初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法	授業後に発展的な学習ができるように、授業中に参考文献を紹介する。				
備考 講義のホームページ等					

GE4 0501 情報メディアの活用

Use of Information Media

学期曜時限	1 学期 集中 (7/2, 5, 6, 7 の 2~6 限)	教室	7A205 7C102	3 年	2 単位
担当教員	大澤 文人	オフィスアワー と研究室	火 11:00~12:00 7D115		
授業概要	今日では、学校図書館が所蔵する活字メディアや視聴覚メディア、教育用ソフトウェアなどに加えて、外部のデータベースやインターネット情報資源から多種多様な情報メディアが利用可能であるが、それぞれの特性を踏まえながら、これらを教育の現場で活用していく方法についてビデオ教材を活用しながら解説する。特にコンピュータとインターネットを活用する方法に重点を置く。				
学習・教育目標	メディア教育の場で利用できるコンピュータ活用に関する知識の習得を目標とする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度情報社会と情報メディア 2. 情報メディアの種類と特性 3. 視聴覚メディアの意義と活用 4. コンピュータの活用 5. データベースと情報検索 6. インターネットと情報検索・情報発信 7. 情報メディアと著作権 8. 情報セキュリティ 				
成績評価の方法	出席、毎回行う小テスト、レポート課題による。				
教材・教科書・参考書等	資料を授業時に配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	司書教諭科目をすべて履修することが望ましい。また、何れかの教科教育法を履修中であることが望ましい。 履修希望者が 90 名を超える場合は、初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法	授業中には資料をかなりの量、配布する。毎回、範囲を指定するので、授業の前後でよく読んでおくこと。				
備考 講義のホームページ等					

Internships

学期曜時限	1・2学期 集中 (夏季休業中に実施)	教室	—	3年	2単位
担当教員	溝上 智恵子 緑川 信之 呑海 沙織	オフィスアワー と研究室	この科目に関する照会は学群学務係へ		
授業概要	<p>知識情報学の実践的学習のために関連機関においてインターンシップ実習を行う。</p> <p>内容 図書館関係：(1) 管理業務，(2) 資料組織業務，(3) サービス業務，(4) その他 各種官公庁・企業体関係：(1) 情報システム関係業務，(2) データベース，情報検索システム関係業務，(3) 各種調査業務，(4) その他 ただし，受入機関によっては必ずしもこの通りではない。</p>				
学習・教育目標	<p>(1) 図書館，官庁，企業体等における情報の収集，処理，提供に関する業務の実際を理解する。 (2) 上記業務の実務能力を修得する。 (3) 職業意識を高めるための体験をし，また，上記機関における専門的職業人のあり方を考える。</p>				
授業計画	<p>2009年 12月 第1回説明会 概要説明 2010年 1月 受入機関一覧公開 2月 第2回説明会 インターンシップ先決定 事前調査の実施，「履歴書」の提出 5月 事前打ち合わせ 6月 第3回説明会 直前オリエンテーション 7月～8月 インターンシップ実施 終了後，「インターンシップ報告書」，「インターンシップ日誌」の提出</p>				
成績評価の方法	インターンシップ日誌，インターンシップ報告書，受入機関による概評，インターンシップ中の態度を総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等					
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	<p>知識情報・図書館学類生に限る。 図書館関係機関を希望する者は司書資格取得予定者に限る。</p>				
授業外の学習内容・方法	インターンシップに行く前に，受入機関で行われている業務内容等について調査し，必要と思われる知識を予習しておく。				
備考 講義のホームページ等	<p>社会との貴重な接点なので，できる限り履修することが望ましい。ただし，インターンシップの際は受入機関に失礼のないように十分注意すること。問題が生じた場合は，インターンシップを中止させることもある。</p>				

学期曜時限	2 学期 集中	教室	—	1～3 年	2 単位
担当教員	溝上 智恵子 緑川 信之 呑海 沙織	オフィスアワー と研究室	この科目に関する照会は学群学務係へ		
授業概要	国際交流協定校等を通じて紹介された海外の図書館や情報センターにおいて、図書館・情報業務を経験する。今年度は米国、韓国、中国の各機関を予定している。期間は 10 日程度（受け入れ先にもよる）。各国 2 名、計 6 名受入予定。詳しくは説明会で説明する（受講希望者は説明会に必ず参加すること）。				
学習・教育目標	海外における図書館・情報センターにおいて、情報の収集、処理、提供に関する業務の実際を理解する。日本の図書館・情報業務と同じ点、異なる点を体験し、相対的な視野を養う。職員や利用者との交流を通して、外国の文化、慣習、考え方を学ぶ。				
授業計画	2010 年 2 月中旬 第 1 回説明会（日時と場所については「インターンシップ」の掲示板参照） 4 月中旬 受講申込み締切 5 月中旬 第 2 回説明会 受講者の決定 6 月末 日本の図書館・情報事情に関するレポート（英語または当該国の言語）及び 当該国の図書館・情報事情および受入先機関に関するレポート（日本語）提出 8 月末 インターンシップ実施 9 月 インターンシップ報告書およびインターンシップ日誌を提出				
成績評価の方法	インターンシップ前のレポート、インターンシップ日誌、インターンシップ報告書、受入機関による概評を総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等					
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	当該国の言語または英語による基本的なコミュニケーション能力を有すること。 応募人数が定員を超える場合は、下記を優先事項として選定する。 (1) 高年次生 (2) インターンシップ、社会体験実習、他大学の図書館実習の単位取得者 (3) 図書館や情報センターで働いた経験のある者（アルバイト・ボランティアを含む）				
授業外の学習内容・方法	当該国の言語または英語を自習すること。必要に応じて教材は貸与する。				
備考 講義のホームページ等	知識情報・図書館学類生に限る。 説明会には 2 回とも必ず参加すること。				

GE5 0112 専門英語Ⅲ-1

English for Specialized Subjects III-1

学期曜時限	1 学期 金曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	1 単位
担当教員	芳鐘 冬樹	オフィスアワー と研究室	金 3 限 7D414		
授業概要	<p>専門科目や卒業研究に必要な英語読解力を専門書の講読等を通じて習得する。</p> <p>図書館情報学分野の英語で書かれた学術雑誌の論文を教材として用いる。学術論文は特有の構成を持つ文章であるので、まずそれを踏まえた理解の方法について解説する。</p> <p>授業は、毎回、各自、指定された論文を読み、担当者が内容を発表する輪読形式をとる。英語の文章を漫然と読んで「頭の中で分かったつもりになるだけ」ということにならないよう、読んだ内容を論理的に整理して「日本語でまとめる（逐語訳である必要はない）」練習と、それを他者に説明する練習を行う。発表者以外も、議論に加わるように論文を読んで予習しておくこと。授業の理解度と予習状況の確認のため、数回簡単な小テストを実施する。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語で書かれた学術論文を理解できる読解力を身に付ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：授業の進め方（1 回） 2. 学術論文の読み方，図書館情報学分野の英語雑誌の解説（1 回） 3. 輪読による発表とそれに基づく議論と解説，小テスト（全 8 回） 4. 本授業のまとめ（最終回の最後に） 				
成績評価の方法	輪読の発表を 55%，小テストを 45%として総合的に判定する。				
教材・教科書・参考書等	授業時間に提示する。英和辞典は各自が用意すること。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	各回の発表者は、予め分担論文を日本語に訳したレポートを作成する（全訳・逐語訳である必要はなく自分の理解に基づいて概要をまとめたものを作成すること）。発表者以外も、発表内容に関する議論に加わるように論文を読んでおくこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 月曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	1 単位
担当教員	石塚 英弘	オフィスアワー と研究室	月 7 限 専攻長室		
授業概要	専門科目の理解に必要な英語文章読解力を得るためには、英語で書かれた文章を日本語に訳して理解するのではなく、英語の文章のままで理解する方法を習得することが一番役に立つ。また、専門分野の文章を理解するには専門用語の理解が欠かせないため、専門用語を英語のままで理解するための基本的枠組みを習得する。この 2 つの方針に基づいて、英語で書かれた教科書を読んで理解する練習を各自が行う。その教科書は 2 年次までの授業に関連する物を石塚が選ぶ。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目に関する基本的な内容を英語の文章のままで理解する方法を習得する。 ・英語の語彙の意味論のごく基本の考え方を習得することによって、専門用語と一般用語との相違点、専門用語の意味の基本的枠組みを理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに この科目の目的、専門英語が必要な理由、一般の文章と専門分野の文章は別世界、翻訳と理解も別世界、本科目内容の概要 2. 言語（日本語と英語）とその背景に在る「常識」「ものの考え方」 英語の時制（現在、過去、現在完了）の考え方とそれに基づいた情報表現における使い分け 3. 英語の枠組み：term, syntax, semantics 4. 英語の語彙の意味論のごく基本の考え方を習得することによって、専門用語と一般用語との相違点、専門用語の意味の基本的枠組みを理解する。 5. 専門分野の文献：教科書、解説、論文の共通点、相違点 6. 教科書を読んで理解する練習 (1) 7. 教科書を読んで理解する練習 (2) 8. 教科書を読んで理解する練習 (3) 9. 教科書を読んで理解する練習 (4) 10. 教科書を読んで理解する練習 (5)、本授業のまとめ 				
成績評価の方法	期末試験の成績による。試験問題の出題、採点の際は上記の学習・教育目標を重視する。				
教材・教科書・参考書等	教科書・参考書は使用しない。必要に応じて、資料を配布する。 辞書は各自が用意する。辞書は語源または原義が乗っている英和中辞典クラスのもの（電子辞書でよい）が良い。英英辞書でも可。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年次以下の履修を認めない				
授業外の学習内容・方法	講義ノート、配布資料などをよく復習すること				
備考 講義のホームページ等					

GE5 0132 専門英語Ⅲ-3

English for Specialized Subjects III-3

学期曜時限	1 学期 火曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	1 単位
担当教員	どんかい 呑海 さおり 沙織	オフィスアワー と研究室	月 5 限 7D403		
授業概要	専門科目や卒業研究に必要なとなる英語読解力を，専門書の購読などを通じて習得することを目的とする。				
学習・教育目標	本講義では，下記のような知識やスキルを身につけることを目標とする。 1. 英語の専門書や論文を読む上で必要な知識・スキル 2. 国際的な活動のために求められる英語の読解力 3. 英語で書かれた専門書の概要を把握するスキル 4. 専門用語に関する知識				
授業計画	1. 専門用語の習得 2. 専門書の精読				
成績評価の方法	課題，小テスト，授業態度等によって，総合的に決定する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は，プリントとして適宜配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内容・方法	専門用語などについての小テストを行うので，必ず復習すること。 事前に配布された課題については，予習しておくこと。 授業には，辞書を携帯すること。				
備考 講義のホームページ等					

GE5 0212 専門英語Ⅳ-1

English for Specialized Subjects IV-1

学期曜時限	2 学期 金曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	1 単位
担当教員	上保 秀夫	オフィスアワー と研究室	木 4・5 限 7D408		
授業概要	近年 YouTube や iTunes U 等から国際会議の口頭発表や大学の講義の動画が手軽に入手できるようになった。これらの動画からは幅広い専門知識が得られる一方で、使われている英語のレベルやアクセントも様々なので、海外で実際に使われている英語を理解するよい機会である。本講義では、主に口頭発表の動画を構成別に視聴することで、英語のプレゼンテーションから専門知識を習得する方法を学ぶ。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議の口頭発表やチュートリアルの内容が理解できる。 英語のリスニング能力を向上させる。 手振りなどの非言語情報を手がかりに専門知識を習得する。 世界で使われている英語の文化的特徴を体得する。 今後の英語学習の具体的な目標を立てられる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス イントロダクションの発表 研究方法の発表 研究結果の発表 考察と結果の発表 質問の受け答え 大学の講義 技術的チュートリアル 一般向けのプレゼンテーション まとめ 				
成績評価の方法	期末試験に代え、試験週間の月・火・金の各 5・6 限に TOEIC-IP を実施する。専門英語Ⅳの受講者はいずれかの試験日（原則として所属する主専攻実習の曜日）に受検すること。成績は TOEIC-IP のスコア（50%）と出席票のコメント（50%）を元に評価する。				
教材・教科書・参考書等					
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	YouTube、iTunes U、videolectures.net、academicearth.org、TED 等で入手できる学術的・技術的動画を積極的に視聴する。				
備考 講義のホームページ等	http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~hideo/teaching/2010_GE5_0212				

学期曜時限	2 学期 月曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	1 単位
担当教員	石塚 英弘	オフィスアワー と研究室	月 7 限 専攻長室		
授業概要	卒業研究を行う際には教科書レベルを超える知識が書いてある文章を理解する能力が求められる。それに必要な英語文章読解力を得るためには、英語で書かれた文章を日本語に訳して理解するのではなく、英語の文章のままで理解する方法を習得することが一番役に立つ。この方針に基づいて、英語で書かれた情報技術系の解説(review)を読んで理解する練習を各自が行う。また必要に応じて関連文献を読む。その解説等は石塚が内容、難易度を適宜判断して選ぶ。				
学習・教育目標	・教科書レベルを超える専門知識を英語の文章のままで理解するための基本的方法を知り、またその方法を行うために必要な能力を習得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 本科目の目的, 本科目の基本的な考え方と授業の枠組み, 本科目内容の概要 2. 専門分野の最新の情報や知識を得て内容を理解するにはどうすれば良いか?(1) 最新の情報や知識が記載されている文献は原著論文(original paper)。original paper は読んでも理解困難。その理由は? 研究とは何か。 3. 専門分野の最新の情報や知識を得て内容を理解するにはどうすれば良いか?(2) 解説(review)の役割。教科書の役割。専門分野の辞典の役割。解説、原著論文、教科書などの使い分け。 4. 解説を読んで理解する練習 (1) 5. 解説を読んで理解する練習 (2) 6. 解説を読んで理解する練習 (3) 7. 関連する原著論文を読んで両者の役割を理解する練習 8. 関連する他の解説を読んで両者の役割を理解する練習 9. 関連する教科書を読んで両者を組み合わせて理解する練習 10. 解説を読んで理解する練習 (4), 本授業のまとめ 				
成績評価の方法	期末試験に代え、試験週間の月・火・金の各 5・6 限に TOEIC-IP を実施する。専門英語Ⅳの受講者はいずれかの試験日(原則として所属する主専攻実習の曜日)に受検すること。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて、文献資料を配布する。 辞書は各自が用意する。辞書は語源または原義が乗っている英和中辞典クラスのもの(電子辞書でよい)が良い。英英辞書でも可。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年次以下の履修を認めない 専門英語Ⅲ-2 を履修していることが望ましい				
授業外の学習内容・方法	講義ノート、配布資料などをよく復習すること				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	1 単位
担当教員	どんかい 呑海 さおり 沙織	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D403		
授業概要	専門科目や卒業研究に必要なとなる英語読解力を，論文等の購読を通じて習得することを目的とする。				
学習・教育目標	本講義では，下記のような知識やスキルを身につけることを目標とする。 5. 英語の専門書や論文を読む上で必要な知識・スキル 6. 国際的な活動のために求められる英語の読解力 7. 英語で書かれた専門書や論文の概要を把握するスキル 8. 専門用語に関する知識				
授業計画	3. 専門用語の習得 4. 論文等の多読				
成績評価の方法	期末試験に代え、試験週間の月・火・金の各 5・6 限に TOEIC-IP を実施する。専門英語Ⅳの受講者はいずれかの試験日（原則として所属する主専攻実習の曜日）に受検すること。成績は TOEIC-IP のスコアと課題，小テスト，授業態度等によって，総合的に決定する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は，プリントとして適宜配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	専門英語Ⅲ-3 を受講していること。				
授業外の学習内容・方法	専門用語などについて的小テストを行うので，必ず復習すること。 事前に配布された課題については，予習しておくこと。 授業には，必ず辞書を携帯すること。				
備考 講義のホームページ等	第 1 回の授業で発表の割り当てを行うので必ず出席すること。				

学期曜時限	1 学期 水曜日 3 時限	教室	春日講堂	4 年	1 単位
担当教員	逸村 裕 黒古 一夫 鈴木伸崇 三波千穂美 真栄城 哲也	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	総合科学としての図書館情報学（あるいはその発展形としての知識情報学）は個人・知識情報資源・社会のそれぞれのレベルで展開されるが、その多様な側面の研究、実践の動向について4年次のクラス担任を中心とする学類担当教員およびその他の研究者・実務者による講義を行う。				
学習・教育目標	図書館情報学の最新状況・動向についての理解を深めることを目標とする。 研究の面白さ、開発の楽しさを知る。 研究開発のプロセスやパターンの事例を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識情報・図書館情報学の動向 2. 情報通信技術の動向 3. 情報通信技術と図書館 筑波大学附属図書館蔵 Tulips 開発事例 4. 学術情報を巡る動向 5. 海外の動向と事例 				
成績評価の方法	出席(30)、小テスト(20)、レポート(50) 小テスト、レポートに関しては出題の意図を理解し、各自の独創的な考えを表白することが求められる。				
教材・教科書・参考書等	毎回関連資料が配布される。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	卒業研究の着手者に限る。				
授業外の学習内容・方法	事前課題が提示される場合は、その課題を十分に理解してから出席すること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 水曜日 3 時限	教室	春日講堂	4 年	1 単位
担当教員	逸村 裕 黒古 一夫 鈴木伸崇 三波千穂美 真栄城 哲也	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	総合科学としての図書館情報学（あるいはその発展形としての知識情報学）は個人・知識情報資源・社会のそれぞれのレベルで展開されるが、その多様な側面の研究、実践の動向について4年次のクラス担任を中心とする学類担当教員およびその他の研究者・実務者による講義を行う。				
学習・教育目標	図書館情報学の最新状況・動向についての理解を深めることを目標とする。 研究の面白さ、開発の楽しさを知る。 研究開発のプロセスやパターンの事例を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディアと知識情報 2. 図書館界の動向 3. コミュニケーション関係の動向 4. 海外の動向と事例 5. 知識情報学の将来 				
成績評価の方法	出席(30)、小テスト(20)、レポート(60) 小テスト、レポートに関しては出題の意図を理解し、各自の独創的な考えを表白することが求められる。				
教材・教科書・参考書等	毎回関連資料が配布される。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	卒業研究の着手者に限る。				
授業外の学習内容・方法	事前課題が提示される場合は、その課題を十分に理解してから出席すること。				
備考 講義のホームページ等					

GE5 1018 卒業研究

Undergraduate Thesis

学期曜時限	通年	教室	—	4年	6単位
担当教員	全教員	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要					
学習・教育目標					
授業計画	X月 着手発表会 X月 中間発表会 X月 論文提出 X月 最終発表会				
成績評価の方法					
教材・教科書・ 参考書等					
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	4月現在で卒業要件単位を90単位以上修得済みであること				
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

MEMO

知識科学主専攻

学期曜時限	1・2 学期 金曜日 5・6 時限	教室	7A208	3 年	2 単位
担当教員	知識科学主専攻担当教員	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	<p>本実習の目的は、知識科学主専攻を構成する 5 領域の対象と方法・技術の位置づけを把握して知識科学領域の総合的な理解に結びつけることである。具体的なねらいは以下のとおり：</p> <p>(知識共有) 論理的な思考と議論に関する実践的能力の獲得、知識形成と共有の実践的理解 (専門情報) 特定の専門領域のメディアの実態把握、流通・加工技術の理解 (プロジェクト管理) プロジェクト企画とプロジェクト運営方法の体得 (知識環境) 知識環境設計のための調査、情報行動・メディア分析の理解 (知識発見) データの構造化、知識発見、思考シミュレーションの技術の理解</p>				
学習・教育目標	<p>1. 知識科学主専攻がカバーする領域における基本的な方法と技術を修得する 2. 主専攻の対象と接することで、主専攻の対象を具体的に理解する</p>				
授業計画	<p>0 オリエンテーション</p> <p>1 コミュニケーションのスキルとコミュニケーションを基盤とした知識のあり方に関する実習 (3 週)</p> <p>(1) 論理トレーニングと議論の進め方の演習 (2) 知識形成のためのグループディスカッション演習</p> <p>2 ブレインストーミング (3 週程度)</p> <p>3 知識共有の実際と実現技術 (3 週程度)</p> <p>(1) 専門情報流通の実際総合的理解 (事例として、特許情報や医療情報) (2) 特定領域の知識共有のための知識の内容、表現法、実現技術の総合的理解</p> <p>4 プロジェクト管理 (3 週)</p> <p>(1) Moodle を用いた e-learning 教材作成プロジェクトの実行 (Adobe Flash/Premier Pro 使用)</p> <p>5 知識環境設計のための社会調査と企画、情報行動 (4 週程度)</p> <p>(1) 対象社会の調査 (社会調査法と分析手法) と企画 (2) 人とメディアの関わり</p> <p>6 知識発見と思考の方法 (計算的アプローチ) (4 週)</p> <p>(1) 記録とその関連空間の分析と知識構造化 (2) 数理的方法を用いた問題解決や知識発見</p>				
成績評価の方法	<p>受講者全員がグループまたは個人で同じ内容の基礎的な実習を行う 成果物とレポートによって総合的に判定する</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>資料を配布する</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<p>授業時間に基本を修得し、実際の作業を各自が空き時間に行う テーマ毎にレポートが課される (最低 5 回)</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>http://klis.tsukuba.ac.jp/knowledge/</p>				

GE6 0201 テクニカルコミュニケーション論

Technical Communication

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A102 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	三波 千穂美 平湯 あつし	オフィスアワー と研究室	月 13:30~16:00 7D302 —		
授業概要	専門情報を正確にわかりやすく伝えることを意図した、文書の企画・構成・表現設計等に必要とされる知識・技術・考え方を、マニュアル制作などを題材に学ぶ。また、実際の専門職としてのテクニカルコミュニケーターの業務や活動を知り、関連する演習を行う。				
学習・教育目標	<p>以下を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門情報と社会の関係の変化 2. テクニカルコミュニケーションとは 3. マニュアル制作などを例とした、文書の企画・構成・表現設計 4. 専門職としてのテクニカルコミュニケーター 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門情報と社会の関係の変化、テクニカルコミュニケーションとは 2. マニュアルとはどんなものか？（演習） 3. マニュアルの企画・構成・表現設計 4. マニュアルの文章、技術情報を伝える文章（演習） 5. マニュアル制作の工程、マニュアルの評価・管理 6. 雑誌やネットの文章（演習） 7. ビジュアル表現、関連する知識・技術 8. レイアウトデザイン（演習） 9. 電子マニュアル 10. 企画の考え方、構成の考え方（演習） 				
成績評価の方法	レポート、演習課題、授業の参加状況、授業時の取り組み方等を統合し、評価する。レポートには、対象・目的を的確に把握した、十分な情報と適切な構成・文章表現を求める。				
教材・教科書・参考書等	参考書は授業時に適宜、紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	自らの日常生活やメディアの報道等において、テクニカルコミュニケーションを意識する。				
備考 講義のホームページ等	講義は 7A102 で、演習は 7C102 で実施 演習の都合上、履修上限人数は 32 名とする。				

学期曜時限	3 学期 水曜日 3 時限	教室	7A106	3・4 年	1 単位
担当教員	三波 千穂美	オフィスアワー と研究室	月 13:30～16:00 7D302		
授業概要	サイエンスコミュニケーションは、特定の目的を設定した専門知識・情報伝達である。この授業ではサイエンスコミュニケーションの背景、現状を紹介し、さらに、目的を達成するためのコミュニケーションを設定し具体的内容を作成することにより、コミュニケーション能力獲得を目指す。				
学習・教育目標	1-3 を学習し、4 の習得をめざす。 1. サイエンスコミュニケーションとは 2. 背景と現状 3. 実際の活動事例 4. コミュニケーション能力				
授業計画	1. サイエンスコミュニケーションとは 2. 背景と現状 3. 実際の活動事例① 4. 実際の活動事例② 5. コミュニケーション演習 6. コミュニケーション演習 7. コミュニケーション演習 8. コミュニケーション演習 9. コミュニケーション演習 10. コミュニケーション演習				
成績評価の方法	複数のレポートの内容、授業の参加状況ならびに取り組み方などを合わせて評価する。レポートには、対象・目的を的確に把握した、十分な情報と適切な構成・文章表現を求める。				
教材・教科書・参考書等	参考書は授業時に適宜、紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等					
授業外の学習内容・方法	自らの日常生活やメディアの報道等において、サイエンスコミュニケーションという観点から物事を見る。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A105 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	岩澤 まり子	オフィスアワー と研究室	随時 7D304		
授業概要	医療に関わる情報の発生、蓄積、提供、検索、分析について講義する。 はじめに研究デザイン等の医学研究における基礎知識、さらにこれらの研究成果を蓄積する方法について講義する。とくに用語の標準化並びにシソーラスを使用した用語の統制について、その特徴を解説する。また根拠に基づく医療を実現するための「科学的な根拠」に着目し、その提供および検索方法について解説する。				
学習・教育目標	医療に関わる情報の発生、蓄積、提供、検索、分析について理解し、科学的な根拠を有する情報を検索・選択するための基礎知識を獲得することを目標とする。				
授業計画	医療情報に関する講義を行なうとともに、医療情報を提供するデータベースを使用した検索演習を行なう。 1. 医学研究と医療情報 2. 研究デザイン 3. 情報の蓄積と索引、標準化 4. シソーラスの構成・機能 5. 医学中央雑誌データベース<演習> 6. MEDLINE データベース<演習> 7. MeSH と MEDLINE データベース<演習> 8. 根拠に基づく医療と情報 9. Cochrane Library 10. 患者と医療情報				
成績評価の方法	出席状況、検索演習に関わるレポートおよび学期末試験により、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は、プリントとして配布する。また参考書は、授業の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「情報探索論」の単位取得者に限る。				
授業外の学習内容・方法	復習を行ない、理解できなかった点を明らかにして、授業に出席して下さい。検索演習をはさんで授業を行ないますので、検索演習を通じて知識の再確認を行なって下さい。時間内に検索が終了しなかった場合は、宿題として課すことがあります。				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A105 集合				

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A102 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	岩澤 まり子 ()	オフィスアワー と研究室	随時 7D304 —		
授業概要	産業財産権制度（特許、実用新案、意匠、商標）の概要について解説する。 とくに特許に焦点をあて、特許の出願から権利取得、そして期間満了にいたる、特許の流れについて解説する。またこの過程で発生する特許情報について、種類および特徴等について説明する。特許データベースを使用した情報検索演習を行い、特許情報についての理解を深める。				
学習・教育目標	興味ある技術分野の特許を調査し、さらに自分の研究成果を特許として出願できるようになるために、日本の特許制度を理解することを目標とする。				
授業計画	特許情報に関する講義を行なうとともに、特許情報を提供するデータベースを使用した検索演習を行なう。 1. 日本の産業財産権制度と特許制度 2. 特許権取得の流れ（出願から登録まで） 3. 特許情報の流通とデータベース 4. 特許明細書の構成 5. 特許請求の範囲と権利 6. 実体審査と最終処分 7. 特許分類とパテントマップ 8. 特許調査 9. 外国での特許取得と国際特許出願 10. 日本・米国・欧州の特許制度の比較 11. 特許庁見学				
成績評価の方法	出席状況、検索演習に関わるレポートおよび学期末試験により、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	無償配布予定の「産業財産権標準テキスト（特許編）」および講義時間中に配布するプリントを使用する。また参考書および関連資料は、講義の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	情報検索の基礎知識を有していることを前提に講義を行なう。				
授業外の学習内容・方法	復習を行ない、理解できなかった点を明らかにして、授業に出席して下さい。検索演習をはさんで授業を行ないますので、検索演習を通じて知識の再確認を行なって下さい。時間内に検索が終了しなかった場合は、宿題として課すことがあります。				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A102 集合				

GE6 0501 知識論

Knowledge Theory

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	横山 幹子	オフィスアワー と研究室	木 5 限 7D405		
授業概要	哲学的観点から、「知識」についての問題を取り扱い、「知識」の捉え方の歴史をふまえたうえで、「知識」についての現代の多様な考え方の一部を紹介する。				
学習・教育目標	哲学において、「知識」がどのように捉えられてきたかを理解することを目的とする。さらに、現代哲学において、「知識」に関して何が問題であるかの一端を理解することも目的とする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 知識の古典的な定義 2) 基礎付け主義 1 3) 基礎付け主義 2 4) 基礎付け主義から外在主義へ 5) 外在主義 6) 哲学的懐疑論 7) 懐疑論への対応 1 8) 懐疑論への対応 2 9) 認識論の自然化 1 10) 認識論の自然化 2 				
成績評価の方法	出席と学期末の筆記試験による。授業の 2 / 3 以上は出席することを前提とする。				
教材・教科書・参考書等	『知識の哲学』 戸田山和久著、産業図書、2002				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	教科書の熟読、及び、授業内で示す参考図書のうち、興味を引かれたものを読む。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	武者小路 澄子	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D516		
授業概要	<p>‘知識’がどのように形成されていくのかについて、これを捉える様々な立場や研究領域ごとの相違を整理しつつ、知識形成の過程やそこに関わる現代的な問題点を概説する。さらに、‘知識を形成していく’というそのこと自体について、批判的な検討を加える。</p> <p>知識の形成を理解する上では、＜個＞の知識を対象とするか、＜社会＞において共有される知識を対象とするかによって視点が異なる。前者については、「わたし」という個の視点における知識形成を、自己についての知識形成、また生後間もない頃からの知識形成や、人間の認識の進化についてふれる。後者については、身近な生活世界における知識形成や、コミュニティ・社会における知識形成を扱う。最後に、この領域における最新の試みとして、近代西洋における‘knowledge’の訳語としての‘知識’の形成、および図書館情報学におけるこの扱い方に客観的評価を加えるために、東洋思想やニューサイエンスにおける＜知識批判＞を取り上げ、知識形成に関する新たな批判的考察を展開する。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「知識」および「知識形成」についての基礎的・概要的知識を習得する ・ 「知識」および「知識形成」について、異なる研究領域の考え方を秩序立てて理解する ・ 「知識」および「知識形成」について、批判的に評価できる視点を身につける ・ 知識形成に関する具体的諸問題を検討することによって、知識の専門家としての論理的思考能力を身につける 				
授業計画	<p>以下の課題を取り上げる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人の知識の形成 <ol style="list-style-type: none"> 1. 1 「わたし」の知識の形成 1. 2 子どもの知識形成 1. 3 認識の進化論 1. 4 自己・他者・コミュニケーション 2 コミュニティ・社会における知識形成 <ol style="list-style-type: none"> 2. 1 日常生活世界の知識形成 2. 2 グローバル社会における知識形成 3 ＜知識形成＞比較論 <ol style="list-style-type: none"> 3. 1 ニューサイエンスの視点と比較して 3. 2 東洋思想の視点と比較して 				
成績評価の方法	学期末試験と出席				
教材・教科書・参考書等	プリントおよびプリント中で挙げる参考資料				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業内容の理解だけでなく、自分で「知識」「知識形成」に関する様々な考え方を批判的に検討し、自分の考えを打ち立ててください。さらに、“自らの知識形成について反省的に捉える”ことを試みてください。				
備考 講義のホームページ等	平成 22 年度以降の知識形成論は司書科目乙群「コミュニケーション論」に該当しない。				

学期曜時限	3 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A204	3・4 年	2 単位
担当教員	上保 秀夫	オフィスアワー と研究室	木 4・5 限 7D408		
授業概要	This course is concerned with the phenomenon of <i>guiding</i> . Guiding is a common form of knowledge sharing that can be found in our every-day life. A tour of a famous place, map in a park, menus in a web page, or doctor's medical recommendation are all instances of guiding. The success of guiding depends on an effective communication between end-users and intermediaries, appropriate organization and presentation of reference knowledge, and finally, awareness of contextual factors. This course introduces Reference Science and studies the theories and applications relevant to effective guiding.				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> • Students will gain a basic understanding of scientific approaches and theories. • Students will gain an understanding of the phenomenon of guiding and implications from related areas in Knowledge and Information Sciences. • Students will develop skills to learn relevant knowledge from spoken English lectures. • Students will demonstrate a synthesized understanding of key elements in Reference Science. 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> • What is Reference Science and why does it matter? • What guiding services and applications can we find in our life? • What tasks are people performing when they seek for a guiding? • How can we accurately capture people's needs and feedback? • How should relevant knowledge be organized and presented for guiding? • How can we build user profiles for specialized guiding? • How can we offer a guiding for a group of people? • How can we measure the performance of guiding? • How can we improve the performance of guiding? • Summary and Q&A 				
成績評価の方法	<p>Comment sheets (50%) and term-end report (50%).</p> <p>At the end of every lecture, you will submit a comment sheet with valid questions about the lecture. At the end of term, you will submit a report presenting your idea of new guiding service or application for a given situation. The details of the comment sheets and term-end report are provided in the first lecture.</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>Textbook: None. Relevant material will be available in each lecture.</p> <p>Reference book: Ingwersen and Järvelin. <i>The Turn: Integration of Information Seeking and Retrieval in Context</i>. Springer. 2005. (訳書『情報検索の転回』、丸善、2008)</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	<p>Reference Science: Try to find examples of guiding services and applications in your day-to-day life and consider 1) what sort of knowledge enables it and 2) how you would improve it.</p> <p>Learning skills: Watch the videos available from iTunes U, videolectures.net, or academicearth.org at least once a week to improve your skills to gain new knowledge from spoken English contents.</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>Lectures are conducted in English.</p> <p>http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~hideo/teaching/2010_GE6_0701</p>				

学期曜時限	1 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A205	3・4 年	2 単位
担当教員	松林 麻実子	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D111		
授業概要	学術情報は、その構造や生産流通の仕組みという面において特殊な存在である。本講義では、学術情報やその流通に特有の仕組みを整理し、それを担う研究者という存在について学ぶことで、科学知識の生産と利用について考えることを目的とする。特に、研究者とメディアとの関係に焦点を当てて考えていきたい。本講義が対象とするのは研究者や彼らが扱う学術情報という特殊な事象であるが、ここでは一般の人々とメディアとの関係について考えることの延長上にあるものにとらえ、考えていきたい。				
学習・教育目標	<p>本講義の受講を通して、下記のような能力の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者の生態を知り、彼らに内在する問題について考えることができる ・学術情報流通に関わる専門用語や概念を一通り説明することができる ・電子ジャーナルなどの登場による学術情報流通システムの変化について考えることができる 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：講義の全体像について 2. 研究活動プロセス 3. 研究者の倫理 4. 科学コミュニケーションモデル 5. 学術論文の構造 6. e-print archive について 7. 電子ジャーナルについて 8. メディアの電子化が研究者にもたらす影響 9. 研究者とオープンアクセス運動 10. まとめ 				
成績評価の方法	学期中に 2～3 回課す予定のレポートによる。レポートの採点基準は、1)論理的な文章を書けているかどうか、2)学術情報の基本的な構造を理解できているかどうか、3)指定された形式にしたがっているかどうか、である。出席状況を加味するかどうかは受講生と相談の上で決定したい。				
教材・教科書・参考書等	<p>参考書：倉田敬子. 学術情報流通とオープンアクセス. 勁草書房, 2007, 196p.</p> <p>参考書：日本図書館情報学会編. 学術情報流通と大学図書館. 勉誠出版, 2007, 217p.</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	レポートを複数回課す予定。分量はどれも A4 判 2～3 枚程度のものとする。ただし、第 1 回レポートの出来や講義における受講生の反応などを見ながら、第 2 回以降のレポートの内容や分量を変更する可能性もある。				
備考 講義のホームページ等	大学図書館や学術情報流通に関心を持っている人はもちろんのこと、一般の人々とメディアとの関係について学びたいと思っている人にとっても有意義な授業にしたいと考えています。多様な方向性を持つ学生の受講を希望します。				

学期曜時限	2 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A103	3・4 年	2 単位
担当教員	石井 啓豊	オフィスアワー と研究室	木 4 限 315		
授業概要	<p>「システム思考」は、複数の要素からなる全体（システム）が要素間の相互作用を通じて特有の性質が創発するという見方によって対象をとらえ、環境との相互作用の中でのシステムの行動や適応を考察する思考法である。自然科学・工学分野から人文社会科学分野にいたる幅広い学問領域や、現実世界の問題発見や解決の領域においても用いられている。</p> <p>授業では、現実のモデル化についての概説と入門的なモデル作成演習を通じて、モデルの意味を把握する。ついで、システム概念とシステム思考、システムモデルについて概説し、人間活動等を対象として、システム思考を用いて理解し、対象に働きかける方法とモデル化について概説する。</p>				
学習・教育目標	<p>この授業の目的は、社会や人間を対象としたモデルの意味を理解し、システム思考による探求の方法についての理解を深めることである。この授業によって、モデルについての基礎知識と、システム概念、制御等のシステム思考の基礎知識を得ることができ、また、現実世界を認識するための方法として、システム思考を用いるための基礎を養うことができる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現実とモデル 2. 概念モデル 3. モデル作成演習 1 4. モデル作成演習 2 5. システム概念 1 6. システム概念 2 7. システム思考とシステムモデル 8. 様々なシステムアプローチ 1 9. 様々なシステムアプローチ 2 10. システム思考演習 				
成績評価の方法	試験とレポート（配点は実際に行った演習の分量によって定める）によって総合的に判定する。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配付する。また、授業の中で参考書等を紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	授業後の復習として、毎回の授業内容を A4 用紙数枚程度にまとめて整理するのが有効である。特に演習は、一部でも欠席をすると意義がなくなってしまうので、授業、演習ともにきちんと出席することが重要である。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A105	3・4 年	2 単位
担当教員	歳森 敦	オフィスアワー と研究室	木 9:30～11:30 7D114		
授業概要	数量的なモデル分析を通じて共同体における知識・情報の利用とそれにもとづく様々な活動について学ぶ。主として地域コミュニティと図書館サービスを取り上げながら、サービスを構成し、展開していく上での意思決定とそれを支える利用統計、利用者調査など数値的な指標の分析、モデル化、推定の実際（SPSS を用いた演習を含む）について論じる。				
学習・教育目標	利用者がサービスを利用・選択する行動を説明する行動モデルの基礎を理解する。 サービスの配置・資源配分に関する基本的な数理モデルの理論と方法を理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニティに対する情報サービス 2) サービス利用者の把握 3) 広域的な資源配置計画 4) 専門家の意思決定 5) サービス価値の計測 6) 利用者の選好意識 (1) 7) 利用者の選好意識 (2) 8) ロジットモデル 9) サービス提供と政策評価 10) まとめ 				
成績評価の方法	レポートによる				
教材・教科書・参考書等					
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	複数回の課題を課す。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 月曜 3・4 限	教室	7A101	3・4 年	2 単位
担当教員	植松 貞夫	オフィスアワー と研究室	月 10:30～13:00 研究棟 3F 秘書室		
授業概要	建築はある目的に使われるために建設される。図書館建築は図書館の活動、サービスが展開される場として建設される。従って建設の事前に、どのような活動・サービスが展開されるべきであるか、それに対応した建築はどのような内容や姿・形であることが相応しいかの両面について計画する必要がある。本講義では、建築の立場から活動・サービスを捉え、図書館建築の構成要素をどのように捉え、組み立てていくかという建築計画の実際を通じて、図書館建築が図書館のサービスや利用者の行動に与える影響とそれら行動を踏まえた計画論の基本を学ぶ。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 図書館建設を担当する立場になった時に、自館のあるべき姿について構想できる。 (2) 自分の勤務する図書館の建築が活動・サービスに即した十分な性能を発揮しているか、不十分な点がないかについて認識できる。 (3) 図書館利用者として、利用している図書館の建築を評価できる。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 図書館建築とは：図書館の活動・サービスと建築 (2) 図書館サービスの考え方と図書館建築の変遷について (3) 図書館の地域計画 (4) 図書館建築計画の骨格、構成要素とは (5) 主要スペースの計画の考え方 (6) 家具や室内環境の計画の考え方 (7) 複合施設内図書館での計画、既存施設の転用計画 (8) 事例に学ぶ図書館建築計画 				
成績評価の方法	<p>試験</p> <p>評価のポイントは細かな知識の修得ではなく、本講義を通じた図書館建築計画の基本的な考え方についての理解度や、自分なりの考え方を獲得したかに主眼を置く。</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>必要な資料は適宜配付する。</p> <p>参考書：『建築から図書館をみる』（勉誠出版、1999年、植松貞夫） 『建築設計資料集成（教育・図書）』（丸善、2003年、日本建築学会編）</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	公共図書館や大学図書館を定常的に利用し、図書館利用者としての空間感覚や他の利用者の利用行動について、実感として捉えたり注意しているようにして欲しい。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A106	3・4 年	2 単位
担当教員	中山 伸一	オフィスアワー と研究室	月 1・2 限 7D410		
授業概要	知識を生み出すのは、人間の本質的な機能である。しかし漠然とデータを見ていても、そこに内在する関係を見いだす事は難しい。ここではデータを分析・評価する手法、およびそれから知識を創出するための様々な手法について述べる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図表表示法の特徴を説明できる ・ 類似度と距離の概念を説明できる ・ 非階層のおよび階層的なクラスタリングを実際に行える 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 : 知識構造化とは 2 : データの特性について 3 : 図表表示法 4 : 探索的データ解析 5 : 様々な類似度・距離の考え方 6 : 非階層的クラスタリング 7 : 階層的クラスタリング (融合法) 8 : 階層的クラスタリング (分裂法) 9 : 競合学習と自己組織化マップ 10 : 主成分分析と数量化 III 類・IV 類 				
成績評価の方法	出席および授業中の作業への取り組み状況、レポート、試験をそれぞれ等価に評価する。なお、レポートは、その結果と作業内容の理解を中心に評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書『探索的データ解析入門』渡部洋ほか著.朝倉書店, 1985. 『クラスター分析』J.A.Hartigan 著.マイクロソフトウェア, 1983. 『パターン情報処理』長尾真著.コロナ社, 1983. 『多変量統計解析法』田中豊ほか著.現代数学社, 1983.</p>				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	各種の知識構造化の考え方について、あらかじめどのように行えば良いかを考えさせる。授業で解説した方法についての実践を授業後に行わせる。これらについては5回程度をレポートとして提出させる。				
備考 講義のホームページ等					

GE6 1301 情報評価

Evaluative Informetrics

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A106	3・4 年	2 単位
担当教員	芳鐘 冬樹	オフィスアワー と研究室	月 5 限 7D414		
授業概要	情報の生産，流通，蓄積，提供，利用の諸側面における情報評価の意義と方法論について，学術情報を中心に学ぶ。また，研究評価や図書館に関連する評価の実際についても幅広く学ぶ。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 「情報」の中でも，特に，学術文献を中心とする文献を対象として，その生産，流通，蓄積，提供，利用の各フェーズにおける評価手法について理解する。 ● 個々の評価手法について学ぶとともに，情報評価という行為を，評価対象（被評価者/物）・評価者のタイプ，評価の目的といった視点から俯瞰的に整理して理解する。 ● 情報評価に関わる実際の分析・研究の批判的検討を通して，評価の問題点・限界と，それらを考慮した上での評価の意義について理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「情報」の中での「学術情報（文献）」の位置付け 2. 評価対象，評価者，評価の目的 3. 文献の生産から利用までの流れ 4. 各フェーズにおける具体的な評価手法・指標 5. 量的評価と質的評価 6. 評価手法に対する批判的検討 				
成績評価の方法	レポートにより成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業時間に提示する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業で紹介する参考書を適宜参照し，授業内容に関する理解を深める。				
備考 講義のホームページ等					

GE6 1401 計量情報学

Infometrics

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	真栄城 哲也	オフィスアワー と研究室	火 13:00～15:00 7D409		
授業概要	情報の発信や利用に関する諸現象を計量的に解析するための手法とその実例，そこから導かれる特徴について紹介する．また，応用としてこれらの結果に基づく情報サービスへの展開について紹介する．				
学習・教育目標	情報を計量する方法，様々な物事とそれらの関係を全体的に捉える方法，これらの方法を用いた学術論文やインターネット上の情報，文章を分析する方法，を習得し，分析から得られる結果を説明できる．また，分析結果を応用する方法について説明できる．				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量の計測，通信理論，ネットワーク理論 2. 言語・文章の特徴，暗号，書き手の特徴，文章の比較 3. 学術論文の生産・利用の定量的な特徴 4. 学術論文の生産性，共著分析，共著ネットワーク，学術論文の引用ネットワークの特性 5. WEB ページ，ブログネットワークの特性 6. その他 				
成績評価の方法	出席状況，レポートおよび質問により総合的に評価する．				
教材・教科書・参考書等	教材：必要に応じてプリントを配布する． 参考書：村上，「真贋の科学」，朝倉書店 Watts，「スモールワールド」東京電機大学出版局 必要に応じて紹介する				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	配布テキストの予習と復習、およびレポート課題				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A101 集合				

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	長谷川 秀彦	オフィスアワー と研究室	水 16:00～17:00 7D211		
授業概要	<p>大量のデータから未知の規則性を探し出すための手法として、相関ルール抽出、帰納学習などのデータマイニングの典型的な考え方と方法について学ぶ。元々、「マイニング」とは鉱脈から金などを掘り出すことを意味する言葉であり、データマイニングは、大量データの中から有用な情報を引き出す技術として、企業のマーケティングや戦略決定など様々な場面で用いられている。本講義では、基礎知識、用いられる手法、アルゴリズムなどを紹介し、実際にコンピュータ上でそれらを使って処理をすることでデータマイニングの総合的な理解を目指す。</p>				
学習・教育目標	<p>データマイニングに必要な基礎知識を理解する 代表的な手法の使い方を習得する コンピュータ上のソフトウェアに慣れる</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データマイニングの概要（データマイニングとは何か、どのような応用例があるか） 2. データ解析の基礎（データマイニングの背景となる知識など） 3. データマイニングの手法（判別・予測するための様々な手法、高速化のアルゴリズムなど） <ul style="list-style-type: none"> ・クラスタリング ・決定木 ・SVM・判別分析 ・相関ルール ・帰納学習 4. MATLAB を利用したコンピュータ実習 				
成績評価の方法	<p>2 回程度の課題と期末テストによって評価する 採点方針は未定</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>検討中</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>コンピュータを利用したデータ解析ができることが望ましい (Excel や MATLAB を利用したり、プログラミングをしたり、自分に合った道具が使えること)</p>				
授業外の学習内 容・方法	<p>課題を完成させるには、コンピュータを利用した試行錯誤が不可欠である 課題をまとめるためには、各種文献にあたらなければならない</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>初回は 7A101 集合</p>				

学期曜時限	2 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A207 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	鎮目 浩輔	オフィスアワー と研究室	水 3 限 7D314		
授業概要	遺伝的アルゴリズム、ニューラルネット、ファジイ情報処理、量子計算等の新しい計算パラダイムの概要及び数学的・技術的基礎を学ぶ。				
学習・教育目標	・ 伝統的な手続き型アルゴリズムとは異なるアイデアに基づく上記の計算パラダイムについて、そのアイデアの概要を簡単なプログラム例を通して理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝的アルゴリズム(GA) 基本的アイデア：適応度、選択、増殖の繰り返しによる最適値探索 単純 GA のプログラム例 スキーマ定理と積み木仮説 拡張 2. ニューラルネット ニューロンモデル パーセプトロンとその学習 逆伝播法 3. ファジイ情報処理 ファジイ集合とその演算、推論のファジイ化 4. 量子情報処理 0 と 1 の重ね合わせ状態とその応用 				
成績評価の方法	期末試験による。				
教材・教科書・参考書等	プリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	基礎数学 A,B、統計およびプログラミング演習 I を履修していること。またはそれとほぼ同等の知識があること。				
授業外の学習内容・方法	練習問題を出題するので、それをときながら復習をすること。				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A207 集合				

MEMO

知識情報システム専攻

学期曜時限	1・2 学期 月曜日 5・6 時限	教室	7B206 7C102	3 年	2 単位
担当教員	知識情報システム主専攻教員	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	情報の組織化, 閲覧, 検索の実装など知識情報システムを実現するための基本的な技術を身につける。さらに, 与えられたテーマ (選択制) に対する知識情報システムを立案・検討し, 実装する。作成したシステムについてのプレゼンテーションを行い, それぞれの成果を評価し合う。それぞれの実習は少人数 (3 名程度) のグループに分かれて行なう。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 知識情報システムの構築に関わる基本的な技術を身につける。 知識情報システムを実現するための実践的な知識と技術 (問題の分解, クラス設計など) を身につける。 				
授業計画	<p>1 学期: 共通課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入 (実習の説明, 知識情報演習の復習) (1 週目, 7B206 集合) 知識情報演習の成果を応用したシステムの構築 (2 週目~9 週目) 発表 (10 週目) <p>2 学期: 選択課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入 (実習の説明) (1 週目, 7B206 集合) 知識情報システム構築実習 (2 週目~9 週目) <ul style="list-style-type: none"> 1. 要求定義 2. システム設計 3. システム実装 発表 (10 週目) 				
成績評価の方法	2 回 (1 学期と 2 学期) の発表, 出席状況およびレポートによって評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて授業時に提示する。				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	知識情報演習 I, II, II を修得済みであることを前提とする。3 年次編入生は実習最初に紹介する資料を自習材料として学習をすすめておくことが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	実習時間外に各グループで試行錯誤を繰り返しながら, 与えられた課題を完成させる。				
備考 講義のホームページ等	各学期の出席率が 7 割に満たない場合、または課題のレポートを提出しない場合は、単位を与えない http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/				

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7C102 7B206	3・4 年	2 単位
担当教員	松村 敦	オフィスアワー と研究室	木 6 限 7D212		
授業概要	インターネット上で運用されている様々な情報サービスシステムを実際に体験しながら、その仕組みと効果を理解する。特に、利用者の視点に立ち、よりよい情報サービスシステムのあり方について考察する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在ある情報サービスシステムを構成する情報処理技術を理解する。 ・ 利用者にあつたサービスを多面的に設計していく能力を磨く。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報サービスシステムについて ・ 情報サービスシステムの種類 ・ 情報サービスシステムの技術 ・ 情報サービスシステムの例 ・ 利用者の思考とシステム設計者の思考 ・ 利用者のための情報サービスシステムとは 				
成績評価の方法	複数回出題する課題を総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	特になし。参考情報等は適宜 Web 上に掲載する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中に出題する課題を行う。 ・ 実際の情報サービスシステムを積極的に利用し、情報サービスについて考える。 				
備考 講義のホームページ等	講義補助のための Web ページ : http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/ 初回は 7C102 集合				

学期曜時限	2 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A106	3・4 年	2 単位
担当教員	石塚 英弘	オフィスアワー と研究室	月 7 限 専攻長室		
授業概要	デジタルドキュメントとしては PDF, Web ページ, CD-ROM による電子本などがある。この講義ではそれらのデジタルコンテンツを紹介し, その特徴と構成・機能・手法を説明する。また, デジタルドキュメントの基盤となる文書構造(ドキュメント構造)の概念を解説し, ドキュメント構造の表現手法であり, ドキュメント・データベースの技術でもある XML(Extensible Markup Language)による記述について解説する。そして, デジタルライブラリや電子出版との関係も明らかにする。				
学習・教育目標	デジタルドキュメントに関する以下の事項を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメントの構造とその表現手法 ・デジタルドキュメントの構成と機能 ・デジタルドキュメントの構築とその技術 ・デジタルライブラリにおけるデジタルドキュメントの位置づけ 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに デジタルドキュメントとは, 電子出版との関係, デジタルライブラリとの関係 2. 各種デジタルドキュメント その特徴と機能, デジタルドキュメントとビューアまたはブラウザとの関係, デジタルドキュメントの構成と手法 3. 文書(ドキュメント)構造 4. ドキュメント構造の表現手法: XML 5. ドキュメント構造表現の規格: ISO 12083 6. ドキュメント構造表現の規格: TEI(Text Encoding Initiative)など 7. XML 方式のドキュメント・データベース 8. XML 方式による電子出版 9. デジタルドキュメントの観点から見たデジタルライブラリ 10. おわりに代えて: 将来展望 				
成績評価の方法	期末試験の成績による。試験問題の出題、採点の際は上記の学習・教育目標を重視する。				
教材・教科書・参考書等	使用しない。必要に応じて、資料を配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年次以下の履修を認めない 情報基礎は履修済みであること				
授業外の学習内 容・方法	講義ノート、配布資料などをよく復習すること				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A105	3・4 年	2 単位
担当教員	宇陀 則彦	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D210		
授業概要	デジタルライブラリが包含する世界、すなわち、電子図書館、電子文書館、電子美術館、電子博物館について、主にサービスの視点から解説する。特に、電子サービスが最も高度化している学術情報サービスを題材に、技術とマネジメントの両面から論じる。クライマックスは筑波大学附属図書館が提供する電子図書館 TULIPS の裏側を知ることができることであり、欧米の電子図書館と比較して、どのくらいのレベルにあるのかを知ることができる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館サービスにおける電子図書館の位置づけが理解できる。 ● インターネットにおける電子図書館の位置づけが理解できる。 ● 電子図書館は資料を単純に電子化したものでないことが理解できる。 ● 電子図書館は単なるホームページでないことが理解できる。 ● 電子図書館はシステムの側面よりサービスの側面が強いことが理解できる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子図書館の歴史とその影響 — 図書館業務システムから電子図書館システムへ— 2. Web2.0 と Library2.0 の世界 — Google と図書館 — 3. ドキュメントデリバリの変革 — 電子ジャーナルとリンクシステム— 4. 機関リポジトリ — 図書館の逆襲あるいは幻想— 5. 電子図書館のデザイン (1) — 図書館ポータルの限界— 6. 電子図書館のデザイン (2) — 電子図書館の評価— 7. 知的生産環境としての電子図書館 — 非定型学習とオープンコースウェア— 8. デジタルアーカイブ — その似て非なるもの— 9. 文化情報資源の共有化 — メタデータの多様化— 10. 電子図書館マネジメント — 知識創造型図書館に向けた経営戦略— 				
成績評価の方法	レポート				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	様々なデジタルライブラリを観察し、評価すること。他の授業との関連を図にすること。				
備考 講義のホームページ等	講義のページ http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/lecture/ 初回は 7A105 集合				

学期曜時限	2 学期 集中 (9/4, 11, 18, 25 の 1~5 限)	教室	7A208	3・4 年	2 単位
担当教員	岩丸 良明	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	<p>企業や組織がどのように情報技術を活用しているかについて、事例を参考にしながら学習する。企業や組織が基本的に備えておくべき経営管理機能やそれを支援する情報システムと、ネットワークを活用した情報システムについて学習する。</p> <p>情報の活用が進めば進むほど、情報の取り扱い方が大切になってくる。プライバシーと情報セキュリティを中心とした課題について確認し、対応について考える。</p> <p>情報システムを職業とする人々（専門家）への期待・役割と人材像，専門家としての法と倫理などについても確認する。また、今後、情報システムの専門家として一層の、自己研鑽，継続学習を続けていくための指針について確認し、講義のまとめとする。</p>				
学習・教育目標	<p>経営の観点から見た情報システムの概要を理解する。</p> <p>経営にかかわる情報システムの概要と、その具体例として、身近な小売業で POS (販売時点管理)システムがどのように使われているか、どのようなことを狙って導入されているかを学ぶ。企業経営の視点から情報システムへの期待を実感するとともに、POS で集めた情報をどのように加工して経営に活用していくか、そのためには何が必要かを学習する。</p> <p>また、政府の電子政府構築や業務・システム最適化への取組み、インターネットを活用した e ビジネス、顧客情報の戦略的活用とそれに関連する課題と対応などについても学習する。</p>				
授業計画	<p>4 日間の集中講義とし、試験は日を改めて行う。講義の予定は概ね次のとおり。:</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 日 ①オリエンテーション、②社会と情報システム、③経営管理と情報システム、④情報システムの計画・構築・運用の手順 第 2 日 ①社会の中の情報システム、②情報サービス産業、③銀行の情報システム、④流通情報システム 第 3 日 ①データの有効活用、②電子政府、③インターネットと電子認証、④個人情報保護 第 4 日 ①情報化と知的財産、②情報システム専門家の倫理・法、③情報システム専門家の自己研鑽、④まとめ 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点（出席状況および授業への参加度等）、レポート（2 回予定）、試験の結果を総合的に評価する。平常点並びにレポートが約 50%、試験が約 50%の重みを持つ。 総合点 60 点以上を合格とする。 				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は使用せず、プレゼンテーション用の資料を提示する。</p> <p>参考書は、プレゼンテーション用の資料に記載する。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし。				
授業外の学習内容・方法	<p>社会の動きに敏感になってもらうため、新聞（紙）を読んで情報システムについて論じる報告課題を出題する。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>本科目は経営学(Management Science)分野の科目である。</p> <p>知識科学主専攻と情報経営・図書館主専攻の学生は GE8 0401 を、知識情報システム主専攻の学生は GE7 2101 を履修登録してください。</p>				

GE7 0501

情報検索システム

Information Retrieval Systems

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員		オフィスアワー と研究室			
授業概要					
学習・教育目標					
授業計画	・				
成績評価の方法					
教材・教科書・ 参考書等					
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D312		
授業概要	現在の代表的通信ネットワークのインターネットでは、World Wide Web(Web)の機構を用いて様々な情報提供や取引、人や組織間のコミュニケーション等が行われている。Web 上で情報提供やコミュニケーションの機能を実現するためには、Web のサーバ側プログラミング技術が欠かせない。サーバ側プログラミング技術について基本原理とその実際について学ぶ。またネットワークに関わるプログラミングで重要なセキュリティ問題について解説し、事例を紹介する。必要に応じて Web クライアント(ブラウザ)側のプログラミングについても取り上げる。以上の講義内容の理解を深めるために、プログラミングを中心とした実習も行う。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> Web サーバとサーバ側プログラミングに関する基本原理を理解する。 Web の機構を用いて情報提供をするようなプログラムを作成できるようになる。 ブラウザ側のプログラミングの基本原理と実際を理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Web の基本原理 Web サーバの機能とその拡張手法 CGI (Common Gateway Interface)に基づくプログラミング CGI プログラミングとプログラムライブラリ CGI の問題と他手法(サブレットなど)の比較 Web アプリケーションフレームワークとは クライアント側プログラミングと Ajax, Web-API について Web プログラミングとセキュリティ問題 以上について随時実習を行う				
成績評価の方法	実習のレポート(課題のプログラムが完成しているかどうかを評価する) および筆記試験				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。 必要に応じて参考書を随時紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミング演習 I および II は履修済みであること。 知識情報演習 I も履修済みであることが望ましい。				
授業外の学習内 容・方法	プログラミング課題のレポートを出題する。課題の内容としてはサンプルに若干手を加える程度 のものを 2 回程度予定している。				
備考 講義のホームページ等	授業情報 Web ページ: http://www.sakalab.org/lectures/ 初回は 7A101 集合				

学期曜時限	3 学期 金曜日 1・2 時限	教 室	7A101	3 年	2 単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワー と研究室	月・火 10:00~11:00 7D202		
授業概要	図書館においても従来の冊子体の文献だけでなく、デジタルドキュメントや、CD、DVD などのマルチメディアコンテンツが扱われている。また実際に我々の生活自身にもマルチメディアは切っても切れないものとなっている。そこで、本講義では、マルチメディア工学の基礎、および実際のデジタル情報の編集加工などについて学ぶ。また、技術的側面だけでなく各種マルチメディアサービスや社会との関連についても学ぶ。				
学習・教育目標	マルチメディアを支える、いろいろなデジタル技術について、その原理等を理解するとともに実際に簡単な例題を行ってみる。また、Mathematica などを使い、マルチメディア処理の実際を体験する。この分野は進歩の激しい分野であるが、最新の動向なども調査し、発表を行うことで理解を深める				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 マルチメディアとは 3 音声情報 4 画像情報 文字認識 5 映像情報 6 各種ファイル形式 7 関連技術 大容量記録媒体 8 インターネット上の情報 9 マルチメディアサービス 10 成果発表会（テーマを決めて最新の動向について発表する） 				
成績評価の方法	レポートと試験。毎回行うクイズと出席も重視する。				
教材・教科書・参考書等	参考書：「マルチメディア ビギナーズテキスト第2版」松本紳、小高和己 東京電機大学出版局 また、必要に応じて資料を配布する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内 容・方法	3 回程度の課題を課す。授業時間以外の時間に、これらの課題を行なう必要がある。				
備考 講義のホームページ等	内容は入門程度であるので、前提知識等は特に必要としない。初歩的な数式を用いることがあるが、その都度説明する。				

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7C102	3・4 年	2 単位
担当教員	鈴木 伸崇	オフィスアワー と研究室	金 6 限 7D204		
授業概要	本講義の前半では、データの表現について、XML のデータモデルとスキーマ言語、メタデータの基礎とその記述方法などについて説明する。後半では、データの処理に関して、まず XPath のデータモデルについて説明した後、XPath や XQuery による XML データの検索・加工に関して述べる。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> XML のデータモデルを理解する メタデータの基礎を理解する XML の検索言語を習得する 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 前半：データの表現(5 回) <ul style="list-style-type: none"> XML データの基礎 XML のスキーマ言語(DTD, XML Schema) メタデータの基礎 RDF によるメタデータの記述 後半：データの処理(4 回) <ul style="list-style-type: none"> XPath のデータモデル XPath による XML データの検索 XQuery による XML データの処理 予備(1 回) 				
成績評価の方法	出席状況・小テスト(30%)およびレポート(70%)				
教材・教科書・参考書等	授業時に資料を配布する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	配布資料をよく読み、内容の理解に努める必要がある。また、授業時に課題を指示する。				
備考 講義のホームページ等					

GE7 0901 データベース技術

Database Technologies

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7C102	3・4 年	2 単位
担当教員	森嶋 厚行	オフィスアワー と研究室	月 11:30-12:30 7D507		
授業概要	データベースシステムを実際に構築する際の諸技術と必要知識について、リレーショナルデータベースを主な対象にして、API(Application Program Interface)をとおしたアプリケーションとの連携、スキーマ定義、インデックスの利用と効果などを、演習を交えながら学ぶ。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者が、自力でデータベーススキーマの設計やインデックスの設定、Web-DB 連携アプリケーションの構築などを行うために必要なスキルを習得すること。 2. それらの過程で遭遇する諸問題に関して、必要な解決能力を身につけること。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. リレーショナルデータベース基礎と演習環境の説明 2. SQL 言語と MySQL 処理系 3. リレーショナルデータベースのスキーマ設計 4. リレーショナルデータモデルと正規化 5. PHP 言語とデータベース 6. データベースからのデータ表示 7. データ検索と連続した処理 8. データの追加・削除・更新 9. インデックスとトランザクション 10. システム発表と相互評価 				
成績評価の方法	小テスト、毎週のレポート、最終課題(データベースアプリケーション)作成、最終テスト				
教材・教科書・参考書等	教科書は適宜指示する。参考書は、(1)「データベースシステム」北川博之、昭晃堂、(2)「リレーショナルデータベース入門」増永良文、サイエンス社、など。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・「データベース概説」(3編の場合は同等の科目)を履修済みであること。 ・アプリケーションシステムの構築にあたり、手続き型プログラミングの知識が必要。 				
授業外の学習内容・方法	最終課題に向けて、順次レポートを完成させていく。その途中経過を毎週提出する。				
備考 講義のホームページ等	演習機器の関係により、多人数の場合に履修制限をする可能性がある。				

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A101 7C102	3・4 年	2 単位
担当教員	時井 真紀	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 7D203		
授業概要	人間とマシンの間でのコミュニケーションをいかに人間にとってわかりやすくするかについて概説する。たとえば、様々な観測、計算等から得られた数値データは、グラフや画像として可視化することによって、はじめてそのデータの中に潜む情報が直観的に読み取れるようになる。また、グラフィカルなユーザインタフェースを用いることによって、人とマシン間の情報の取得と提供をスムーズに行うことができる。このようなグラフィックスを用いた技術について概説する。				
学習・教育目標	データの可視化技術について学び、主として数値データを可視化する技術を身につける。サービスを提供するためのシステムにおけるユーザインタフェースの役割について学び、作成する技術を身につける。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数値データの可視化技術の紹介 2-4. (演習) 数値データの可視化 <ul style="list-style-type: none"> ● 数学ソフト Mathematica, gnuplot を使い、様々なグラフを作成し、数値データを視覚化する 5-6. グラフィカルなユーザインタフェースの紹介 <ul style="list-style-type: none"> ● インターフェイスの役割を考える 7-10. (演習) GUI の作成、評価実験 				
成績評価の方法	授業中の課題とレポートを総合して評価する				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	配布した資料の復習とレポート課題				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A101 集合				

学期曜時限	1 学期 木曜日 5・6 時限	教室	3A402	3・4 年	2 単位
担当教員	田中 二郎 jiro(AT)cs.tsukuba.ac.jp 三末 和男 misue(AT)cs.tsukuba.ac.jp	オフィスアワー と研究室	木 13:45～15:00 総研 B1004 月 16:00～18:00 3C316		
授業概要	ユーザの側に立ったヒューマンインタフェースの考え方について説明する。Tcl/Tk、視覚的インタフェース技術について学習する。				
学習・教育目標	ユーザの側に立ったヒューマンインタフェースの考え方について理解すること。同時にこれらの考え方にもとづき簡単なインタフェース設計ができるようになること。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) ユーザの側に立ったヒューマンインタフェースの考え方、日常のヒューマンインタフェース ヒューマンインタフェースのキーワード、コピー機、パソコン、リモコン、 センシティブティ 2) ヒューマンインタフェースの原理、ユーザ中心デザイン、インタフェース設計 ヒューマンインタフェースの原理、ユーザ中心デザイン、シュナイダーマンの 8 項目、 技術と標準化、ユニバーサルデザイン 3) 工業デザインとヒューマンインタフェース 人間の欲求、機能主義と記号主義、工業製品の色、自動車のデザイン 4) Tcl/Tk(1) Tcl/Tk の基礎 5) Tcl/Tk(2) Tcl/Tk による GUI の記述 6) 視覚的インタフェースの基礎 情報可視化の位置付け、枠組み、視覚的表現の基本構成 7) 視覚的な表現における認知的な性質 前注意的視覚属性、ゲシュタルト要因 8) 視覚的な表現形式 図的表現の基本系 (座標系、配列系、領域系、連結系) 9) 連結系表現の描画技術 グラフの形式的記述、グラフ自動描画法の枠組み 10) グラフ自動描画技術 グラフの描画法概論、バネモデルによる無向グラフの描画 (演習) 				
成績評価の方法	身近なヒューマンインタフェースの事例について調査及び考察をおこない、レポートの形で提出する。また、Tcl/Tk を用いた簡単な描画に関するレポートや情報可視化技術に関するレポートを提出する。成績は、テスト、レポート、出席状況などから総合的に判定する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて毎回の講義の最初にプリントを配布する。 参考書： 誰のためのデザイン? (D. A. ノーマン、新曜社)、はじめての Tcl/Tk (浅野理森、技術評論社)、図の体系 (出原栄一他、日科技連)、デザインング・インターフェース — パターンによる実践的インタラクションデザイン (J. Tidwell、オライリー・ジャパン)、グラフ自動描画法とその応用 — ビジュアルヒューマンインタフェース (杉山公造、計測自動制御学会)				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法					
備考 講義のホームページ等	情報科学類開設「ヒューマンインタフェース」と共通				

学期曜時限	1 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A102	3・4 年	2 単位
担当教員	緑川 信之	オフィスアワー と研究室	随時 7D306		
授業概要	知識の組織化および知識資源の組織化の中で、対象世界の構造を分析し、表現することに焦点を当てる。対象世界の構造を分析し表現することの代表的な例は分類である。分類は、対象がどのような構成要素からなり、それら構成要素間の関係がどのようになっているのかを明らかにして、それを表現することを行う。対象世界の構造の分析・表現は、分類以外にも様々な形で行われている。図書館情報学の中では、索引もそのひとつである。また、会社や工場の作業工程を構成要素に分け、それらの間の関係を分析することでより効率的な作業工程を見つけたり、作業工程のモデリングを行うことも、対象世界の構造分析・表現といえる。対象世界の構造を表現・モデリングしたものをオントロジーとよぶことにする。分類表やシソーラスはオントロジーの一種といえる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場で行われている対象世界の分析、表現・モデリングをオントロジーという視点から統一的に把握する。 ・オントロジーの代表として分類表をとりあげ、その体系についてデューイ十進分類法、アメリカ議会図書館分類法、コロン分類法などの例をみながら理解を深める。 ・分類表以外のオントロジーとして人工知能における知識ベース、UML などのモデリングシステム、セマンティックWebにおけるオントロジーなどの考え方を理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要 知識の組織化と知識資源の組織化／オントロジー 2. 分類表の体系 区分／構造／配列／表示／記号 3. 知識ベースとオントロジー工学 知識ベース／オントロジー工学 4. モデリング UML／トピックマップ／マインドマップ 5. セマンティックWeb XML／RDF／RDFスキーマ／OWL／SKOS 				
成績評価の方法	試験およびレポート				
教材・教科書・参考書等	資料を配付する。参考書として、緑川信之『本を分類する』勁草書房、1996 谷口祥一、緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房、2007				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「知識資源組織化論」を履修済みであること				
授業外の学習内容・方法	適宜、レポートを課す。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A102	3・4 年	2 単位
担当教員	谷口 祥一	オフィスアワー と研究室	木 6 限 7D303		
授業概要	<p>図書館目録や各種書誌データベースにおける知識資源の記述法を中心に、メタデータの構成と設計法、さらには作成と提供の実態などについて学ぶ。</p> <p>本講義の前半では、メタデータの設計の流れに沿って、それぞれの段階の設計事項と事例を確認する。後半は、メタデータの検索システムの仕組みと多様な事例、メタデータの作成の実態を概観する。加えて、特定タイプの知識資源の発見・入手を目的としたメタデータ、汎用的なメタデータの代表例であるダブリンコア・メタデータ、さらに RDF、RDF スキーマとの関係などについて概観する。</p>				
学習・教育目標	<p>知識資源の組織化（管理やアクセスなど）を目的とする基本的データであるメタデータについて、包括的な理解を得ることを目標とする。具体的には、メタデータの構成とその設計法、作成と提供等について、理論および実態を理解することを目標とする。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. メタデータの要求定義と概念設計（概念モデリング） 2. 同上 3. データ項目の選定と定義、データ項目値の記述処理方式 4. エンコーディング方式とデータベース設計 5. メタデータの検索システム（OPAC その他） 6. メタデータ作成処理の集中化・共同化 7. 作成処理共同化の典型例：書誌ユーティリティと総合目録システム 8. 特定タイプの知識資源の発見・入手を目的としたメタデータ 学習オブジェクト・メタデータ、文書館における記録史料メタデータなど 9. ダブリンコア・メタデータ 10. RDF、RDF スキーマ、OWL、SKOS 				
成績評価の方法	<p>BRD 方式（当日ブリーフレポート提出方式）とするか、学期末試験とするかは受講生と相談の上、決定する。加えて、レポート課題を 1 回課す予定。なお、著しく低い出席状況については減点することもある</p>				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書：谷口祥一，緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房，2007 補足資料は、プリントとして配布します</p>				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	<p>「知識資源組織化論」、「知識情報演習 I」を履修していること</p>				
授業外の学習内容・方法	<p>授業内容の再確認による復習、教科書の該当箇所の内容確認による復習 レポートは、1 回課す予定</p>				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A 102	3・4 年	2 単位
担当教員	辻 慶太	オフィスアワー と研究室	水 12:00～13:00 7D512		
授業概要	本講義では知識資源の用語を適切に管理・集積する方法を学ぶ。用語管理の代表的ツールとしてシソーラスや件名標目表があるが、本講義では特にシソーラスについて、その意義・構造・使用法及び自動作成の方法を学ぶ。				
学習・教育目標	まず用語管理の基本ツールであるシソーラスや件名標目表、各種用語集の実際例を見ながら、その意義・構造・使用方法を理解する。また近年シソーラスを自動構築する研究が行われているが、テキストから用語を自動的に抽出し関連付けるにはどのような方法や問題点・解決策があるかを学ぶ。具体的にはキーワード抽出（自動索引）、専門用語抽出、また用語間の同義関係・階層関係・日英の対訳関係等の抽出方法について理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) シソーラス・件名標目表の概要及び有効性 (2) シソーラス・件名標目表の歴史 (3) シソーラス・件名標目表における用語の関係付け (4) シソーラス・件名標目表の構造・表示 (5) シソーラス・件名標目表の構築と更新 (6) テキストからのシソーラス自動構築の概要 (7) 専門用語自動抽出 (8) 同義関係 (9) 階層関係 (10) 対訳関係 				
成績評価の方法	期末試験（90%）とレポート（10%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材は授業時間に配布する。教科書は特にない。参考書としては Jean Aitchison ら（1989）『シソーラス構築法』丸善が役に立つ。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	シソーラスや件名標目表の実例を確認し、レポートを作成する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A101 7C102	3・4 年	2 単位
担当教員	長谷部 紀元	オフィスアワー と研究室	金 5・6 限 7D207		
授業概要	グリッドコンピューティングは、インターネットを通信手段として接続された多数のコンピュータを統合的に利用するための技術である。相互に接続されたコンピュータ群の情報処理能力を、公共サービスの電力網（パワー・グリッド）と同様に利用することを目的にしている。その基礎となっているのは、インターネット技術、オペレーティングシステムなどである。本講義では、これらの基本的な技術を概観し、その上でグリッドコンピューティングの構成法や応用を述べる。また基本的な技術要素に関しての実習を行う。				
学習・教育目標	コンピュータ能力強化のためのインターネットの重要性の理解 オペレーティングシステムとインターネットの関連の理解 グリッドコンピューティングの構成と応用の理解				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. グリッドコンピューティングとは 2. オペレーティングシステム 3. インターネットの通信技術 4. グリッドコンピューティングの構成 5. グリッドコンピューティングの応用 				
成績評価の方法	数回のレポートと期末試験成績を総合して評価する。レポートは実習内容に関するものである。				
教材・教科書・参考書等	資料のコピーを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「プログラミング演習 I」, 「コンピュータシステムとネットワーク」を履修していること。				
授業外の学習内容・方法	指示する参考書を読むこと。				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A101 集合				

学期曜時限	3 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7C102	3・4 年	2 単位
担当教員	中井 央	オフィスアワー と研究室	金 3 限 7D309		
授業概要	コンパイラの構成の仕方を通し、ソフトウェアの構成方法について講義を行う。また、実習室において実際にコンピュータを使用してソフトウェアの構成についての実習も行う。				
学習・教育目標	コンパイラの構成を学ぶことにより、ソフトウェアの構成の方法がわかるほか、プログラムの実行のモデルについてもわかるようになる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 字句解析 3. 構文解析 4. 意味解析 5. 実行時環境 6. 仮想計算機 7. コード生成 				
成績評価の方法	試験またはレポート				
教材・教科書・参考書等	授業のテキストは Web で配布予定。参考書には以下のものがある <ul style="list-style-type: none"> ● 「コンパイラ」、中井央、コロナ社 ● 「コンパイラ」、中田育男、オーム社 ● 「プログラミング言語処理系」、佐々政孝、岩波書店 				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミング演習 I, II を履修していることが望ましい				
授業外の学習内 容・方法	テキストの内容を理解するためには実際にプログラムを作成し、動かしてみることが重要であるので、授業時間内にできていない部分などは実際にプログラムの作成を行うこと。また、サンプルプログラムを入力、実行するだけでなく、プログラムを自分で作れるように練習すること。				
備考 講義のホームページ等	http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai/2010/Compiler 初回は 7A101 集合				

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	佐藤 哲司	オフィスアワー と研究室	月 6・7 限 7D205		
授業概要	電子出版、ウェブでの情報発信など、デジタル化によって書籍の出版・流通・利用の形態が大きく変容してきている状況を視野に入れ、編集や検索、翻訳など、テキストを有効利用するための要素となるテキスト処理技術と、これらの技術を応用した様々なシステムについて理解を深めます。				
学習・教育目標	テキスト処理の要素技術を習得し、様々なシステムの中で実現されている機能を理解することで、テキストの作成・管理・流通を効率よく行う基礎知識を習得する。より高度なテキスト処理技術への発展や、新規な機能を有するシステムを研究開発するための基本スキルを身につけことを目標とします。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 文字コードの成り立ちとコード変換 (3) 統計的性質と文字コード識別 (4) テキストの構造理解・形態素解析 (5) テキスト流通とデスクトップパブリッシング (6) 文書の構造化 (7) 正規表現と文字列照合 (8) 文字列照合の高速化アルゴリズム (9) 文書からの索引構成法 (10) 文書の特徴量と文書間の類似性判別 				
成績評価の方法	筆記試験・受講状況などによる総合評価。				
教材・教科書・参考書等	主要部分についてテキストを配布します（配布方法は備考欄を参照のこと）。 参考書：情報検索アルゴリズム，北研二 他著，共立出版				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	各回の講義後半は演習問題に取り組みます。講義時間中には解法の筋道を示すことに重点を置くので、授業外の時間を活用して具体的なデータで実践してください。				
備考 講義のホームページ等	講義で使用するテキストは http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~satoh/index-j.html から迎れるようにしますので、各自で所定の様式に印刷して持参してください。詳細は第 1 回に説明します（7A101 集合）。				

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A204	3・4 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	火 18:00～19:30 7D214		
授業概要	知識情報システム構築の基礎となる基本的なデータ構造とアルゴリズムについて解説する。コンピュータ科学の立場から、既修の数学的知識を活用して、効率的アルゴリズムの設計・解析・評価を行うことを目指す。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的なアルゴリズムとデータ構造を理解する。 ● 与えられたアルゴリズムや解析手法に即したプログラミングができるようになる。 ● コンピュータ科学におけるレポートのまとめ方を身に付ける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アルゴリズムの計算量 計算量の定義とアルゴリズムの評価・高速アルゴリズムの設計法 2. 探索アルゴリズム 2分探索木・平衡木・B木・ハッシュ法など。 3. 整列アルゴリズム 特に2次記憶上のデータのソートについて。 4. グラフのアルゴリズム オイラーグラフ/通路/回路・2部グラフにおけるマッチング・ネットワーク 5. 多項式のアルゴリズム 多項式乗算の高速化・FFT の利用 				
成績評価の方法	複数回のレポートの総合点による。 (試験でないからといって単位が保証されているわけではない。)				
教材・教科書・参考書等	参考書：『岩波講座ソフトウェア科学3 アルゴリズムとデータ構造』石畑清，岩波書店(1989) 参考書：『岩波講座情報科学11 データ管理算法』渋谷政昭・山本毅雄，岩波書店(1983) 参考書：『アルゴリズム+データ構造=プログラム』Niklaus Wirth, 日本コンピュータ協会(1979)				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	「情報数学」「基礎数学 A」「基礎数学 B」「プログラミング演習 I」「プログラミング演習 II」の単位をすべて取得済みの者に限る。				
授業外の学習内容・方法	その日の授業内容に関連する課題を毎週示す。すべての提出を義務付けるものではないが、単位が認定されるためには、規定回数以上のレポートで合格点を取る必要がある。				
備考 講義のホームページ等					

Markup Language

学期曜時限	2 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A106 7C202	3・4 年	2 単位
担当教員	永森 光晴 杉本 重雄	オフィスアワー と研究室	月 4 限 7D412 木 11:00~12:00 ほか随時 7D416 (ただしメール予約を強く推奨)		
授業概要	データ交換のための表現形式として様々な分野で活用されている XML (Extensible Markup Language) の基礎と, XSLT (XML Stylesheet Language Transformations) を使った XML 文書の処理について取り上げる。理解を深めるために受講者が自ら実験できるようなプログラム例やアプリケーションソフトウェアの利用例も必要に応じて紹介する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ XML 文書の作成と応用 ・ XSLT を利用したデータ変換の基礎 ・ ネットワーク上で流通している XML 文書 (RSS や Atom 等) の利用 ・ 実際に自分で手を動かし XML 文書の変換を行う 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 構造を持つデータの交換 2. XML によるデータ表現の基礎 3. XML 文書の構造の定義 4. 名前空間 5. XSLT を用いた XML 文書の操作 6. XML の応用事例 7. その他 				
成績評価の方法	毎週の課題および期末レポート提出による				
教材・教科書・参考書等	講義資料は随時配布する。また、参考書や関連文献などは講義の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等	情報メディア創成学類開設「マークアップ言語」と共通 受講人数は 70 人程度を上限とする。 初回は 7A106 集合				

学期曜時限	3 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A201 7C103	3・4 年	2 単位
担当教員	長谷部 紀元	オフィスアワー と研究室	金 5・6 限 7D207		
授業概要	規模の大きいソフトウェアを設計・構築する上で重要な各種の概念・手法について講義する。取り上げる主題は、ソフトウェア開発方法論とその基礎となるオブジェクト指向である。後者に関しては、各種のデータ構造とその処理方法を、具体的なプログラム表現の読解を通じて論じる。例題記述のプログラミング言語には Java を使用する。				
学習・教育目標	ソフトウェアを開発する上で基礎・指針となる、基礎的な考え方の理解を深める。ソフトウェアを作成するときに、どのように設計すればよいか、どのように具体化すればよいか、の考え方を身につける。本講義で扱うデータ構造とアルゴリズムの関係、オブジェクト指向の考え方は、ソフトウェアの指針となるはずである。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オブジェクトの概念 2. ソフトウェア開発方法論 3. オブジェクトとデータ構造 7. データ構造と処理の再帰的性 4. 線形リスト 5. スタック 6. 木構造 				
成績評価の方法	プログラム読解のレポート				
教材・教科書・参考書等	授業に必要な資料を配付する。 (参考書) Java プログラマのためのアルゴリズムとデータ構造, 近藤 嘉雪, ソフトバンクパブリッシング ; ISBN: 4797326603				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	「プログラミング演習 I」を履修していること				
授業外の学習内容・方法	指示する参考書を読むこと				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A201 集合				

MEMO

情報経営・図書館主専攻

学期曜時限	1・2 学期 火曜日 5・6 時限	教室	7A105	3 年	2 単位
担当教員	主専攻担当教員	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	1 学期は、情報経営・図書館主専攻担当教員による研究紹介、情報サービス機関の見学又は講演を通して当該分野に対する理解を深め、クラス別の学術文献リーディングを通して基本的文献の精読、プレゼンテーション、質疑など一連の研究活動に触れる。また 2 学期には、学生が主体的に研究テーマを選択し、グループ研究を行い、担当教員の指導のもとで卒業研究に必要な基礎的な調査研究スキルを修得する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習活動を通して、図書館情報学分野への興味・関心を高め、情報経営・図書館主専攻分野における基本的知識や研究態度を形成する。 情報経営・図書館主専攻分野における研究テーマを主体的に選択し、グループ研究を通してディスカッションの方法や調査研究の基礎的スキルを修得する。 				
授業計画	<p>○1 学期の授業計画</p> <p>第 1 回 全体説明（学術文献リーディングの実施方法の説明）と情報経営・図書館主専攻担当教員による研究紹介、クラス分け</p> <p>第 2 回 情報経営・図書館主専攻担当教員による研究紹介の続き</p> <p>第 3 回～第 10 回 クラス別に学術文献リーディングの実施とプレゼンテーション ※うち 1 回は、情報サービス機関などの見学あるいは講演</p> <p>○2 学期の授業計画</p> <p>第 1 回 担当教員の研究領域の紹介、クラス分け</p> <p>第 2 回 グループ編成・グループ研究のテーマ設定</p> <p>第 3 回～第 4 回 グループ研究</p> <p>第 5 回 研究室配属のための説明会</p> <p>第 6 回～第 8 回 グループ研究</p> <p>第 9 回～第 10 回 研究発表会</p>				
成績評価の方法	各学期で作成したレポートとそれに基づくプレゼンテーション及び調査研究活動への参加状況によって総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	実習の中で適宜紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	原則として情報経営・図書館主専攻の学生				
授業外の学習内 容・方法	1 学期：各自、プレゼンテーションする論文を選んで読むこと 2 学期：グループで研究発表の準備を進めること				
備考 講義のホームページ等	1 学期は 7A105 と 7A103, 2 学期は 7A105, 7B206, 7C102 を使用。いずれも初回は 7A105 集合				

学期曜時限	1 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3・4 年	2 単位														
担当教員	葉袋 秀樹	オフィスアワー と研究室	月 6 限 7D310																
授業概要	図書館とは何かについて概説し、これからの図書館のあり方を考える。図書館の定義、役割、意義、社会と図書館、図書館の種類、関係法令、運営原理と経営、サービスとネットワーク、地域支援サービス、デジタル図書館とハイブリッド図書館、図書館職員、図書館行政、図書館情報学、図書館関係団体、図書館の歴史について論ずる。																		
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会において図書館が果たすべき役割、果たしてきた役割を理解する。 ・日本の図書館の現状を理解し、図書館を取り巻く社会との関係を考える。 ・社会の変化に対応する図書館の新しいモデルについて考える。 																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 図書館とは何か</td> <td>8. 図書館のサービスとネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2. 図書館の定義と役割</td> <td>9. これからの図書館</td> </tr> <tr> <td>3. 図書館の意義</td> <td>10. 図書館職員</td> </tr> <tr> <td>4. 社会と図書館</td> <td>11. 図書館行政</td> </tr> <tr> <td>5. 図書館の種類</td> <td>12. 図書館情報学</td> </tr> <tr> <td>6. 図書館関係法令</td> <td>13. 図書館関係団体</td> </tr> <tr> <td>7. 図書館の運営原理と経営</td> <td>14. 図書館の歴史</td> </tr> </table>					1. 図書館とは何か	8. 図書館のサービスとネットワーク	2. 図書館の定義と役割	9. これからの図書館	3. 図書館の意義	10. 図書館職員	4. 社会と図書館	11. 図書館行政	5. 図書館の種類	12. 図書館情報学	6. 図書館関係法令	13. 図書館関係団体	7. 図書館の運営原理と経営	14. 図書館の歴史
1. 図書館とは何か	8. 図書館のサービスとネットワーク																		
2. 図書館の定義と役割	9. これからの図書館																		
3. 図書館の意義	10. 図書館職員																		
4. 社会と図書館	11. 図書館行政																		
5. 図書館の種類	12. 図書館情報学																		
6. 図書館関係法令	13. 図書館関係団体																		
7. 図書館の運営原理と経営	14. 図書館の歴史																		
成績評価の方法	試験が中心であるが、あわせて、レポート、出席、授業中の意見発表も考慮する。																		
教材・教科書・参考書等	教科書に順ずる文献を指定する。教材として、講義概要を配付し、関連文献を紹介するほか、関連する新聞・雑誌記事のコピーを配布する。 参考書：『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～』																		
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	毎日、新聞をよく読むことが望ましい。																		
授業外の学習内 容・方法	教科書に順ずる文献、配付資料、関連文献を読む。 授業中に紹介する図書館を見学する。毎日、新聞を読む。																		
備考 講義のホームページ等	担当教員 ホームページ： http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~himinai/ つくばリポジトリ： http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/handle/2241/91043/browse-title																		

学期曜時限	2 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	逸村 裕	オフィスアワー と研究室	水 1 限 7D313		
授業概要	大学における教育研究活動と学術情報流通の仕組みを踏まえ、大学図書館の役割、機能、電子ジャーナルと各種電子情報源サービス、情報リテラシ教育、機関リポジトリその他の諸活動、ネットワーク、経営管理について、学術情報基盤、という概念のもとに総合的に学ぶ。				
学習・教育目標	大学構成員皆がなんらかの形で関わっている大学図書館と学術情報基盤についての理解を深め、今後のあるべき姿について考究する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術情報流通の変革と学術情報基盤としての大学図書館 2. 大学を中心とする学術情報経営組織の動向とガバナンス 3. 学術情報基盤の歴史的展開 4. 学術情報流通に関するサービス 5. 利用者から見た学術情報(2回) 6. 評価の視点から見た学術情報組織 7. オープンアクセスと機関リポジトリ 8. 情報リテラシ教育 9. 史料管理 10. 今後の展開. 				
成績評価の方法	出席状況と授業参画度(10)、小テスト(10)、レポート (15*2)、試験 (50) の総合評価。レポートについては出題意図の理解と要件の記述がポイントとなる。				
教材・教科書・参考書等	教科書：逸村裕,竹内比呂也共編.変わりゆく大学図書館. 勁草書房. 2005. 参考 WWW：大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について (審議のまとめ) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1282987.htm				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	教科書及び掲載関連資料、授業で紹介するウェブサイトの確認と理解、二度のレポート作成				
備考 講義のホームページ等					

GE8 0401

経営情報システム論

GE7 2101

Management Information Systems and Professionals

学期曜時限	2 学期 集中 (9/4, 11, 18, 25 の 1~5 限)	教室	7A208	3・4 年	2 単位
担当教員	岩丸 良明	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	<p>企業や組織がどのように情報技術を活用しているかについて、事例を参考にしながら学習する。企業や組織が基本的に備えておくべき経営管理機能やそれを支援する情報システムと、ネットワークを活用した情報システムについて学習する。</p> <p>情報の活用が進めば進むほど、情報の取り扱い方が大切になってくる。プライバシーと情報セキュリティを中心とした課題について確認し、対応について考える。</p> <p>情報システムを職業とする人々（専門家）への期待・役割と人材像，専門家としての法と倫理などについても確認する。また、今後、情報システムの専門家として一層の、自己研鑽，継続学習を続けていくための指針について確認し、講義のまとめとする。</p>				
学習・教育目標	<p>経営の観点から見た情報システムの概要を理解する。</p> <p>経営にかかわる情報システムの概要と、その具体例として、身近な小売業で POS (販売時点管理)システムがどのように使われているか、どのようなことを狙って導入されているかを学ぶ。企業経営の視点から情報システムへの期待を実感するとともに、POS で集めた情報をどのように加工して経営に活用していくか、そのためには何が必要かを学習する。</p> <p>また、政府の電子政府構築や業務・システム最適化への取組み、インターネットを活用した e ビジネス、顧客情報の戦略的活用とそれに関連する課題と対応などについても学習する。</p>				
授業計画	<p>4 日間の集中講義とし、試験は日を改めて行う。講義の予定は概ね次のとおり。:</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 日 ①オリエンテーション、②社会と情報システム、③経営管理と情報システム、④情報システムの計画・構築・運用の手順 第 2 日 ①社会の中の情報システム、②情報サービス産業、③銀行の情報システム、④流通情報システム 第 3 日 ①データの有効活用、②電子政府、③インターネットと電子認証、④個人情報保護 第 4 日 ①情報化と知的財産、②情報システム専門家の倫理・法、③情報システム専門家の自己研鑽、④まとめ 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点（出席状況および授業への参加度等）、レポート（2 回予定）、試験の結果を総合的に評価する。平常点並びにレポートが約 50%、試験が約 50%の重みを持つ。 総合点 60 点以上を合格とする。 				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書は使用せず、プレゼンテーション用の資料を提示する。</p> <p>参考書は、プレゼンテーション用の資料に記載する。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし。				
授業外の学習内容・方法	<p>社会の動きに敏感になってもらうため、新聞（紙）を読んで情報システムについて論じる報告課題を出題する。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>本科目は経営学(Management Science)分野の科目である。</p> <p>知識科学主専攻と情報経営・図書館主専攻の学生は GE8 0401 を、知識情報システム主専攻の学生は GE7 2101 を履修登録してください。</p>				

GE8 0501 情報サービス経営論

Management of Information Services

学期曜時限	1 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A106	3・4 年	2 単位
担当教員	池内 淳	オフィスアワー と研究室	火 3・4 限 7D413		
授業概要	主に、公共図書館を対象として、そのサービスと経営に関するトピックについて講義を行います。				
学習・教育目標	本講義では、図書館に関わる諸論点について検討することを通じて、単に、図書館のみに止まらず、知識・情報を共有するシステムに関わる現代的諸問題を認識し、公共性という一貫した視点から、そうした問題にアプローチするための具体的な知識の習得を目指します。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 図書館の公共性 (3) 図書館関連法規と基準 (4) 公共図書館における無料の原則と有料制論議 (5) 図書館サービスの課金方針 (6) 図書館サービスと著作権Ⅰ（著作権法の概要） (7) 図書館サービスと著作権Ⅱ（関連法規の概説） (8) 図書館サービスと著作権Ⅲ（公貸権・ウェブアーカイブ等） (9) 図書館評価の方法と実践Ⅰ（図書館サービスの評価） (10) 図書館評価の方法と実践Ⅱ（図書館サービスの経済評価） 				
成績評価の方法	出席・平常点と学期末試験によって総合的に評価します。				
教材・教科書・参考書等	教科書：なし 参考書：高山正也ほか『改訂 図書館サービス論』東京，樹村房，2005，183p.（新・図書館学シリーズ3）				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業は講義中心ですので、授業外では、講義内容をきちんと復習してください。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 木曜日 5・6 限	教室	7A106	3・4 年	2 単位
担当教員	田村 肇	オフィスアワー と研究室	水 10:00～11:30 311		
授業概要	現在の情報社会を捉えるための視点は種々存在すると思うが、この授業では経済学的観点から捉えるとどうなるかを明らかにする。具体的には、情報社会を分析するための経済学の分析ツールを解説し、それを用いて具体的にどのようなことがどの程度まで明らかになっているかを説明する。				
学習・教育目標	現代社会を、情報という視点から、経済理論によって説明するための基礎的知識が身につく。経済学の入門的知識が身につく。				
授業計画	第1週 経済学は「情報」とどう取り組んできたか（1） 第2週 経済学は「情報」とどう取り組んできたか（2） 第3週 「情報社会」をマクロ経済学的に捉えるために必要となる予備知識 第4週 「情報社会」をマクロ経済学的に分析する 第5週 「情報社会」をミクロ経済学的に捉えるために必要となる予備知識（1） 第6週 「情報社会」をミクロ経済学的に捉えるために必要となる予備知識（2） 第7週 「情報社会」をミクロ経済学的に分析する 第8週 インターネットの経済学とは 第9週 「情報」から「知識」へ（「知識経済学」とは？） 第10週 まとめ				
成績評価の方法	レポート（30%）、試験（70%）の割合で評価する。出席は足切りに用いる。				
教材・教科書・参考書等	教科書は使用せず、プリントを配布する。 参考書は、授業中に適宜紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業中に指定しない限り予習は必要ないが復習はしっかり行って欲しい。具体的には、授業中に紹介した参考書・論文はできるだけ読んで欲しい。またレポートは2回課す。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A106	3・4 年	2 単位
担当教員	森川 世紀	オフィスアワー と研究室	木 13:00～14:30 7D308		
授業概要	公共経営の在り方、特に近年における地方自治を取り巻く環境の変化を踏まえた、自治体経営の在り方を取り扱う。地方自治制度、地方税財政制度の基本的理解を踏まえた上で、地方分権、市町村合併、NPM の考え方や地方行革などを取り上げる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治制度全般に関する基本的理解 ・地方自治体を取り巻く環境の変化 ・自治体経営改革の具体的取組 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・地方自治制度の概要 ・地方税財政制度の概要 ・地方行財政の運用～図書館による実例～ ・地方分権の進展 ・市町村合併や道州制の動き ・新しい公共経営の理論 ・指定管理者、PFI 等の取組 ・市場化テスト、政策評価等の取組 ・構造改革特区、地域再生等の取組 <p>(※特定のテーマを扱ったケーススタディを実施することもあり得る。)</p>				
成績評価の方法	期末試験を実施する。その他、授業への出席及び積極的参加を加点要素とする。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定しない。授業毎にレジメ・参考資料を配布予定。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	初歩的な法学、行政学の知識があることが望ましいが、イントロダクションの一環として授業の理解に必要な基本的概念は講義を行う予定。				
授業外の学習内容・方法	授業毎に配布するレジメ等に関連した参考文献、参考 HP 等を紹介する予定。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D113		
授業概要	レファレンスサービスは、図書館や情報サービス機関等において、情報を求めている利用者に対して、レファレンス担当者によって提供される人的援助である。現代の図書館では、各種のレファレンス資料（冊子体、オンラインデータベース、パッケージ型電子メディア、インターネット上の情報、等）を活用しながら、多様なレファレンスサービスを展開することが求められている。この講義では、広義のレファレンスサービスを対象として、レファレンスサービスの目的、構成、方法、各種情報源の利用法、参考調査図書館の組織と運営、等について総合的に解説する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> レファレンスサービスの目的、構成、方法、各種情報源の利用法、参考調査図書館の組織と運営、等についての基礎知識を理解することができる。 「国立大学法人等職員採用試験」や「各種の図書館職員採用試験」を受験する際に必要な基礎知識を身につけることができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 「情報サービス構成論」のガイダンス レファレンスサービスの概念 レファレンスサービスの歴史と発展段階 レファレンスサービスの構造と機能 レファレンスサービスの種類 レファレンスプロセス レファレンスサービスのための情報源 レファレンスサービスの組織と運営 「情報サービス構成論」の総まとめ(1) 「情報サービス構成論」の総まとめ(2)：課題解決支援の展開 「学期末試験」・「授業評価」 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況と授業参画度（発表）（約 20%）、課題レポート（複数回）（約 30%）、学期末試験（持込不可）（約 50%）によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。 				
教材・教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 教科書：渋谷嘉彦ほか共著。情報サービス概説。改訂。東京、樹村房、2004.3, xi,174p.（新・図書館学シリーズ、4） 教科書：加藤秀俊。取材学：探求の技法。東京、中央公論社、1975.10, iii,184p.（中公新書、410） 				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> 3 年次以上の学生のみ対象。 履修希望者は、TWINS で早めに履修申告をして下さい。 				
授業外の学習内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を必ず復習する。 教科書や課題文献の指定箇所を必ず読む。 新聞を毎日読む。 課題レポートに取り組む。 				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回目の講義開始までに、必ず教科書を購入し、講義に出席すること。 毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の講義を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講すること。第 1 回から出席することを前提に講義は組み立てられているので、出席していないと不利になります。課題レポートの提出の遅れは、認めないので注意すること。 				

学期曜時限	3 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3・4 年	2 単位
担当教員	吉田 右子	オフィスアワー と研究室	火 2 限 7D116		
授業概要	図書館コレクションをめぐるさまざまな問題を取り上げ、それらを図書館内部（図書館界での議論）と図書館外部（出版界などでの議論）の両面から考えていく。また現在、図書館コレクションが直面している課題について関連資料を示しながら言及する。さらにアメリカの先進的事例についても随時紹介し、図書館コレクションへの理解を深める。				
学習・教育目標	(1) コレクション形成の基本的な知識を修得する。 (2) コレクション形成に関する様々な資料から、コレクションをとりまく状況を総合的に理解する。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに ・図書館資料とは ・図書館資料の種類 1 ・図書館資料の種類 2 ・コレクション形成のプロセス ・資料の選択と収集 ・資料の蓄積と保存 ・コレクションの評価 ・コレクション形成と出版流通 ・コレクション形成と図書館の自由 ・まとめ 				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題するレポートを中心に評価する。最終的には受講態度などを考慮して総合的に評価する。レポートは形式および内容から評価する。受講態度（30%）とレポート（70%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業で使う資料はウェブサイトに掲載する。参考資料については、授業中に示す。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	予習：次回の資料に目を通し、概要をつかんでおく。 復習：授業で紹介したウェブサイトを通覧する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A101	3・4 年	2 単位
担当教員	溝上 智恵子	オフィスアワー と研究室	金 3 限 7D504		
授業概要	この授業では、民族という視点から、ナショナル・アイデンティティや文化的アイデンティティの形成について学ぶ。教育の目的の1つに、これらアイデンティティの育成があることを踏まえ、アメリカとカナダを事例に学校、図書館や博物館等に焦点をあて、北米地域の歴史と文化の概要を学ぶ。北米地域の各時代を特徴づける思想との関連から、教育政策や文化政策の変遷について学ぶ。なお、比較の観点から日本の教育文化についてもあわせて考える。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北米地域の文化史について、基礎的な知識を身につける。 ・ 教育の目的を広く理解する。 ・ 博物館や図書館などの教育文化施設の社会的役割を理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション 2 ナショナリズム 3 北米の文化と思想：歴史 4 北米の文化と思想：多文化主義 5 北米の文化と思想：人種差別と教育 6 アメリカの人種問題と図書館 7 グループ発表 8 万国博覧会と民族 9 先住民政策とミュージアム 10 戦争とミュージアム：カナダ 11 史跡と記念碑 12 まとめ 				
成績評価の方法	授業における発表、レポート課題や試験による総合的評価を行うが、レポートが 40%、試験が 60%の配分である。レポートはきちんとした文献調査を求める。				
教材・教科書・参考書等	資料は授業中に配布するが、参考書は溝上智恵子『ミュージアムの政治学』東海大学出版会、2003。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業で配布した資料の検討を復習として行うとともに、グループ発表に伴う資料の作成やレポートの作成はすべて授業時間外に行う。作業量はグループにより異なる。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	鈴木 佳苗	オフィスアワー と研究室	月 4 限 7D112		
授業概要	現代社会においては、メディアを通じて提示される情報を読み解く力（メディア・リテラシー）を育成することが求められている。本講義では、児童青少年へのメディア教育の歴史と現状、メディア教育の効果について概説する。また、児童青少年の発達のためのメディア環境の整備や、メディア・コンテンツの提供とその評価の観点を紹介する。これらの点を踏まえて、メディア教育の課題について考える。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童青少年を取り巻くメディア環境を理解する ・メディア・リテラシーの概念を理解する ・メディア教育の歴史と現状、実践とその効果を理解する ・メディア・コンテンツの評価の観点、メディア教育の計画の立て方を学ぶ ・メディア教育の課題について考える 				
授業計画	<p>授業では、以下の順番に基づいて説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童青少年とメディア <ul style="list-style-type: none"> ・メディア利用の現状 ・メディア利用の影響 2. メディア・リテラシーの概念 3. メディア教育の歴史と現状-1:海外の実践 4. メディア教育の歴史と現状-2:海外の実践と評価 5. メディア教育の歴史と現状-3:日本の実践 6. メディア教育の歴史と現状-4:日本の実践と評価 7. メディア環境の整備 8. メディア・コンテンツの提供と評価 9. メディア教育の計画 10. メディア教育の課題 				
成績評価の方法	期末試験、授業中の課題、出席状況により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料を配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年次以下の履修を認めない。				
授業外の学習内容・方法	授業後に発展的な学習ができるように、授業中に参考文献を紹介する。				
備考 講義のホームページ等	21 年度までの「メディア教育と発達」の単位修得者の履修は認めない				

学期曜時限	3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	平久江 祐司	オフィスアワー と研究室	月 4・5 限 7D404		
授業概要	教育・学習情報の生産、流通、利用と学校図書館の全般について解説し、学校教育における学校図書館活動の在り方を考える。学校図書館については、現状とその経営についての基本的事項を解説し、学校教育と学校図書館活動の有機的な連携の在り方を考える。				
学習・教育目標	「授業計画」に掲げた 10 項目についての基礎的知識や重要な概念を習得するとともに、それらについて考察し、自己の見解や主張を形成する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習社会と学習情報 2. 学校教育と学校図書館経営 3. 学校図書館の現状と課題 4. 地方の教育情報ネットワークと学校図書館 5. 学校図書館法の制定とその改正運動 6. 米国の学校図書館制度 7. 学校図書館経営の計画 8. 学校図書館運営の実際 9. 学校図書館経営の評価 10. 学校図書館担当者の役割 				
成績評価の方法	期末試験，レポート，出席等により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配布する。また教科書・参考書等については開講時に説明する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	司書教諭科目や教職科目関連科目を履修していることが望ましい。 履修希望者が 90 名を超える場合は、初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法	レポートの詳細については学期の中頃に発表する。レポートの分量は原稿用紙 6 枚程度で、期末試験時に提出する。				
備考 講義のホームページ等	「学校経営と学校図書館」単位修得者の履修は認めない。				

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	石井 夏生利	オフィスアワー と研究室	木 5 限 7D000		
授業概要	<p>情報技術の変化は、法の世界にも大きな変化をもたらしましたが、「情報法」はいまだ新しい法分野です。とりわけ、1990 年代中葉以降、急速に発展したインターネットによって、情報と法をめぐる新しい問題は日々生じ続けています。そこで、本授業では、「情報」に関する法的諸問題について、プライバシー・個人情報保護、情報セキュリティ、著作権や不正競争行為などの知的財産権の侵害、架空請求や不正アクセスなどのサイバー犯罪、アダルトサイト、自殺サイトなどの違法・有害コンテンツ、迷惑メール、国の電子化等、個別テーマを取り上げつつ、現行法の状況と課題等について講義を行います。</p>				
学習・教育目標	<p>情報化社会で直面する法的諸問題に対する基本的な理解を深めるとともに、問題を考える際の視点やバランス感覚を身につけることを目標とします。</p> <p>情報通信環境の発達により、「表の側面」として、社会のあらゆる場面における利便性が向上しました。その反面、「負の側面」として、様々な弊害や法的諸問題が出現しました。こうした新しい問題への対応を考える際には、表面的な事柄にとらわれることなく、問題の本質を見据えた検討を行う必要があります。そこで、この授業の中では、各事象の何が問題であるかを議論しつつ、自己責任を原則とするネットワーク利用のあり方を認識するとともに、安全かつ安心にネットワークを利用するための観点を身につけることを目指します。加えて、他の科目の応用的な知識を習得することをも狙いとします。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報法基礎・ガイダンス 2. 情報公開・個人情報保護法 3. 情報セキュリティと法 4. 通信の秘密とプロバイダ責任制限法 5. 著作権法、不正競争防止法(営業秘密) 6. 電子商取引、迷惑メール規制法 7. 国と民間事業者の電子化 8. インターネットと刑事法 9. 事例研究又は IT 関連の新法解説 10. 事例研究又は IT 関連の新法解説 				
成績評価の方法	定期試験により評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>教材は各回の配布資料を用いる。教科書は、小向太郎『情報法入門 デジタル・ネットワークの法律』(NTT 出版、2008 年)。参考書は、情報セキュリティに特化した専門書として、岡村久道『情報セキュリティの法律』(商事法務、2007 年)。</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>ネットワーク社会における諸問題を法的な側面から講義を行うため、「情報社会と法制度」を受講していることが望ましい。</p>				
授業外の学習内容・方法	各回の授業の後に、教科書又は参考書の中の関連箇所を読んで復習すること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7C102	3・4 年	2 単位
担当教員	村井 麻衣子	オフィスアワー と研究室	木 15:00～16:00 7D506		
授業概要	ネットワーク社会における著作権を中心に、知的財産権全般について学ぶとともに、図書館活動や各種の情報活動の観点から、知的財産権が持つ意義について学ぶ。主に著作権法に関連する判決や論点等について調査・検討を行うことにより、知的財産法の理解を深め、自分なりの見解を構築することを目指す。受講人数に応じて、個別またはグループでの研究、発表を行う予定。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産法についての基礎的な知識を確認する。 ・ 知的財産に関する判決・文献等に触れ、内容を理解する。 ・ 知的財産に関わる諸問題について、自ら検討を行う。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産法／著作権法の概要 ・ 知的財産法の調べ方：判決や評釈について ・ 著作権法に関する論点・判決 1：例) 著作物性、著作者、著作権の内容等 ・ 概要の説明、判決・論点等の割り当て ・ 調査・検討・パワーポイント資料の作成 ・ 発表 ・ 著作権法に関する論点・判決 2：例) 著作権の制限、著作者人格権等 ・ 概要の説明、判決・論点等の割り当て ・ 調査・検討・パワーポイント資料の作成 ・ 発表 				
成績評価の方法	主に、研究発表・出席により成績評価を行う予定。				
教材・教科書・参考書等	教科書・教材・参考書は、授業時に指示する。 (知的財産概論の教科書(六法、田村善之『知的財産法』を持っている場合は、参照すること)				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「知的財産概論」の単位を修得済みであること。 「情報社会と法制度」を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の準備を十分に行うこと：判決や評釈・論文・概説書等の文献の購読・内容理解、関連する論点の検討、発表資料の作成等 				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A206	3・4 年	2 単位
担当教員	松縄 正登	オフィスアワー と研究室	木 5 限 7D502		
授業概要	知的財産法に対する理解を深め、知的財産権に関する具体的な見解を構築することを目指す。特許法を中心とした産業財産法に関する講義のほか、例題、事例、判決等を題材とした検討を行う。必要に応じて、事例等に関する研究発表を行う。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産法についての知識の確認を行う。 ・ 知的財産権がもつ意義を学ぶ。 ・ 知的財産に関する事例等について考察し、問題解決能力を身につける。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産法総論 (権利の主体、保護の対象と手法、一般不法行為による保護の可能性、正当化根拠等) ・ 特許法総論 (出願手続) ・ 実用新案法・意匠法・商標法総論 (出願手続等) ・ 特許法各論 (1) (審査・審判手続) ・ 特許法各論 (2) (審決取消訴訟) ・ 特許法各論 (3) (特許権・権利侵害) ・ 知的財産法各論 (国際条約等) ・ 知的財産法 (事例研究等) 				
成績評価の方法	小テスト・課題レポート (内容による評価) 他 (70%)、出席 (30%)				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書：教材は、授業時に提示する。</p> <p>参考書：小泉直樹等編、ケースブック知的財産法 第2版、弘文堂、2008 判例六法、有斐閣、2010 青山紘一、特許法 第12版、法学書院、2010 青山紘一、不正競争防止法 第5版、法学書院、2009 中山信弘、工業所有権法 (上) 第2版増補版、弘文堂、2000 松縄正登、特許審判—法理と実務—、朝倉書店、2008 工業所有権法逐条解説 (17版)、発明協会</p>				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「知的財産のしくみ：特許編 (総合科目)」「知的財産概論」「知的財産権論A」ほか、知的財産法関係の科目を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> (1) 参考書等で、内容を把握すること。 (2) 授業で行った小テスト (練習問題) を復習すること。 (3) 判決は原文を読んで理解を深めること。 (4) 適時、特許庁HP等を閲覧して、特・実審査基準、審判便覧等を参照すること。 				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A207	3・4 年	2 単位
担当教員	手塚 健郎	オフィスアワー と研究室	随時（要予約メール） 7D307		
授業概要	公立図書館は教育機関の一つとして様々な法規と関わりをもって活動している。ここでは、法の視点から公立図書館へのアプローチを試み、社会教育・学校教育や教育委員会制度等などの関係法規、審議会答申と施策、現状と課題などに触れるとともに、図書館と関わりの深い部分の情報法制度について事例も交えて講義していく。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中の図書館の位置づけを再認識する。 ・教育行政の構造を理解する ・情報法に関係する諸問題から図書館の運営上の課題を考える。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法、行政法の概念 ・教育基本法、社会教育法、学校教育法について ・審議会答申と生涯学習振興法、図書館法等について ・文部科学省設置法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律等について ・著作権法と図書館・図書館に類似する施設 ・プライバシーの権利と表現の自由・知る自由をめぐる諸問題 ・行政改革と図書館をめぐる諸問題 <p>その他、関連する法令を適宜講義していきたい。</p>				
成績評価の方法	出席、レポート、学期末試験により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は随時配布しますが、授業で取り上げる法令の条文は各自でプリントアウトして持参してきてください。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	適宜レポートの提出を求めます。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A205	3・4 年	2 単位
担当教員	後藤 嘉宏	オフィスアワー と研究室	金 2 限 7D513		
授業概要	すべての物事にメディアとしての側面を見いだしていくマクルーハンのメディア論の示唆を受けながら、この授業ではまず、人がなぜメディアという情報の「運び屋」「記録屋」を求めてきたかを考えようとしています。さらにメディアの伝達方向を垂直性（後の時間に伝える機能や死者や神への伝達機能）と水平性（同時代に伝える機能や同じような立場の人への伝達機能）に分けて分析し、それにあわせて色々な社会事象をメディア論的な事象の把握方法を踏まえ、分析します。さらに垂直性と水平性の概念を用いつつ、マス・コミュニケーション媒体の特性を比較していきます。またこれらの議論の合間に、マクルーハンや中井正一の議論を織り交ぜていきます。				
学習・教育目標	図書館情報学を学ぶ前提として、メディアの諸特性を把握し、それらの相違と共通性を理解することが大切ですが、この授業によってそのことが、ある程度明確になります。				
授業計画	<p>盛り沢山で全てを話し切るのは困難。よって受講生の意向を聞きつつ、省く項目も生じます。</p> <p>第1週 1. メディアを理解するのに必要な社会や文化の理論の概説 2. McLuhan からの示唆－実体ではなく関係性でメディアを捉える</p> <p>第2週 3. メディアの定義（広義、狭義）と諸相（隣接概念との関係） 4. メディアは何を伝えるのか？ 5. 二元論とメディア</p> <p>第3週 6. 人の命の短さと情報媒体（宗教、遺伝、教育、権力その他とメディアのかかわり） 7. 記録の記録媒体の垂直方向と水平方向について 8. 暦、時計、時間とメディア</p> <p>第4週 9. 時間の流れのなかにある言葉を記録する媒体－紙 10. 本の垂直性</p> <p>第5週 11. 雑誌と本との対比 第6週 12. 新聞の特性（1） 第7週 13. 新聞の特性（2）</p> <p>第8週 14. ラジオ、テレビの諸特性 第9週 15. インターネットのメディア特性</p> <p>第10-11週 16. メディアと誤報 17. 文化資本とメディア 18. メディア・リテラシー</p>				
成績評価の方法	最終試験は、最終レポートにします。出席率、発言・報告等の多寡等、平常点も大いに考慮されます。最終レポートを課す場合、例年複数題（10 題以上）から1－2題選択して答えることとなります。レポートの評価の観点、授業内容の適切な要約がなされているか否かと、授業内容への批判の鋭さや適切性、あるいはそれらを補足し発展させる際の説明の独自性等です。				
教材・教科書・参考書等	教科書を使う場合1学期初めに知識情報・図書館学類掲示板で指示します。使う場合の教科書は、伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2009年）です。教科書を使わない場合、基本的に授業直前に配付資料を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップしますが、あくまでも参考で、基本は板書です。後藤は板書魔です。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	標準履修年次は3・4年ですが、この分野に関心のある学生であれば、1・2年生の履修も認められます。「メディア社会学」を既修あるいは履修中であることが望ましいですが、義務ではありません。				
授業外の学習内容・方法	単位の実質化に向けて以下の計画があります。1. 授業で説明した専門用語の簡単な説明のための小テストをときどき行う予定です。これは必ずしもペーパーテストの形式に限らず、出欠表で任意に当たった受講生に、答えさせる方式も想定できます。2. 授業の進捗状況によっては、配付資料の一定部分を事前に受講生に読んでおいて頂き、受講生数名ずつグループを組んで貰って、特定のテーマについて討論して貰い、その結果を授業時間内に発表して頂きます。				
備考	「教材・教科書・参考書等」の項にも記しましたが、本授業科目の配付資料等を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップの予定です。				

学期曜時限	2 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A205	3・4 年	2 単位
担当教員	黒古 一夫	オフィスアワー と研究室	木 3 限 7D504		
授業概要	近代社会を支える「文化」の中にあつて、言語（日本語）活動に基礎を置く「出版」はとりわけ重要な意味を持っている。出版文化の在り方がその国（社会）の在り方を象徴する側面を持っているからに他ならない。本授業ではそのような出版文化の本質的な在り方をふまえて、その歴史、仕組み、流通、図書館との関係、書誌学との関係、等について実践的に学ぶ。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出版の歴史が分かる。 2. 出版の仕組み（出版社の種類や宣伝・広告などについて）がわかる。 3. 出版文化と図書館との関係を理解する。 4. 出版文化と書誌学との関係を理解する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「出版」とは何か（概論） (2) 同 (3) 出版の歴史－出版の始まりから現代まで (4) 同 (5) 出版の仕組み（著者から読者へ、出版社とは？ 宣伝・広告、流通、等） (6) 同 (7) 同 (8) 出版と図書館 (9) 出版と書誌学 (10) 同 (11) 試験 				
成績評価の方法	期末試験				
教材・教科書・参考書等	配布資料				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	出版に関する新聞や雑誌の記事に関心を持ち、「資料」として収集してほしい。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	どんかい 呑海 さおり 沙織	オフィスアワー と研究室	月 5 限 7D403		
授業概要	図書館の現在を語る上で、図書および図書館の歴史についての理解は不可欠である。本講義では、図書館とかかわりの深い情報メディアの歴史を理解するとともに、外国（主として欧米）および日本の図書館の歴史的発展、またその文化史的意義について学ぶ。				
学習・教育目標	本講義では、下記のような知識を身につけることを目標とする。 9. 情報メディアの歴史とその文化史的意義 10. 外国（主として欧米）の図書館の歴史的発展とその文化史的意義 11. 日本の図書館の歴史的発展とその文化史的意義				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報メディアの歴史とその文化史的意義 <ol style="list-style-type: none"> a. 情報メディアとコミュニケーション b. 紙・図書・印刷術の発明 c. 大量印刷の時代・新聞・雑誌 d. メディアの多様化 2. 外国（主として欧米）の図書館の歴史とその文化史的意義 <ol style="list-style-type: none"> a. 図書館の源流 b. 中世の図書館 c. 近世の図書館 d. 公共図書館の成立 3. 日本の図書館の歴史とその文化史的意義 <ol style="list-style-type: none"> a. 前近代における日本の図書館 b. 近代図書館の誕生 c. デモクラシーと図書館 d. 戦後改革と図書館 e. 戦後の図書館 				
成績評価の方法	レポート等の提出物，授業態度によって，総合的に決定する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は，プリントとして適宜配布する。 主な参考書は，下記の通り。 (1) 日本図書館協会編『図書及び図書館史』日本図書館協会，2008 (2) 岩猿敏生著『日本図書館史概説』日外アソシエーツ，2007				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内容・方法	授業内容に応じた参考書を随時紹介するので，予習・復習を行うこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	松本 浩一	オフィスアワー と研究室	火 2 限 7D301		
授業概要	漢籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、漢籍の目録法などについて学ぶ。また我が国の主要な漢籍所蔵館と漢籍目録の電子化の現状と課題、その意義について学ぶ。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以前の中国における書物の形態の変遷、各時代の図書事業（出版・流通、整理事業、蔵書）の実態について基本的な知識を得る。 ・漢籍（特に古典）を手にとったとき、基本的な目録データをそこからとることができるようになることを目標にする。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 写本時代の図書と図書整理事業 2. 印刷術の発明とその影響 3. 宋代以降の出版・流通状況 4. 宋代以降の蔵書と図書整理事業 5. 日本における漢籍の受容と出版 6. 漢籍（古典）目録の変遷と現状 7. タイトル（書名）・巻数の記述 8. 責任表示（著者名）の記述 9. 出版に関する事項の記述 10. 漢籍目録作成のための工具書 				
成績評価の方法	筆記試験と出席（成績がボーダーラインにある際の判断に使用）				
教材・教科書・参考書等	授業に際してはプリントを配布する。 参考書は授業の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「知識資源組織化論」を履修していることが望ましい。 「日本図書学」と併修することが望ましい。				
授業外の学習内容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A104	3・4 年	2 単位
担当教員	綿抜 豊昭	オフィスアワー と研究室	水 7 限 7D511		
授業概要	図書館司書として、図書館に所蔵される和古書の取り扱いについて学習し、和古書の目録の作成ができる知識を身につける。そのために、和古書に関する基本用語について、和古書の情報の所在の特質などについて講義する。また保存についても講義する。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の本について理解する。 ・ 和古書の目録が作成できる能力を身につける。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 和古書とは 2 基本用語について(1) 本の種類 3 基本用語について(2) 装釘 4 目録作成(1) 目録 5 目録作成(2) 手順 6 目録作成(3) 大学図書館の場合 7 調査項目(1) 情報の所在 8 調査項目(2) タイトルについて 9 調査項目(3) 出版等について 10 まとめ 				
成績評価の方法	出席状況、レポート、試験など総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	日本図書学、桂書房、2007年				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	講義ですすめた図書を読む				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 月曜日 5・6 時限	教室	7A106	3・4 年	2 単位
担当教員	白井 哲哉	オフィスアワー と研究室	金 4 限 7D407		
授業概要	日本の図書館では、地域資料として古文書・古記録を収蔵し利用に供する施設が少なくない。この講義では、「地域資料を担当する図書館司書のための古文書・アーカイブズ論」を基本コンセプトに、地域資料としての古文書について、情報メディアの視点からみた歴史、アーカイブズ学研究の成果に基づいた取り扱い、整理、保存、利用活用などの方法を学ぶ。過去の遺物と見なされがちな情報メディア＝古文書を、現在及び未来に向けた視野から捉え直していきたい。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報メディアとしての古文書の意義・歴史・機能を理解する。 ・地域社会における古文書の意義を理解する。 ・アーカイブズ学に基づく古文書取り扱いの基礎理論を理解する。 ・図書館等の現場における古文書の取り扱いの基礎知識を習得する。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグーなぜ図書館に古文書があるのか 2. 情報メディアとしての古文書（1） 古代・中世 3. 情報メディアとしての古文書（2） 近世 4. 情報メディアとしての古文書（3） 近現代 5. 古文書と編纂資料 6. 地域資料としての古文書の保存利用の意義 7. 蒐集・受入・保存 8. 整理と目録作成 9. 利用提供と活用 10. 電子情報化への試み 11. エピローグーアーカイブズへの誘い 				
成績評価の方法	出席状況、提出物（適宜実施予定）、試験によって総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は、プリントを適宜配布する。参考書は講義の中で紹介する。 なお、アーカイブズ学の観点をもった古文書の入門書として、大石学監修、改訂新版古文書解説辞典 文書館へ行こう、東京堂出版、2000。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内 容・方法	配付資料を中心に講義内容の復習を行うこと。なお、講義内容の理解を深めるため、実際に古文書を収蔵する各地の図書館の地域資料室の実態や、文書館の活動実態について調べ、できれば一度は足を運んで、収蔵資料を自らの目で確かめるのが望ましい。				
備考 講義のホームページ等	授業及び試験において古文書解読の知識は不要である。				

自由科目・その他

学期曜時限	1～3 学期 集中	教室	—	1～4 年	1 単位
担当教員	平久江 祐司 鈴木 佳苗	オフィスアワー と研究室	月 4・5 限 7D404 月 4 限 (1・2 学期), 木 4 限 (3 学期) 7D112		
授業概要	知識情報・図書館学類の専門領域が活用される公共的な現場において、教員・専門家の指導のもとで、その実務の一端を体験する。対象となる実習は、学類の教育課程グループによって審査された認定プログラムであり、各プログラム単位で参加者の募集を行う。参加者は、希望する実習担当の教員と面談し、実習前に指導を受け、実習中、実習後に活動の報告を行う。				
学習・教育目標	社会体験実習Ⅰを通して、知識情報・図書館学における専門的知識・技術を深める。また、実社会における学問領域の位置づけ・意義を理解する。				
授業計画	<p>詳細は実習ごとに異なるため、以下には実習の例を示す。 単位取得には、いずれの実習においても年間で 40 時間以上の活動への参加が求められる。</p> <p>○つくば市の小学校における読書指導ボランティア 学生がつくば市の小学生に読み聞かせや音読の仕方を指導する。 ・活動頻度：2～3 か月集中（週 2～3 日、1 回 2～3 時間）、ただし、小学校の予定により、各学期に 1 か月、年間の合計が 2～3 か月になる場合がある。</p> <p>○つくば市の小学校における学校図書館ボランティア つくば市の公立小学校において学校図書館協力員として図書館の運営等の協力を行う。 ・活動内容は派遣された学校の状況によって異なる。 ・活動頻度：毎週 1 回～2 回で原則として 1 年間を通して行う。活動時間は学期ごとに調整する。</p> <p>○牛久市の公共図書館における行事の実践ボランティア 夏休み期間、週末の図書館行事として子供たちが参加できるものの企画や実践を行う。</p>				
成績評価の方法	参加計画書、実習中の記録、実習後の報告書、および実習先機関の評価を中心に行う。				
教材・教科書・参考書等	実習の内容に沿った参考資料を配布し、適宜参考文献を紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	詳細は実習ごとに異なるが、基本的には、配布した参考資料、紹介した参考文献を実習の前に読み、実習後には活動の記録をつけることにより、ふりかえりと次回の実習での改善点をまとめることとする。				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会体験実習には、個人でのボランティア活動、一般的なアルバイト(社会体験)は含まれない。 ・ プログラムごとに参加者を個別に募集するので、履修希望者は掲示を確認すること。 ・ 実習（集中）と他の授業が重ならないように、履修前に担当教員に相談すること。 				

学期曜時限	1～3 学期 集中	教室	—	2～4 年	1 単位
担当教員	平久江 祐司 鈴木 佳苗	オフィスアワー と研究室	月 4・5 限 7D404 月 4 限 (1・2 学期), 木 4 限 (3 学期) 7D112		
授業概要	社会体験実習Ⅰでの活動を継続し発展させていく。社会体験実習Ⅰと同様に、知識情報・図書館学類の専門領域が活用される公共的な現場において、教員・専門家の指導のもとで、その実務の一端を体験する。対象となる実習は、学類の教育課程グループによって審査された認定プログラムであり、各プログラム単位で参加者の募集を行う。参加者は、社会体験実習Ⅰで参加した実習の担当教員と面談し、実習前に指導を受け、実習中、実習後に活動の報告を行う。				
学習・教育目標	社会体験実習Ⅰを通して修得した知識情報・図書館学における専門的知識・技術を発展させ、当該活動におけるリーダーシップを形成する。また、実社会における学問領域の位置づけ・意義への理解をさらに深める。				
授業計画	<p>詳細は実習ごとに異なるため、以下には実習の例を示す。 単位取得には、いずれの実習においても年間で 40 時間以上の活動への参加が求められる。</p> <p>○つくば市の小学校における読書指導ボランティア 学生がつくば市の小学生に読み聞かせや音読の仕方を指導する。 ・活動頻度：2～3 か月集中（週 2～3 日、1 回 2～3 時間）、ただし、小学校の予定により、各学期に 1 か月、年間の合計が 2～3 か月になる場合がある。</p> <p>○つくば市の小学校における学校図書館ボランティア つくば市の公立小学校において学校図書館協力員として図書館の運営等の協力を行う。 ・活動内容は派遣された学校の状況によって異なる。 ・活動頻度：毎週 1 回～2 回で原則として 1 年間を通して行う。活動時間は学期ごとに調整する。</p> <p>○牛久市の公共図書館における行事の実践ボランティア 夏休み期間、週末の図書館行事として子供たちが参加できるものの企画や実践を行う。</p>				
成績評価の方法	参加計画書、実習中の記録、実習後の報告書、および実習先機関の評価を中心に行う。				
教材・教科書・参考書等	実習の内容に沿った参考資料を配布し、適宜参考文献を紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	社会体験実習Ⅰの単位修得者				
授業外の学習内 容・方法	詳細は実習ごとに異なるが、基本的には、配布した参考資料、紹介した参考文献を実習の前に読み、実習後には活動の記録をつけることにより、ふりかえりと次回の実習での改善点をまとめることとする。				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> 社会体験実習には、個人でのボランティア活動、一般的なアルバイト(社会体験)は含まれない。 プログラムごとに参加者を個別に募集するので、履修希望者は掲示を確認すること。 実習（集中）と他の授業が重ならないように、履修前に担当教員に相談すること。 				

学期曜時限	初回到日程を調整する	教室	7D202	2年	1.5単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワー と研究室	月・火 10:00~11:00 7D202		
授業概要	<p>テーマ：「相対性理論の世界と量子力学の世界」</p> <p>現代物理学の基礎をなす、相対性理論と量子力学について最初は啓蒙書のような入門書を勉強し、徐々に専門書のレベルまで何冊かの本を輪講する。この2つの理論は、名前はよく知られているが内容を詳しく知らない場合が多い。これらの世界では、多くの点で我々の見聞きする常識とは違った世界が展開されている。今後、ますます重要になるこれらの理論の理解を少しでも体験できればよいと考えている。また、相対性理論はその体系が数学的に美しいといわれているが、より深い数学的な知識や興味も得られればよいと考えている。</p>				
学習・教育目標	<p>知的探求の世界 I では、平易な啓蒙書を読んで、量子力学と相対性理論が明らかにする世界像を理解する。また、知的探求の世界 II で行なう専門書を読みこなせるようにするための基礎力を習得する。最終的には、自分たちで調べたことをまとめ、中学・高校生向けの解説本を作成する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 量子力学の世界（入門書） 2 量子力学（中級書） 3 相対性理論の世界（入門書） 4 相対性理論（中級書） <p>授業は輪講形式で行なう。輪講とは、各人に割り当てを決め、担当箇所を事前に調べ、授業では、その箇所を読んで理解した点を説明する形式である。</p>				
成績評価の方法	出席、毎行なう輪講の準備状況と作成した本				
教材・教科書・参考書等	授業の最初に指定する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>数学を必要とするので、基礎数学を履修していることが望ましい。（高校において物理を履修していなくてもよい）</p> <p>定員は8名以内(目安)。受講者が3名に満たない場合は、開講しない場合があります。</p>				
授業外の学習内容・方法	<p>輪講形式なので、毎回、事前の下調べや担当割り当者は、発表の準備などが必要となる。</p> <p>また、担当者以外も当然のことであるが、予習・復習は必要である。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>初回到受講者と相談して開講曜日時限を決めます。受講希望者は E-mail で松本宛(amy ア slis.tsukuba.ac.jp アを@に変える)まで連絡してください。</p>				

学期曜時限	1～3 学期・集中 初回に日程調整 4/20 (火) 15:15 に 7A207 集合	教室	未定	2 年	1.5 単位
担当教員	阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D312		
授業概要	<p>テーマ ソースコード購読</p> <p>コンピュータソフトウェアには、「オープンソース」のような呼称の下にソフトウェアのソースプログラムコード(ソースコード)を公開し、有志を募ってその開発や保守作業を行うものが数多くある。それらのソースコードは様々な人によって練り上げられているため、その構成手法や使用されている技術、記法を知ることには自らのプログラミングやソフトウェア開発技術向上に役立つ。</p> <p>本テーマは、このような観点からソースコードが公開されている様々なソフトウェアを読み解いていくものである。最初は小規模な部品のソフトウェアから始め、徐々に大規模なソフトウェアへと読み進める。また、それらのソフトウェアで使用されているプログラミング言語の習得も同時に進める。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者が記述したプログラムの読解能力を身につける ・ 現実に使われているプログラミング技術を理解する ・ プログラムを複数人で開発する際に必要な事項について知る 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソースコードの公開とオープンソース活動とは 2. 公開されているソースコードで多用されるプログラミング言語(C 言語など)について 3. 小規模なソフトウェアのソースコードを読む 4. ソースコードが公開されているソフトウェアの付属文書を読む (ソフトウェアの導入作業や前提環境の意味を理解する) 5. 中規模・大規模なソースコードの全体構造を捉える 6. 中規模・大規模なソースコードの一部を読む <p>ソースコードは輪読形式で読み進める。その過程で意味や機能などについて随時討論を行う。</p>				
成績評価の方法	輪読における討論などの発言頻度やその内容、および読み終えたソースコードに関するレポートを数回程度提出してもらい、その理解度を評価する。				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。 参考書についても随時紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	受講者の定員は原則として 6 名とする。 また、受講者数が 2 名未満の場合は開講しない。				
授業外の学習内 容・方法	ソースコードの輪読の分担部分の解説を授業中に行うので、その部分や関連事項についての時間外での予習・復習を行ってもらうことになる。				
備考 講義のホームページ等	授業情報 Web ページ: http://www.sakalab.org/lectures/ 初回は 4 月 20 日(火)の 15:15 から 7A207 教室で、授業概要の説明と受講意志確認、およびスケジュール調整を行う。				

学期曜時限	1・2学期 集中	教室	未定	3年	1単位
担当教員	石井 啓豊	オフィスアワー と研究室	木4限 315		
授業概要	<p>テーマ 知識情報学の基盤2：思考の多様性と展開（社会科学の思考を学ぶ）</p> <p>知的探究の世界Ⅰの展開を踏まえて、社会科学の基礎概念を学ぶことを通じて、社会の基盤を構成する共有知識の諸側面について理解を深める。具体的には、学生の関心を踏まえつつ、社会的課題に関する基本的な著作を読み、その内容について議論することを通じて学ぶ。同時に、それを実際に生じている社会現象の分析に適用する演習を行い、理解を深める。</p> <p>知識情報学の基盤2：思考の多様性と展開</p>				
学習・教育目標	<p>この授業の目的は、社会科学のアプローチを学びつつ、社会がいかにか成り立ち、そこでいかなる知識がいかにか共有され、あるいはされていないか、を考えることである。社会の諸現象を解説する概念装置のあり方についても留意したい。また、内容の要約技術、要点の把握方法、討議の方法等についても、スキルを磨くことができる。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 始めに、1, 2学期を通じて学ぶそれぞれの具体的な課題を協議のうえ設定し、読み進める。 2. それぞれが自分の課題に関する重要著作を順次読み進める。並行して重要な著作リストを作成する。 3. 1, 2において、読書を進めると同時に、その概要を作成し、その内容を授業の中で、交代で紹介しあう。この紹介を材料として、それぞれの関心から討議を行い、社会における知識のあり方についての理解を深めていく。 				
成績評価の方法	毎回のレポートと授業での発言等によって評価する。				
教材・教科書・参考書等					
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「知的探究の世界Ⅰ-1」を受講した者に限る。				
授業外の学習内容・方法	毎回の授業で報告するために、読書とともに、読み進んだ部分の概要をまとめて提出する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	初回到日程を調整する	教室	7D202	3年	1単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワー と研究室	月・火 10:00~11:00 7D202		
授業概要	<p>テーマ：「相対性理論の世界と量子力学の世界」</p> <p>現代物理学の基礎をなす、相対性理論と量子力学について最初は啓蒙書のような入門書を勉強し、徐々に専門書のレベルまで何冊かの本を輪講する。この2つの理論は、名前はよく知られているが内容を詳しく知らない場合が多い。これらの世界では、多くの点で我々の見聞きする常識とは違った世界が展開されている。今後、ますます重要になるこれらの理論の理解を少しでも体験できればよいと考えている。また、相対性理論はその体系が数学的に美しいといわれているが、より深い数学的な知識や興味も得られればよいと考えている。</p>				
学習・教育目標	<p>知的探求の世界Ⅰでは、平易な啓蒙書を読んで、量子力学と相対性理論が明らかにする世界像を理解する。また、知的探求の世界Ⅱで行なう専門書を読みこなせるようにするための基礎力を習得する。最終的には、自分たちで調べたことをまとめ、中学・高校生向けの解説本を作成する。</p>				
授業計画	<p>今年度は、量子力学を中心に行う。</p> <p>1 量子力学の世界（入門書） 2 量子力学（中級書）</p> <p>授業は輪講形式で行なう。輪講とは、各人に割り当てを決め、担当箇所を事前に調べ、授業では、その箇所を読んで理解した点を説明する形式である。</p>				
成績評価の方法	出席、毎行なう輪講の準備状況と作成した本				
教材・教科書・参考書等	授業の最初に指定する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<p>数学を必要とするので、基礎数学を履修していることが望ましい。（高校において物理を履修していなくてもよい）</p> <p>定員は8名以内(目安)。受講者が3名に満たない場合は、開講しない場合があります。</p>				
授業外の学習内容・方法	<p>輪講形式なので、毎回、事前の下調べや担当割り当者は、発表の準備などが必要となる。</p> <p>また、担当者以外も当然のことであるが、予習・復習は必要である。</p>				
備考 講義のホームページ等	<p>初回到受講者と相談して開講曜日時限を決めます。受講希望者は E-mail で松本宛(amy アslis.tsukuba.ac.jp アを@に変える)まで連絡してください。</p>				

学期曜時限	1・2学期 集中	教室	未定	3年	1単位
担当教員	大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	水2限 7D113		
授業概要	<p>テーマ 図書館の基礎を考える2</p> <p>この授業では、図書館（特に、公共図書館）の基盤を考えるために、(1)日本と諸外国の社会、行政機構、文化に関する文献、(2)図書館を支える幅広い教養（人文、社会、自然）に関する文献、(3)経営学や組織論に関する文献、等を読み、要約・発表・討論する過程を通じて、幅広いものの見方、考え方、価値観を学ぶ。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)日本と諸外国の社会、行政機構、文化に関する文献、(2)図書館を支える幅広い教養（人文、社会、自然）に関する文献、(3)経営学や組織論に関する文献、等を読むことによって、幅広い視野で図書館を理解することができる。 ・図書館等の情報サービス機関の情報専門職を目指す者に必要な、幅広い教養力の基礎を身につけることができる。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の集合日時は、1学期の始めに掲示板で連絡する。 ・この授業は、受講生の時間割を確認した上で、2コマ連続の隔週で開講する。 ・1学期から2学期までを通じて、(1)日本と諸外国の社会、行政機構、文化に関する文献、(2)図書館を支える幅広い教養（人文、社会、自然）に関する文献、(3)経営学や組織論に関する文献、等を取り上げ、それらの課題文献に関する講義、発表、討論を行う。 ・受講生は、毎週、課題文献を読み、文献レポートを作成した上で授業に出席すること。 ・第1回目の授業の際に、開講予定日、文献レポートのまとめ方、等について解説する。 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況（約30%）、授業参画度（発表・討論）（約30%）、文献レポート（約40%）によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。 				
教材・教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、課題文献（図書や雑誌論文）を指示する。課題図書は、新書や文庫を中心に選定する予定であるが、必ず購入して、授業に出席すること。 				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> ・「知的探求の世界Ⅱ」を履修した3年次の学生のみ対象。 ・図書館等の情報専門職を強く目指している者、および、図書館に関心があり大学院への進学を目指している者が履修することが望ましい。 ・授業の履修には、(1)本学類で2年次から4年次まで実施する公務員試験準備講座（教養模擬試験）に参加していること、(2)昨年度から実務教育出版の「公務員合格講座」の受講生になっていること、の2点を必須要件とする。 ・第1回目の配布資料準備のため、講義開始前に履修希望者数を把握する必要があります。履修希望者は、2010年のTWINS入力開始の初日中に必ず履修申告をして下さい。 				
授業外の学習内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や課題文献の指定箇所を必ず読み、文献レポートを作成する。 ・新聞を毎日読む。 				
備考 講義のホームページ等	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業を欠席した学生は、この授業の受講を認めないので、十分注意すること。 ・毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の授業を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講すること。 				

学期曜時限	3 学期 金曜日 5・6 時限	教室	7A207	3 年	2 単位
担当教員	大澤 文人	オフィスアワー と研究室	火 11:00～12:00 7D115		
授業概要	<p>情報化社会に突入した私たちの周囲は、大きく変貌しつつある。小学校の段階からインターネットを利用した教育が導入され、マルチメディアを利用した教育方法の改善も日進月歩の状態である。</p> <p>本授業では、情報化社会において、教育がどのように変わりつつあるのか、またその将来像について考える。</p>				
学習・教育目標	<p>中学校教育や高校教育における、情報の重要性を理解するとともに、総合的な学習の時間を想定したレポートを作成する演習を通じて、教職課程のまとめになることをめざす。</p>				
授業計画	<p>1・2 情報と教育 3・4 メディアと教育 5・6 各人のテーマ発表：情報メディアをテーマにした総合的学習 7・8 発表：総合学習を視野にした授業案</p>				
成績評価の方法	出席状況、受講、レポートなどを総合して評価を行なう。				
教材・教科書・参考書等	後日、指定する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「教育実習」をのぞく「教職に関する科目」すべてを履修済みもしくは平成 22 年度 3 学期に履修中である者に限る。				
授業外の学習内容・方法	必要に応じて、補足資料を配布するので、予習・復習を怠らないこと。				
備考 講義のホームページ等					

解 説

履修のてびき

1. 履修要覧と履修に関する相談窓口

入学時に配布された「履修要覧」は卒業時まで保管してください。卒業や資格取得の条件は、入学年度（編入生は編入される学年の入学年度）の履修要覧に記載されたものが適用されます。「開設授業科目一覧」と「知識情報・図書館学類シラバス」は毎年4月にその年度用のものが配布されます。科目番号や開講学期・曜時限、担当者等が変わることもあるので、科目一覧やシラバスは必ず当該年度のものを参照してください。

卒業要件や資格に関する履修方法の相談（特に、規則に関して不明な点）は、学群学務係が窓口です。先輩や同級生の体験談やうわさ話を鵜呑みにせず、わからないことはたとえ小さなことでも学群学務係であなた自身が確認してください。卒業できなかったり、資格が取得できなかつたりするのは、あなた自身です。

2. クラス制度とクラス担任の役割

本学類では1学年を4クラス（概ね25名）で編成します。3年次編入生は別に1クラス（10名強）を編成します。1年次は、1学期に「フレッシュマン・セミナー」、2～3学期に「情報リテラシ実習」と、クラス担任が担当する授業が年間を通じて毎週開講されます。共に必修科目です。本学類ではリテラシ教育とキャリア教育に重点を置いて、学類共通のプログラムによって、これらの授業をすすめます。

クラス担任からは履修・学習についての相談だけでなく、進路、生活など、さまざまな面で助けを得ることができます。2年次以降もクラス担任は原則として交替せず、あなたとの関係は卒業まで続きます。

3. 卒業要件と進級

授業を履修して期末試験に合格すると所定の単位が与えられます。大学を卒業するためには、主専攻ごとに定められた「卒業に必要な履修科目および修得単位数」に基づいて、所定の単位数以上を修得しなければなりません。これを「卒業要件」と呼びます。本学では共通科目、関連科目、専門基礎科目、専門科目という4種類の区分ごとに、必修科目、選択科目、自由科目という3つのカテゴリに分けて、履修科目と修得単位数が指定されており、全ての条件を満たさなければなりません。本学類の卒業要件は情報学群履修細則（以下、細則）の別表1に定められています。詳しくは科目選択ガイドをご覧ください。また、「卒業に必要な履修科目」を「卒業要件科目」と呼んでおり、開設科目の一部、例えば「教職に関する科目」は本学類では卒業要件科目に含みません。

4. 単位と履修登録の上限

日本の大学では学習時間45時間に対して1単位が与えられます。本学では75分授業10回（1コマ×1学期）を15時間の学習時間と換算します。講義科目には授業時間と

同じだけの予習と復習が必要と考え、予習 15 時間＋復習 15 時間で 30 時間の授業外学習が伴うことを前提に、75 分×10 回の講義科目に 1 単位が与えられます。

授業時間外での学生の十分な学習量を基礎として単位を認定することを制度上担保するため、本学は 1 年間に履修登録できる単位数に上限を設けています。このような制度は一般に「キャップ制」と呼ばれています。本学類では、授業外の学習が円滑に進むよう、予習範囲を明確化したり、復習のための課題を出したり等の工夫を教員に求め、これに併せてキャップ制も厳格に適用します（参考：囲み記事）。

情報学群では年間の履修登録の上限を 45 単位と定めています（ただし編入生は入学年度に限り 55 単位まで履修登録できます）。なお、科目番号が 9 で始まる科目群（「教職に関する科目」と「博物館に関する科目」）は、キャップ制における登録単位数には含みません（細則 5 条）。修得単位数でなく登録単位数に対する制限なので、履修登録が確定した科目は、学期途中で履修放棄しても制限は緩和されません。前年度の成績が優秀であった人（卒業要件科目を 40 単位以上修得し、修得した単位の 70% 以上が「A」である者）は、55 単位まで履修登録できます。（細則 5 条 2）

制限を超える履修登録は機械的にチェックされるべきですが、TWINS では上限を超えても登録できてしまいますので、制限を自分自身でよく確認してください。年度初めに集中科目を含めた年間履修計画を作成して登録することを勧めます。たとえ 4 月に履修登録をしても、実施学期の履修申請締め切り日までは修正可能です。

本学類のカリキュラムでは、1 年次から 2 年次にかけて毎年 40 単位程度、3 年次に 32 単位以上、4 年次に卒業研究を含めて 14 単位以下を履修し、4 年間で卒業に必要な 125.5 単位以上を修得できるようになっています。編入生は 55～60 単位程度を単位認定し、3 年次に 45 単位程度、4 年次に 20～25 単位程度を履修する設計です。本学類には進級や主専攻選択の条件となる履修科目や単位数はありません。ただし、卒業要件科目を 90 単位以上修得していないと、卒業研究を履修できません。

Q. なぜこのような制限が必要なのですか？

A. 履修科目の予習・復習時間を十分にとるためです。上記で説明したように、2 単位の講義 1 科目に週 6 時間の授業外学習が期待されます。学習時間を確保するには制限が必要と考えられています。

Q. 知識情報・図書館学類だけが上限を設けているのですか？

A. 履修登録の上限は筑波大学全体のルールです。緩和条件は学類ごとに異なりますが、おおむね本学類と同様と言えます。

Q. 上限を超えて履修登録するとどうなりますか？

A. 本学類では、各学期の履修登録期間中に超過申請している学生名を掲示して登録の修正を促します。3 学期には申請期間終了時に超過者全員を呼び出して超過分の単位を 3 学期の履修科目から削除してもらいます。呼び出しに応じない場合は学類が科目を選んで削除します。集中講義の履修などにより、学年末時点で超過登録されていた場合、超過分の修得単位を卒業要件から除外する措置を講じます。

5. 成績評価と GPA

合否で評価される「フレッシュマン・セミナー」と「学問と社会」を除いて、各科目の成績は A～D の 4 段階で評価されます。A～C には単位が与えられますが、D には単位が与えられません。また、登録して受講しなかった場合は「履修放棄」が記録されます。「履修放棄」や D となった科目が TWINS 上で表示されなくても、履修の記録は消えません。なお、D あるいは「履修放棄」の科目は再履修できますが、一旦単位が与えられた科目を再履修することを本学類は許していません。TWINS では重複して履修登録でき、システム上は単位が二重に加算されますが、卒業要件の単位数には算入できませんし、以下で説明する GPA の計算にも 1 回目の成績だけを使用します。

成績をどのように評価するかは科目毎に異なります。基本は期末試験による評価ですが、科目によってレポート、小テスト、授業中の質問や発言による授業への貢献・参加など、授業の進め方や科目の特徴に応じたさまざまな評価を行います。評価方法は学類シラバスに示します。原則として 1/3 以上欠席した場合は不合格ですが、出席日数の条件がより厳しい科目もあります。授業の無断欠席は履修放棄とみなされることがあります。欠席届を提出すると、無断欠席でなくなります。出席にはなりません。

学生個人の総合的な学習到達度の評価として、本学類は GPA (Grade Point Average) と呼ばれる総合評価法を採用しています。本学類における GPA は、成績が A の科目に 3 点、B に 2 点、C に 1 点、D と「履修放棄」に 0 点の Grade Point を与え、算定対象期間中に履修登録した全ての卒業要件科目の平均点を求めたものです(式参照)。最高点は 3 点であり、最高点が 4 点となる世間の GPA とは算出法が異なります。「フレッシュマン・セミナー」のように合否のみの科目や他大学等で修得して認定された単位、「教職に関する科目」のように卒業要件でない科目は GPA の算定に含めません。

本学類は、学生が無計画に修得単位数を増やすことよりも、各自の学習計画に沿って、受講する一つ一つの科目において高い到達度を達成することを期待しています。GPA では、過剰な履修登録により履修放棄や成績の悪い科目を増やすことが不利な評価につながります。(ただし、履修が少なすぎると卒業研究着手に必要な単位を 4 年次までに修得できません)

3 年次に行われる主専攻の選択では、2 年次末までの GPA の高得点順に主専攻を決定します。GPA の低い人は希望する主専攻にすすめない場合があります。また、早期卒業の判定などにも GPA が用いられます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{Aの単位数} \times 3 + \text{Bの単位数} \times 2 + \text{Cの単位数} \times 1}{(\text{算定対象期間中の}) \text{総履修登録単位数}}$$

注：英語・ドイツ語は検定不合格でも計算に含めます

6. 不正行為

期末試験において不正行為を行った場合、当該科目または当該学期の全科目の受験が

無効となります。また学則上の懲戒処分の対象となり、通常は停学処分が下されます。これらの処分により、卒業が大幅に遅れることとなります。他人のレポートの複製や剽窃も、成績評価を偽るだけでなく、他人の著作権を侵す行為であり、本学類では試験における不正行為に準じて厳しく対応します。くれぐれも不正行為に関わらないように注意してください。

7. 成績不振者への指導

本学では卒業年度を除いて、年間の修得単位数が 15 単位未満の学生は学則により除籍処分となります。ただし「修学を指導することにより、翌年度年間 15 単位以上修得することが可能と認められる」時に限り、学群長の特別の許可によって除籍が猶予されます。翌年度も 15 単位未満しか修得できなかった場合は除籍されることとなります。

本学類は、クラス担任による早い段階での履修指導や生活指導を通じ、成績不振が起きないように努めますが、授業について行けない、勉強の方法がわからない、欠席が増えているなどの状況を自覚した時には、自分から授業担当者、クラス担任や学群学務・学生支援窓口、保健管理センターの学生相談室等に相談するなどしてください。成績不振が続く場合、保護者に対して単位の修得状況を通知し、進路の変更を含めた話し合いを行うよう促します。

8. オフィスアワーと教員との連絡方法

本学では、学生が予約なしに教員を訪問できる時間帯を設けており、これをオフィスアワーとよんでいます。学習上の質問、種々の手続き、生活上の相談などにオフィスアワーを活用してください。オフィスアワー以外の時間帯に教員を訪問する場合は、電子メールなどを使って予約をとるようにしてください。学類教員のメールアドレスとオフィスアワーは巻末の教員一覧をご覧ください。

連絡事項や休講のお知らせは、学生用掲示板に掲示されます。学生用掲示板は毎日確認するように習慣づけてください。教員が学生への連絡に電子メールを使う場合は、全学計算機システムで発行される「s+学籍番号下 7 桁@u.tsukuba.ac.jp」（例えば s1234567@u.tsukuba.ac.jp）というメールアドレス宛に送信します。普段使うメールアドレスへの転送を設定するなどして、メールは確実に読むようにしてください。

教員にメールを送る際は、全学計算機システムあるいは本学類のメールシステム（Google Apps for klis）から送信してください。他システムからのメールは、送信者が本当に学生本人かが不確かだからです。また、学籍番号と氏名は明記してください。

9. 主専攻への配属

主専攻はあなた自身の希望と 2 年次までの成績をもとに 3 年次の 4 月に決定します。GPA の高得点順に第 1 希望の主専攻に配属されますが、主専攻の定員を超過した場合は、

第 2 希望以降の主専攻に配属されます。主専攻の定員と主専攻別の卒論指導教員一覧、各教員の指導方針（指導可能な研究テーマ、研究指導の方法、指導の前提条件など）は 2 年次の 3 学期に公表します。

10. 卒業研究

卒業研究の指導教員は 3 年次の 2 学期末に仮決定します。学生は自分が所属する主専攻の指導教員一覧から希望する教員 1 名を選択します。学生は教員の指導方針を十分理解し、指導方針を受け入れる場合のみ応募できます。指導の前提条件に合致しない応募は無効です。応募者が定員を超えた場合、どの学生を受け入れるかは教員が判断します。3 年次の 4 月に 45 単位未満しか単位を修得できていない場合、履修登録の上限があるので、翌年度に卒業研究着手に必要な 90 単位に到達不可能です。そのため、卒業研究指導教員の決定プロセスには参加できません。

卒業研究の準備は 3 年次 3 学期から始めます。何をどのようにやるかは教員によりませんが、単位にはなりません。授業科目としての卒業研究は 4 年次の 4 月に履修登録します。4 月の時点で卒業要件科目を 90 単位以上修得できていないと、卒業研究を履修できず、指導教員の決定も白紙に戻ります。

卒業研究は通年科目なので 4 月からの 1 年間を継続して履修しなければなりません。途中で 1 ヶ月でも休学すると、翌年 4 月から 1 年間かけて履修し直すことになるので注意してください。単位修得のためには、中間発表を行い、所定の条件に合う卒業論文を提出した上で、最終発表を行なう必要があります。卒業研究が 1 年間で終了しなかった場合、研究期間を延長して翌年度以降の各学期末に卒業できます。

原則として指導教員は変更できません。変更は当該年度の卒業研究の履修放棄と見なします。ただし、4 年次 4 月の履修申請期間までなら、新しい指導教員の了解を得られた場合に限り、そのまま卒業研究に着手できます。そうでない場合、指導教員を次回の指導教員決定プロセス中で選択し直し、改めて卒業研究に着手することになります。

11. 早期卒業、大学院への推薦（2 学期入学者は 19.参照）

2 年次終了時点で卒業に必要な単位を 90 単位以上修得し、それまでの GPA が学類の同学年（2 学期入学者を除く）の上位 3%以内である人は早期卒業の資格を得ます。早期卒業を希望する人は、3 年次 1 学期から卒業研究に着手し、3 年次の学年末に卒業要件を満たした場合、その 3 月に卒業できます（細則 7 条）。早期卒業をめざすには、1 年次にキャップ制の緩和を獲得し、2 年次末までに 90 単位を極めて優秀な成績で修得しなければなりません。

早期卒業に着手した人と 3 年次 2 学期末または 3 学期末のいずれかの時点で GPA によって成績優秀と判定された人は、7 月に行われる大学院図書館情報メディア研究科の推薦入学試験に対する推薦を受けることができます。

12. 外国語

本学類の教育課程は、語学、特に英語の能力を発展させることを目標の一つとしています。そのため、第2外国語を必修とするとともに、2～3年次に必修科目として専門英語を置き、卒業まで継続的な語学学習を促しています。また、一部の専門科目では英語による授業を行うほか、学類共通の専門科目である「国際インターンシップ」では外国の図書館での就業体験の中で国際的なコミュニケーション力を養うことができます（平成21年度は米国、中国、韓国で実施）。

第2外国語は共通科目の外国語科目の中から英語以外の1つの言語を選択して履修します。異なる言語の修得単位を合わせても卒業要件は満たしません（例えば、ドイツ語1.5単位とフランス語1.5単位を履修しても卒業できません）。

共通科目の英語は、入学直後のプレースメントテストの結果をもとに、受講クラスが指定されます。英語とドイツ語は、期末試験に加えて検定試験に合格しないと単位が認定されません。検定は学年末のほか、検定不合格者のための再試験が8月にも実施されます。英語の検定不合格者は外国語センターによる「英語 V（英語基礎）」を受講するなどして早期に検定に合格するようにしてください（英語 Vは関連科目の自由科目となります）。総合評価がDまたは履修放棄であった人は、翌年度に授業を再履修しなければなりません。外国語の再履修には履修クラスの授業担当教員の許可が必要です。

外国語の学習をさらに発展させたい人のために、2年次以上を対象に外国語中級、外国語上級が外国語センターによって開設されます。これらの科目は本学類では共通科目の自由科目として卒業要件に含めることができます。また学類開設の専門英語が、2年次には週2コマ、3年次には週1コマ開設されます。いずれも必修科目です。3年次2学期の専門英語IVでは定期試験に代えてTOEIC-IPを実施します。

大学での単位修得だけでなく、TOEICやTOEFL、英検など対外的に通用する語学能力検定を受検することもお勧めします。これらの検定は大学院入試で英語に代えて課されることが増えており、例えば図書館情報メディア研究科博士前期課程の入学試験でも、TOEICまたはTOEFLのスコア提出が必要です（平成22年度現在）。また、米国留学にもTOEFLのスコアが必要です。高いスコアを持っていることは就職活動でも有利に働きますし、就職後にTOEICの受検を求められることもあります。専門英語IVで実施するTOEIC-IPはTOEICの団体受験用の試験です。この種の試験は、現在の自分の実力を確かめ、着実に勉強を重ねることによって、数ヶ月後、一年後にスコアが改善していくものです。その意味で、早い時期から長期的に取り組むことをお勧めしています。在学中の受検は必ずしも義務ではありませんが、定期的に挑戦するとよいでしょう。

13. キャリア教育

キャリア・ポートフォリオ(CARIO)は本学が独自に考案・推進しているキャリア教育のための教材です。1冊のフォルダに、筑波大学での学生生活におけるさまざまな経験

や経験を通じて気づいたことを記録し、保管します。フレッシュマン・セミナーで、キャリア・ポートフォリオの作成を始めますが、キャリア・ポートフォリオは一度で完成するものではなく、在学中継続して使い続けるよう設計されています。あなたが広い意味での進路選択に直面した時に、キャリア・ポートフォリオに記録されたあなた自身の「気づき」が、大きな助けになるはずです。1年次の3学期には総合科目A「キャリアデザインⅠ」が開講されますが、キャリア・ポートフォリオを活用するために、できるだけこの科目を受講するようにしてください。

本学類では、キャリア教育のための専門基礎科目（選択）として、2年次に「学問と社会」を開講します。この科目では、学類の専門領域と社会との関係を中心に講義・講演・演習を行います。3年次の専門科目（選択）である「インターンシップ」「国際インターンシップ」では、図書館や企業などで3週間程度の就業実習を体験します。また、1～4年次を対象とする自由科目「社会体験実習Ⅰ」「同Ⅱ」も学校図書館等でのボランティア経験を通じて、専門の技術・知識を高め、専門領域と社会の関係について体験を深めることをめざします。

14. 司書資格

「図書館に関する科目」に指定されたうち14科目を履修することで司書の資格を取得できます。本学類のカリキュラムでは、2年次までの専門基礎科目として9科目を修得し、3年次以降で専門科目として5科目を修得するよう計画しています。専門科目5科目は主専攻をまたがって開講されており、いずれの主専攻を選択しても、無理なく司書資格の取得が可能です。司書は公共図書館のための資格であり、他の館種では必須ではありませんが、図書館関係の専門職を目指す人は司書資格の取得を勧めます。「インターンシップ」は選択科目ですが、司書を目指す人は就職先として希望する館種の図書館を実習先に選択して受講するよう強く勧めます。

15. 教員免許、司書教諭資格

本学類では所定の単位を修得することで社会（中学校）、公民（高校）、数学（中学校・高校）、情報（高校）の教員免許を取得できます。ただし、卒業のための単位とは別に相当数の科目を余分に修得しなければならないので、かなりの負担になります。教員免許のために必要な諸科目は、学類の教育課程とは関係が薄いので、免許の取得のために本来の専門領域の学修が損なわれます。また、教員養成には教育実習などで学外の多くの人の助力が必要なこと、教員免許が更新制となったことなどを考えると、単なる資格として教員免許に挑戦することはやめるようお願いします。

教員免許に併せて、「大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目」5科目を修得することで、司書教諭の資格が取得できます。3年次に5科目全てを履修し、4年次6月に司書教諭講習への書類参加（講習に代えて単位取得証明の提出によって司書教

論資格を得る手続き)を申請してください。履修が遅れて、手続きが在学中にできなかった人は、文部科学省を窓口書類参加手続きを行なうことができます。司書教諭資格のための5科目は、教員免許の「教科または教職に関する科目」に含めることができますし、同時に卒業要件上の他主専攻専門科目となります。教員免許を取得する場合は司書教諭の資格を同時に取得するよう勧めます。なお、所定の5科目を履修しても、教員免許を取得しないと司書教諭資格は取得できません。

16. 学芸員資格

本学の学生なら誰でも「博物館に関する科目」に指定されたうち16単位を履修し、卒業後に博物館に学芸員職として就職することで学芸員の資格を得ることができます。つまり就職して初めて取得できる資格です。学芸員は博物館資料の収集・保管・展示および調査研究などに関する専門的職務を行う者であり、その職務には「博物館に関する科目」だけでなく、歴史、自然、美術など、博物館の種類に応じた分野ごとの専門的な主題知識こそが重要です。学芸員をめざそうとする人は、本学類の専門領域が一般的な博物館で求められる専門領域とは異なっていることを十分認識し、どのような博物館での活躍が可能かなど、具体的な検討の上で資格取得をめざしてください。

17. 留学

在学中に海外の協定校等に留学(交換留学)して、学類の専門教育の一部を修めることができます。学類長の許可を経た正式な留学は本学の在学年限に算入され、留学先で履修した単位は教員会議の議を経て卒業要件に算入できます。語学研修や異文化体験を目的とする留学の場合、長期休業を利用し、あるいは本学を休学して行いますが、在学年限に算入されず、単位も認定されません。留学を成功させるには十分な準備と計画が必要です。クラス担任に相談するとともに、留学生センターによる説明会や個別相談を活用してください(参考URL:<http://www.tsukuba.ac.jp/global/>)。

留学とは異なりますが学類共通の専門科目である「国際インターンシップ」も国際的な経験を深める良い機会なので受講を検討してください。

18. 留学生および帰国生徒

外国人留学生および「外国において相当の期間、中等教育を受けた学生」(帰国生徒)には、総合科目、第1外国語または第2外国語、関連科目について13単位を限度として「日本語・日本事情に関する科目」の履修による振替を認めることがあります。振替を希望する学生は、入学して最初の履修申請期間内に単位振替申請の手続きが必要です。全員が振替を認められるわけではなく、教員による面接が必要ですので、必ず事前に学群学務係の窓口にご相談してください。

19. 2 学期推薦入学

2 学期入学の学生は、変則的なカリキュラムとなるので、クラス担任と綿密に相談して履修計画をたててください。1 学期に開講済みの 1 年次向け科目のうち、フレッシュマン・セミナー、情報基礎、情報基礎実習、第 1 外国語、第 2 外国語、体育は 2 学期入学者向けに特設の補講が開講されます。主専攻の決定、卒業研究の指導教員の決定は 4 月入学者と同時期に行います。原則として、2 学期入学者の卒業研究は 4 年次の 2 学期に履修登録しますが、詳細は学群学務係の指示を受けてください。

早期卒業の資格判定は 3 年次 1 学期末に、同じ学年の 2 年次末時点の成績と比較して判定します。卒業に必要な単位を 90 単位以上修得済みで成績が上位 3% 以内である人は、4 年次の 7 月に早期卒業する資格を得ます。この場合、3 年次の 2 学期から卒業研究に着手します。上位 3% 以内でなくても、卒業に必要な単位を 80 単位以上修得済みで成績が優秀である人は 3 月に早期卒業することができます。この場合、4 月入学者と全く同様に卒業研究をすすめることになります。

3 月の早期卒業に着手した人の内、3 年次 2 学期末または 3 年次 3 学期末の GPA によって成績優秀と判定された人は、大学院図書館情報メディア研究科推薦入学試験に対する推薦を受けることができます。

20. 入学前に履修した単位・他大学で受講した単位の認定

入学前に履修した単位は、学類が教育上有益と認める場合に限り、本学で履修した単位として 60 単位まで（編入学生は上限なし）を認定します。「本学で履修した単位として認定」とは、実際に受講することなく本学が開設した同等科目の単位を与えるという意味です。単位認定の申請は入学直後の学期にクラス担任と相談しながら行ってください。入学後には単位互換制度を結んでいる大学の単位を履修した場合のみ、単位認定することができます。

認定された単位は卒業要件には有効ですが、司書、司書教諭、教員免許などの資格取得に使うことはできません。ただし他大学において修得した資格科目と本学で修得した資格科目を合算して資格を取得することはできます。例えば、他大学で司書科目の「図書館概論」相当の科目を修得した人は、本学で当該科目を履修する必要がありません。

資格が必要な人は、その取得のため本学で修得すべき科目で単位認定を受けないよう注意してください。単位認定を受けると修得済みとみなされ、その科目を履修できなくなります（「履修のてびき」5 項参照）。一方、認定を受けても、資格取得上は修得したとはみなされないで、結局資格を得ることはできません。

筑波大学の授業科目と対応づける際には、1 対 1 だけでなく m 対 n (m, n は科目数) の組み合わせが可能です。ただし、実際に修得した以上の単位数を認定することはできないので、他学で m 科目の履修によって修得した合計単位数 k は、筑波大の対応する n 科目の合計単位数 l 以上でなければなりません ($k \geq l$)。

専門基礎科目の必修科目のうち知識情報概論，リテラシ実習，知識情報演習 I/II/III の 5 科目は本学類の学生が必ず受講する科目と位置づけており，単位認定は行いません。また，原則として専門科目の単位認定は行いません。ただし，司書教諭科目 5 科目については，「大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目」に相当する他学の修得単位を認定します。

3 年次編入生の単位認定については，編入学試験の合格発表後に詳細な案内を送付するので，それを参照してください。

科目選択ガイド

1. 卒業要件の科目区分とクラス、科目名

本学類の卒業要件は細則の別表1に定められています。カリキュラムを学年の進行に沿って表すと表1の履修計画となります。平成20年度に、第2外国語と外国語中・上級・英語S、国語の科目区分が関連科目から共通科目に変更され、芸術が共通科目として新設されました。この変更に伴い、19年度入学者と20年度以降の入学者では、表の細部が違っていますが、必要な科目や総単位数自体は変わっていません。

履修計画では、1年次はほとんどが必修科目ですが、徐々に選択の幅が広がり、3年次にはほとんど全ての科目を自分で計画的に選択しなければなりません。卒業には最低125.5単位が必要です。以下では基礎科目（共通科目と関連科目）、専門基礎科目、専門科目の順に履修の方法を説明しますが、その前に必修科目、選択科目、自由科目の違いを理解しておきましょう。必修科目は必ず修得しなければならない科目、選択科目は特定の目的で開設される限られた科目の中から選択して履修する科目、自由科目は学類の専門教育を補う形で、あなた自身が全学の幅広い科目群の中から計画的に選択して履修する科目です。

本学類では専門基礎科目や専門科目として開設している科目群を、専門教育としての関連性を考慮し、クラスという単位にまとめています。クラス単位に履修することで、関連した内容を有機的かつ十分に学修できるようになっています。クラス内の各科目は原則として同じ曜時に、適切な順序で開講します。選択科目はできるだけクラス単位で選択するようにしてください。

本学類の開設科目名のハイフンに続くアラビア数字は同一科目の別クラスであることを示します。同一科目は複数履修できません（たとえば、テキスト解釈-1とテキスト解釈-3は片方しか履修できない）。

2. 基礎科目

基礎科目は幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養することをめざして設けられた区分で、大学生として共通に学ぶべき科目群である共通科目と学類ごとに内容を定める関連科目に分かれ、それぞれに修得単位数が定められています。共通科目の履修方法は全学で統一して定められています。

本学類では共通科目の必修科目として、総合科目Aを6単位以上、総合科目B（フレッシュマン・セミナー）を1単位、体育を2単位、第1外国語（英語）を4.5単位、第2外国語を3単位の合計16.5単位以上修得することになっています。（19年度入学者は共通科目の必修科目は13.5単位、関連科目の必修科目が3単位となります）

体育、第1外国語、第2外国語は学類・学年ごとに曜時限・クラスが指定されており、原則として変更できません。1年次のうちに体育の1単位を除く15.5単位の修得をめざしてください。1年次に第1外国語、第2外国語の単位を修得できないと次年度以降の

科目選択に大きな制約が生じるので注意してください。

総合科目 A や体育は共通科目の自由科目としても履修可能です。また、芸術、国語、外国語（外国語中級、外国語上級、英語 S の総称）は、20 年度以降入学者は共通科目の自由科目として、19 年度入学者は関連科目の自由科目として履修できます。本学類では情報処理（上級）は自由科目になりません。この他、関連科目の自由科目として、特設自由科目や他学類の開設科目が履修できます。

表 1a 標準履修年次別の科目配分に基づく履修計画（平成 20 年度以降入学者用）

区分	1 年		2 年		3 年		4 年		必要
共通	体育 総合 A 総合 B 英語 第 2 外国語	1 6 1 4.5 3	体育	1					16.5
必修	知識情報概論 哲学 情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシ実習 プログラミング演習 I プログラミング演習 II 情報数学 統計 (計 9 科目 16 単位)	2 2 2 1 1 2 2 2 2	知識情報演習 I 知識情報演習 II 知識情報演習 III 専門英語 I 専門英語 II (計 5 科目 9 単位)	2 2 2 1.5 1.5					25
専門基礎	情報社会と法制度 情報システム概説 基礎数学 A 基礎数学 B 図書館概論 (計 5 科目 10 単位)	2 2 2 2 2	知的財産概論 量的調査法 多変量解析 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステム とネットワーク 自然言語解析基礎 メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 テキスト解釈 学問と社会 (計 17 科目 34 単位)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			(22 科目 44 単位中から)		32
自由			知的探求の世界 I	1.5	知的探求の世界 II	1			
			社会体験実習 I, II					各 1	
専門科目	必修				主専攻実習 専門英語 III, IV	2 2	卒業研究	6	10
	選択				自専攻の専門科目 他専攻・学類共通の専門科目 知識情報特論			20 8 2	30
自由									12
合計	(必修 31.5 単位)	39.5	(必修 10 単位)	40	(必修 4 単位)	32	(必修 6 単位)	14	125.5

合計欄に示した単位数は卒業に向けて必要な最小限の単位数を各学年に割り振った目安です。実際には各学年でこれよりも多くの単位を修得するよう履修計画をたててください。

3. 専門基礎科目

専門科目の前提として学んでおくべき基礎的な科目群を専門基礎科目といい、本学類では概ね1~2年次を対象に開設します。いずれの主専攻にも共通する基礎的内容です。14科目（25単位）の必修科目すべてと22科目中16科目（32単位）以上の選択科目を修得することが卒業の要件です。専門基礎科目の選択科目は、できるだけ多くの科目を履修するよう計画してください*。

*ただし、2年次向けの専門基礎科目を2年次にすべて履修登録すると、体育1単位と合わせて44単位となり、キャップ制のほぼ上限に達します。

専門基礎科目のうち「知識と人間」クラスターの4科目は知識科学主専攻の専門領域に関わる導入的な内容、「知識とシステム」クラスターの4科目は知識情報システム主専攻の、「知識と社会」クラスターの4科目は情報経営・図書館主専攻の導入的科目群です。2年次にはこれらの科目を学びながら、どの主専攻を志望するかを考えてください。

専門基礎科目の自由科目は固有の目的を持って開講されます。万人向けの内容ではないので、科目の趣旨をよく考えて受講してください。「社会体験実習Ⅰ」「同Ⅱ」は教員や専門家の指導を受けながら、知識情報・図書館学類の専門領域に関するボランティア活動に従事することで、社会的な視野を拓けながら専門的な技術を体得します。

「知的探求の世界Ⅰ」「同Ⅱ」は、三つの狙いを持って開講されます。第一の狙いは、深い教養教育の機会の提供です。教養とは個人が社会と関わり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身につけるものの見方、考え方、価値観の総体です。知識情報・図書館学類は、多様なものの見方、考え方を学ぶ機会を提供していますが、それに対して、一つの主題領域を深く学ぶ過程を経験する機会として「知的探求の世界」を位置づけます。二つめの狙いは、カリキュラムの枠組みを超えた自由な学びの場の提供です。本学類には人文学、社会科学、理工学など多様な専門領域を持つ教員が揃っています。その多様性を活かして、カリキュラムの構成とは別に、その枠を超えた自由な教育の場として、「知的探求の世界」を位置づけます。三つ目の狙いは、教員との長い、深い接触のもとで行われる少人数教育の提供です。教育には単なる知識の伝達を超えたものの見方、考え方、知恵、技といったものの伝承という側面もあります。師と弟子のような、しかし現代的な自由な関係の中での少人数教育として、「知的探求の世界」を位置づけます。

そのため、「知的探求の世界」は各教員がカリキュラムの枠を超えて自由に特定領域を設定し、内容も方法も全く自由に構成します。しかも、教員の講義を聞いて受動的に学ぶスタイルではなく、教員のガイドのもとに学生が自分の力で学ぶことを基本とします。例えば、その領域の古典の講読に集中する場合もあるでしょうし、入門から発展までの講読を体系的に進めることもあるかもしれません。演習を通じてある技術を深く習得する場合もあるでしょう。「知的探求の世界」は、2年次から1年半という長い期間をかけて継続的に、入門から一定の深さに至るまでの一貫した学習ができるようにします。

しかし、卒業研究が始まるまでには終わり、卒業研究と並行して履修することはありません。また、卒業研究の指導と知的探求の世界の履修は連動しません。卒業研究の指導教員は、決定ルールに従って定めますが、結果的に同じ指導教員になることもあります。

4. 専門科目

3年次に主専攻が決まると、自分が所属する主専攻の主専攻実習を履修しなければなりません。また専門英語Ⅲ（1学期）と同Ⅳ（2学期）も必修科目です。専門英語は各主専攻に対応する形で3クラス開講されます。所属する主専攻のクラスを履修することが原則ですが、他主専攻のクラスを履修してもかまいません。

3～4年次には、自分の主専攻の専門科目を20単位（10科目）以上、他の主専攻あるいは学類共通の専門科目から合計して8単位（4科目）以上を修得してください。主専攻ごとに17科目前後の選択科目が開設されます。他主専攻の主専攻実習は他主専攻の専門科目の一つとして（実習の定員範囲内で）履修できます。卒業に必要な専門科目の大半は3年次に履修できるはずですが、4年次は知識情報特論を1,2学期に各1科目（計2単位）と卒業研究（6単位）を必ず履修してください。4年次には多くの時間を卒業研究に使えるよう、特に3学期は卒業研究以外の科目をできるだけ履修しないよう計画してください。

5. 自由科目

自由科目は、あなた自身の興味・目的に沿って自律的・計画的に学習することを目的に設けられた履修区分です。本学類では自由科目として12単位以上の履修が必要です。外国語の学習を2年次以降も継続させても良いでしょうし、あなたが興味を持っている他学類の専門領域を深く学んでも良いでしょう。本学類の専門領域を深く学ぶために専門科目や専門基礎科目を人よりも多く学ぶことも可能です。自由科目に関する卒業要件はやや複雑なので、説明のために細則別表の該当部分を表2のようにまとめ直しました。

自由科目は科目区分や科目ごとに上限が決められています。この上限の範囲内で12単位以上の修得が必要です。関連科目の自由科目を12単位以上修得した場合はこれだけで卒業要件を満たしますが、専門基礎科目、専門科目の場合、他の区分の自由科目と合わせて12単位以上とする必要があります。

共通科目のうち、6単位を超えて修得した総合科目Aの単位は共通科目の自由科目に区分を変更することができます。最初から自由科目として履修登録することもできます。また、自由科目として開設される体育の単位も共通科目の自由科目です。また、平成20年度以降の入学者は、国語、芸術、外国語中・上級・英語Sを共通科目の自由科目として履修できます。ただし、総合科目Aとしての自由科目は0～6単位、体育としての自由科目は0～2単位のように指定されているので、総合Aは6単位、体育は2単位までしか、卒業要件上必要な12単位の自由科目に含めることはできません。例をあげると、

表 2a 自由科目に関する要件（平成 20 年度以降入学者用）

区分	カテゴリ等	自由科目としての算入可能単位数
共通科目	総合科目 A	0～6
	体育	0～2
	国語	0～2
	芸術	0～6
	外国語	0～6
	合計	0～12
関連科目	自由科目	0～12
専門基礎科目	選択科目	0～8
	自由科目	
専門科目	知識情報特論	0～8
	自主専攻	
	他主専攻・共通	
総計		12

自由科目の芸術を 8 単位修得してもかまいませんが、卒業要件の自由科目としては 6 単位しか認められないため、卒業のためには他で 6 単位修得しなければなりません。

関連科目の自由科目として、本学類では特設の自由科目、博物館に関する科目、他学類の開設科目を卒業要件に含めることができます。一方、「教職に関する科目」を自由科目にすることはできません。また、平成 19 年度の入学者は、国語、芸術、外国語中・上級・英語 S を関連科目の自由科目として履修できます（平成 20 年度以降の入学者のような科目別の上限はありません）。なお、他学類の科目を履修する場合は、標準履修年次に留意し、シラバス（他学類のシラバスは各学類の Web サイトで公開されています）で受講制限の有無や前提となる科目や知識等を良く確認してください。また初回の授業には必ず出席し、担当教員に受講の可否を確認することをお勧めします。一般に、基礎的な知識を持たずに専門性の高い科目を受講しても単位修得は困難ですし、授業形態によっては他の受講者の迷惑にもなります。

専門基礎科目では、32 単位を超えて修得した選択科目を自由科目に区分変更できます。また自由科目として開設された専門基礎科目の修得によっても自由科目の単位が得られます。

専門科目では特に自由科目として開設される科目はありませんが、2 単位を超えて履修した知識情報特論、20 単位を超えて履修した自主専攻の専門科目、8 単位を超えて履修した他主専攻や学類共通の専門科目を合計 8 単位まで自由科目に区分変更できます。

表 1b 標準履修年次別科目配分と履修計画（平成 19 年度入学者・平成 21 年度編入学者用）

区分	1 年		2 年		3 年		4 年		必要
共通	体育 総合 A 総合 B 英語	1 6 1 4.5	体育	1					13.5
関連	第 2 外国語	3							3
専門基礎	必修	知識情報概論 哲学 情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシ実習 プログラミング演習 I プログラミング演習 II 情報数学 統計 (計 9 科目 16 単位)	2 2 2 1 1 2 2 2 2	知識情報演習 I 知識情報演習 II 知識情報演習 III 専門英語 I 専門英語 II (計 5 科目 9 単位)	2 2 2 1.5 1.5				25
	選択	情報社会と法制度 情報システム概説 基礎数学 A 基礎数学 B 図書館概論 (計 5 科目 10 単位)	2 2 2 2 2	知的財産概論 量的調査法 多変量解析 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステム とネットワーク 自然言語解析基礎 メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 テキスト解釈 学問と社会 (計 17 科目 34 単位)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		(22 科目 44 単位中から)	32	
	自由		知的探求の世界 I	1.5	知的探求の世界 II	1			
			社会体験実習 I, II					各 1	
専門科目	必修				主専攻実習 I, II 専門英語 III, IV	2 2	卒業研究	6	10
	選択				自専攻の専門科目 他専攻・学類共通の専門科目		知識情報特論	20 8 2	30
自由									12
合計	(必修 31.5 単位)	39.5	(必修 10 単位)	40	(必修 4 単位)	32	(必修 6 単位)	14	125.5

表 2b 自由科目に関する要件（平成 19 年度入学者・平成 21 年度編入学者用）

区分	カテゴリ等	自由科目としての 要求単位数
共通科目	総合科目 A	0~6
	体育	0~2
	合計	0~6
関連科目	自由科目	0~12
専門基礎科目	選択科目	0~8
	自由科目	
専門科目	知識情報特論	0~8
	自主専攻	
	他主専攻・共通	
総計		12

教職ガイド

1 教員をめざすにあたって

知識情報・図書館学類では社会（中学）、公民（高校）、数学（中学）、数学（高校）、情報（高校）の免許を取得できます。教員として就職するためには中学・高校両方の免許を持つ方が有利だと言われています。情報は高校の免許しかないので、社会（中学）あるいは数学（中学・高校）と組み合わせることを検討すると良いでしょう。

2 単位等の要件

免許を得るためには、学士の学位（＝大学を卒業すること）、「教職に関する科目」31単位（高校免許は26単位）、「教科に関する科目」20単位、「教科又は教職に関する科目」8単位（16単位）、「その他の科目」10単位が必要です。また、中学免許取得には「介護等体験の意義」（1単位）を受講した上で、合計7日間の「介護等の体験」に参加しなければなりません。単位の確認のため、本学類では教科ごとにチェックシートを作成して配布しています。「教職に関する科目」については、学類時間割に推奨履修パターンを示しています。「教職に関する科目」は学類ごとに受講クラスが指定されますが、本学類は原則としてどのクラスでも受講できます。教育実習を除く教職に関する科目は1～3年次で全て修得するようにしてください。

「教科に関する科目」の指定は履修要覧が正式なものです。教職シラバスには履修の便を考慮して学類横断型の「教科に関する科目」の一覧が掲載されていますが、免許取得の際の必修科目が正確には記載されていない（できない）ので注意してください。

3 教科ごとに履修が必要な科目

3.1 数学（中学・高校）

数学の免許を取得するために必要な「教科に関する科目」20単位と教科教育法6単位は右表のような計画で修得することができます。

情報メディア創成学類開設の「情報数学Ⅲ」（3学期、水1・2限）と「CG基礎」（3学期、月4・5限）は3年次に履修します。

表3 数学の履修例

年次	科目名（*は免許のための必修）	単位
1年次	基礎数学 A*(2) 基礎数学 B*(2) 情報数学*(2) 統計*(2)	8
2年次	知識情報演習Ⅲ*(2) 多変量解析(2)	4
3年次	データ構造とアルゴリズム*(2) 情報数学Ⅲ*(2)（創成） データマイニング(2) CG基礎(2)（創成）	8
	数学科教育概論*(3) 数学科教育内容論*(1) 数学科授業研究*(1) 数学科指導法*(1)	6
計		26

3.2 社会（中学）・公民（高校）

「教科に関する科目」のうち、社会・公民の両方で使用できる 2 年次の選択科目はできるだけ多く履修します。また、社会科の教科教育法を 3 年次に受講するために、同じ時間帯に開講される「欧米の歴史と文化」(3 学期, 水 1・2 限) は 2 年次に必ず修得しておきます。そのため、クラスに関係なく「知識情報演習」は火曜クラスを履修してください。また、3 学期の「特別活動」は木 3 限または金 2 限クラスを履修します。「史学概論 I」(2 学期, 水 2 限) は必修なので、2 年次または 3 年次に履修します。同じく必修の「東洋の歴史と文化」(3 学期, 木 2・3 限), 「人文地理学」(2・3 学期, 火 4 限), 「地誌学」(2・3 学期, 火 5 限) は 3 年次に履修します。(司書科目である「学術メディア論」を 3 年次に履修できなくなります)

情報経営・図書館専攻を選択した 1 期生は「人文地理学」「地誌学」を 4 年次に履修しなければなりません。情報経営・図書館専攻を志望する 2 期生以降は 2 年次に「人文地理学」「地誌学」を履修し、「メディア社会学」を 3 年次に履修してください

3.3 情報（高校）

情報の「教科に関する科目」は、全学開設の「情報と職業」(2 学期, 集中) を除いて、本学類の開設科目だけで履修できます。2 年次までの科目を全てと、3 年次には必修科目 7 単位を修得してください。

通常は「教科または教職に関する科目」が不足するので、「教科に関する科目」を 2~6 単位余分に修得しなければなりません。

表 4 社会・公民の履修例

年次	科目名 (*は免許のための必修)	
1 年次	哲学*(2)	2
2 年次	メディア社会学*(2) 史学概論 I*(1) (人文) 欧米の歴史と文化*(2) (日日)	5
	量的調査法(2) 質的調査法(2) 情報行動論(2) 経営・組織論(2)	8
3 年次	人文地理学*(2) (地球) 地誌学*(2) (地球) 情報法*(2) 東洋の歴史と文化*(2) (日日)	8
	知的財産権論#(2) 図書館情報法制度論(2) メディア社会文化論(2) 知識形成論#(2) 情報経済論 [!] (2) メディア教育と発達 [!] (2)	6
	中等社会・公民科教育法*(3) 社会科地理指導法*(1) 社会科歴史指導法*(1) 集中 社会科公民指導法*(1) 集中 公民科 (政治経済) 指導法(1) 公民科 (倫理) 指導法(1) 集中	7
計		36

#は二者択一, !は情報と並行取得時履修不可

表 5 情報の履修例

年次	科目名 (*は免許のための必修)	
1 年次	情報社会と法制度*(2) プログラミング演習 I*(2) プログラミング演習 II*(2)	6
	情報システム概説(2)	2
2 年次	知的財産概論(2) データベース概説(2) 自然言語解析基礎(2) コンピュータシステムとネットワーク(2)	6
3 年次	情報検索システム*(2) Web プログラミング*(2) マルチメディアシステム*(2) 情報と職業*(1) (全学)	7
	情報科指導法 I*(2) 情報科指導法 II*(2)	4
	データ表現と処理 グリッドコンピューティング デジタルドキュメント 情報デザインとインタフェース インターンシップ	(2~6)
計		25

資 料

情報学群履修細則

(趣旨)

第1条 この部局細則は、筑波大学学群学則（平成16年法人規則第10号。以下「学群学則」という。）第25条第1項、第28条第1項、第31条第1項、第33条、第35条第2項、第39号第1項及び第40条の規定に基づき、情報学群における教育課程の編成及びその履修に関し必要な事項を定めるものとする。

(主専攻分野)

第2条 学群学則第25条第1項の部局細則で定める主専攻分野は、次の表のとおりとする。

学 類	主 専 攻 分 野
情 報 科 学 類	ソフトウェアサイエンス、情報システム、 知能情報メディア
情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	情報メディア創成
知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	知識科学、知識情報システム、情報経営・図書館

(履修方法)

第3条 学群学則第39条第1項の部局細則で定める情報学群における主専攻分野別の「専門科目」、「専門基礎科目」及び「基礎科目」ごとの卒業に必要な履修科目及び履修単位数は、別表第1のとおりとする。この場合において、「基礎科目」のうち、「共通科目・情報処理」の単位については、情報科学類にあつては「専門科目」、情報メディア創成学類及び知識情報・図書館学類にあつては「専門基礎科目」の履修により修得した単位をもって充てるものとする。

(主専攻分野の選択条件)

第4条 学群長は、学生の主専攻分野について、学生の希望を勘案し、入学した年次終了時以降に選考を行い、学類教員会議及び学群運営委員会の議を経て決定する。

2 学生が主専攻分野を選択するにあたって、あらかじめ、履修すべき授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。

(履修科目の登録の上限)

第5条 学群学則第33条第1項の部局細則で定める履修科目の登録の上限は、45単位とする。ただし、編入学を許可された者の履修科目の登録の上限は、入学した年に限り55単位とする。これらの場合において、「教職に関する科目」及び「博物館に関する科目」は、この単位数に含めない。

2 学群学則第33条第2項の部局細則で定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる場合の要件及び単位数は、次の表のとおりとする。

学 類	要 件	単 位 数
情報科学類	(1) 前年度において卒業要件科目を40単位以上修得し、申請単位数の60%以上が「A」であること。 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位
情報メディア創成学類	(1) 前年度において卒業要件科目を40単位以上修得し、申請単位数の60%以上が「A」であること。 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位
知識情報・図書館学類	(1) 前年度において卒業の要件として必要な単位を40単位以上修得し、その70%以上が「A」である者 (2) 学類長が特別な事情があると認めた者	55単位

(成績の評価)

第6条 学群学則第35条第2項の部局細則で定める合格及び不合格の評語を用いることができる授業科目は、「フレッシュマン・セミナー」及び「学問と社会」（知識情報・図書館学類開設）とする。

(早期卒業)

第7条 学群学則第40条に規定する早期卒業の対象者及び基準は、次の表のとおりとする。

学類	対 象 者	基 準
情報科学類	2年次終了時において卒業に必要な単位数を85単位以上修得し、かつ、成績が上位10%以内にある者について、卒業の見込み等を総合的に勘案して判断する。ただし、2学期入学者については、科目「卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の履修条件を満たしており、かつ、成績優秀な者について、卒業の見込み等を勘案して総合的に判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定めている126単位を修得した者
情報創成メディア学類	2年次終了時において卒業に必要な単位数を85単位以上修得し、その90%以上が「A」である者について、卒業の見込み等を総合的に勘案して判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定められた所定単位を修得すること。
知識情報図書館学類	(1) 2年次終了時において卒業に必要な単位を90単位以上修得し、成績が上位3%以内である者 (2) 4年次1学期末卒業を希望する2学期入学者にあつては、3年次1学期終了時において卒業に必要な単位を90単位以上修得し、成績が上位3%以内である者 (3) 4年次3学期末卒業を希望する2学期入学者にあつては、3年次1学期終了時において卒業に必要な単位を80単位以上修得し、成績が優秀である者	(1) 卒業の要件として定められている所定の単位を修得した者 (2) 卒業研究の内容が優秀であると認められた者

(雑則)

第8条 この部局細則に定めるもののほか、主専攻分野の選択時期、卒業研究の選択及び提出時期その他学類における授業科目の履修に関し必要な事項は、学類教員会議の議を経て、学類長が定め、学内に公示するものとする。

附 則

- 1 この部局細則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成19年度入学者にあつては、この部局細則による改正後の別表第1及び別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(別表 1 平成 20 年度以降入学者対象)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数										科目				合計			
	専門科目					専門基礎科目					基礎科目							
	必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数	単位数	単位数	必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数	単位数	単位数	必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数	単位数		必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数
知識科学	卒業研究	6	GE 6	0~8	情報基礎	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GE 2	0~8	総合科目A	6	総合科目A	0~6	総合科目A	0~6	総合科目A	0~12	125.5
	専門英語Ⅲ	1	GE 6	0~8	情報基礎実習	1	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GE 3	0~8	総合科目B	1	総合科目B	0~2	総合科目B	0~2	総合科目B	0~2	125.5
	専門英語Ⅳ	1	GE 7	0~8	情報リテラシー実習	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GA	0~8	第1外国語(英語)	2	第1外国語(英語)	0~6	第1外国語(英語)	0~6	第1外国語(英語)	0~6	125.5
	知識科学実習	2	GE 8	0~8	プログラミング演習Ⅰ	1	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GE 2	0~8	第2外国語	3	第2外国語	0~6	第2外国語	0~6	第2外国語	0~6	125.5
			GE 4	8	プログラミング演習Ⅱ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GA	0~8	体育	—	体育	—	体育	—	体育	—	125.5
			GE 7	8	情報数学	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	外国語	—	外国語	—	外国語	—	外国語	—	125.5
			GE 8	8	統計	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	芸術	—	芸術	—	芸術	—	芸術	—	125.5
			知識情報特論	2	哲学	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
					知識情報概論	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
					専門英語Ⅰ	1.5	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
				専門英語Ⅱ	1.5	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
				知識情報演習Ⅰ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
				知識情報演習Ⅱ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
				知識情報演習Ⅲ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
	単位合計	10		30		25		32	0~8	16.5	0	0	0~12	51.5	62	12	125.5	
知識情報システム	卒業研究	6	GE 7	0~8	情報基礎	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GE 2	0~8	総合科目A	6	総合科目A	0~6	総合科目A	0~6	総合科目A	0~12	125.5
	専門英語Ⅲ	1	GE 6	0~8	情報基礎実習	1	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GE 3	0~8	総合科目B	1	総合科目B	0~2	総合科目B	0~2	総合科目B	0~2	125.5
	専門英語Ⅳ	1	GE 7	0~8	情報リテラシー実習	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GA	0~8	第1外国語	2	第1外国語	0~6	第1外国語	0~6	第1外国語	0~6	125.5
	知識情報システム実習	2	GE 8	0~8	プログラミング演習Ⅰ	1	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GE 2	0~8	第2外国語	3	第2外国語	0~6	第2外国語	0~6	第2外国語	0~6	125.5
			GE 4	8	プログラミング演習Ⅱ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	GA	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
			GE 6	8	情報数学	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
			GE 8	8	統計	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
			知識情報特論	2	哲学	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
					知識情報概論	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
					専門英語Ⅰ	1.5	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5
				専門英語Ⅱ	1.5	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
				知識情報演習Ⅰ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
				知識情報演習Ⅱ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
				知識情報演習Ⅲ	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	—	0~8	—	—	—	—	—	—	—	—	125.5	
	単位合計	10		30		25		32	0~8	16.5	0	0	0~12	51.5	62	12	125.5	

(別表 1)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数												計			合計									
	専門科目				専門基礎科目				基礎科目				関連科目												
	必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数	単位数	必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数	単位数	必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数	単位数	必修科目 単位数	選択科目 単位数	自由科目 単位数										
情報経営・図書館	卒業研究	6	GE 8	20	GE 4	0~8	情報基礎	2	次に掲げるものうちから学類長が指定する授業科目	32	GE 2	0~8	総合科目A	6	総合科目A	0~6	総合科目A	0~6	0~12	51.5	12	125.5			
	専門英語Ⅲ	1			GE 6		情報基礎実習	1	総合科目B	1	GE 3		体育	2	体育	0~2									
	専門英語Ⅳ	1			GE 7		情報リテラジ実習	1	第1外国語	4.5	GA		第1外国語(英語)	2	外国語	0~6									
	情報経営・図書館実習	2			GE 8		プログラミンング演習Ⅰ	2	第2外国語	3			第2外国語	3	芸術	0~6									
							プログラミンング演習Ⅱ	2	GE 2																
							情報数学	2	GA																
							統計	2																	
							哲学	2																	
							知識情報概論	2																	
							専門英語Ⅰ	1.5																	
						専門英語Ⅱ	1.5																		
						知識情報演習Ⅰ	2																		
						知識情報演習Ⅱ	2																		
						知識情報演習Ⅲ	2																		
単位合計	10		30					25		32		0~8		16.5		0		0	0	0	0~12	51.5	62	12	125.5

- (注) 1. この表に掲げる単位数は、卒業に必要な最少の数値を表す。
 2. 同一の授業科目を重複して、他の科目欄の授業科目とすること又は同一の科目欄の他の授業科目とすることはできない。
 3. 各科目欄に掲げる記号及び番号は、授業科目番号で、当該記号及び番号で始まる授業科目のグループを表す。
 4. 「総合科目」、「体育」、「外国語」、「国語」及び「芸術」は、それぞれ当該授業科目として開設しているものうちから履修する。
 5. 編入学又は転入学を許可された者及び入学前又は入学後に他大学等に於いて授業科目を履修し、又は学修を行った者で、他大学等において「総合科目」又は「第1外国語」に相当する科目を履修したものに係る当該授業科目の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、次のとおりとする。
 総合科目A及びB 6単位
 第1外国語 4単位
 6. 外国人留学生及び外国において中等教育を受けた学生で、「第1外国語」として修得すべき単位を日本語・日本事情等に関する科目の単位数で振り替えることとされたものに係る「第1外国語」の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、4単位とする。
 7. 卒業研究の履修に当たっては、卒業に必要な履修科目の中から合計90単位以上修得している(卒業に必要な未修得単位数が35.5単位以下となっている)こと。

(別表 1 平成 19 年度入学者対象)

主専攻分野	卒業に必要な履修科目及び必修得単位数										基礎科目			科目			合計							
	専門科目					専門基礎科目					共通科目			基礎科目				必修科目	選択科目	自由科目				
	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数	自由科目	単位数	必修科目	単位数	選択科目	単位数					自由科目	単位数		
知識科学	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	6	GE6	20	GE4 GE6 GE7 GE8	0~8	情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシー実習 プログラミング演習 I プログラミング演習 II 情報数学 統計 哲学 知識情報概論 専門英語 I 専門英語 II 知識情報演習 I 知識情報演習 II 知識情報演習 III	2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	GE2 GE3 GA	32	次に掲げるもののうちから学類長が指定する授業科目 GE2 GA	0~8	総合科目 A 6 B 1 体育 2 第1外国語 4.5	6 1 2 4.5	0~6 —	—	0~12	12	51.5	62	12	125.5	
	専門英語 III	1	GE7		GE4	8																		
	専門英語 IV	1	GE8																					
	知識情報特論	2	知識情報特論	2																				
単位合計	10		30	0~8		25	32	0~8					13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5			
知識情報システム	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	6	GE7	20	GE4 GE6 GE7 GE8	0~8	情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシー実習 プログラミング演習 I プログラミング演習 II 情報数学 統計 哲学 知識情報概論 専門英語 I 専門英語 II 知識情報演習 I 知識情報演習 II 知識情報演習 III	2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	GE2 GE3 GA	32	次に掲げるもののうちから学類長が指定する授業科目 GE2 GA	0~8	総合科目 A 6 B 1 体育 2 第1外国語 4.5	6 1 2 4.5	0~6 —	—	0~12	51.5	62	12	125.5		
	専門英語 III	1	GE6		GE4	8																		
	専門英語 IV	1	GE8																					
	知識情報特論	2	知識情報特論	2																				
単位合計	10		30	0~8		25	32	0~8					13.5	0~6	3	0	0~12	51.5	62	12	125.5			

(別表1)

専攻分野	卒業に必要な履修科目及び修得単位数												合計								
	専門科目				専門基礎科目				基礎科目					計							
	必修科目		選択科目		必修科目		選択科目		必修科目		選択科目			必修科目	選択科目						
	単位数	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数	科目									
情報経営・図書館	卒業研究 (90単位以上を修得していること。)	6	GE8	20	GE4 GE6 GE7 GE8	0~8	情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシー実習 プロポシツク演習Ⅰ プロポシツク演習Ⅱ	2 1 1 2 2	次に掲げるものの中から学類長が指定する授業科目	32	GE2 GE3 GA	0~8	総合科目 体育 第1外国語	6 1 2 4.5	0~6 — 0~2 —	—	—	0~12	125.5		
	専門英語Ⅲ	1	GE4	8	GE4	8	情報数学 統計 哲学 知識情報概論 専門英語Ⅰ 専門英語Ⅱ 知識情報演習Ⅰ 知識情報演習Ⅱ 知識情報演習Ⅲ	2 2 2 2 1.5 1.5 2 2 2	GE2 GA	25	0~8	3	13.5	0~6	0	0	62	125.5			
	専門英語Ⅳ	1	GE6																		
	情報経営・図書館実習	2	知識情報特論	2																	
	単位合計	10		30	0~8					32	25	0~8			13.5	0~6	3	0	51.5	62	125.5

(注) 1. この表に掲げる単位数は、卒業に必要な最少の数値を表す。
 2. 同一の授業科目を重複して、他の科目欄の授業科目とすること又は同一の科目欄の他の授業科目とすることはできない。
 3. 各科目欄に掲げる記号及び番号は、授業科目番号で、当該記号及び番号で始まる授業科目のグループを表す。
 4. 「総合科目」、「体育」及び「第1外国語」は、共通科目として開設しているものから履修する。
 5. 編入学又は転入学を許可された者及び入学前又は入学後に他大学等に於いて授業科目を履修し、又は学修を行った者で、他大学等において「総合科目」又は「第1外国語」に相当する科目を履修したものに係る当該授業科目の卒業に必要な修得単位数は、この表にかかわらず、次のとおりとする。
 総合科目A及びB 合計6単位
 第1外国語 4単位
 6. 留学生及び外国において中等教育を受けた学生で、「第1外国語」として修得すべき単位を日本語・日本事情等に関する科目の単位数で振り替えることとされたものに係る「第1外国語」の卒業に必要な修得単位数は、この表の規定にかかわらず、4単位とする。

教科に関する科目

社会（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数 高等学校			
社	日本史及び外国史	1 以上	日本史	(人文学類開設) ◎史学概論 I (知識情報・図書館学類開設) 日本図書学	
			外国史	(日本語・日本文化学類開設) ◎欧米の歴史と文化, ◎東洋の歴史と文化 (知識情報・図書館学類開設) 中国図書学, 図書館文化史論	
会	地理学 (地誌を含む。)	1 以上	地理学	(地球学類開設) ◎人文地理学 (知識情報・図書館学類開設) 教育文化政策	
			地誌	(地球学類開設) ◎地誌学	
	「法律学, 政治学」	1 以上	「法律学, 政治学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報法, 知的財産権論 A, 知的財産権論 B, 図書館情報法制度論	
	「社会学, 経済学」	1 以上	「社会学, 経済学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 知識形成論, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論	
	「哲学, 倫理学, 宗教学」	1 以上	「哲学, 倫理学, 宗教学」	(知識情報・図書館学類開設) 哲学, 知識論	
合 計 (中学 1 種)		20			

- (注) 1. 教科に関する科目の欄中, () 内のものは必ず含めて修得しなければならない。
 2. 教科に関する科目の欄中, ○○及び○○とあるものは両科目修得しなければならない。
 3. 教科に関する科目の欄中, 「 」内のものは1科目以上にわたり修得すればよい。
 4. 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

公民（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		高等学校			
公 民	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1 以上	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報法, 知的財産権論 A, 知的財産権論 B, 図書館情報法制度論	
	「社会学, 経済学（国際経済を含む。）」	1 以上	「社会学, 経済学（国際経済を含む。）」	(知識情報・図書館学類開設) ◎メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 知識形成論, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論	
	「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	1 以上	「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	(知識情報・図書館学類開設) 哲学, 知識論, メディア教育の実践と評価	
合 計 (高校 1 種)		20			

- (注) 1. 教科に関する科目の欄中, () 内のものは必ず含めて修得しなければならない。
 2. 教科に関する科目の欄中, 「 」内のものは2科目以上にわたり修得すればよい。
 3. 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

数学（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目			区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数				
		中学校	高等学校			
数 学	代数学	1 以上	1 以上	代数学	(知識情報・図書館学類開設) ◎基礎数学 B, 情報数学	
	幾何学	1 以上	1 以上	幾何学	(情報メディア創成学類開設) ◎情報数学Ⅲ, CG 基礎, インタラクティブ CG (情報科学類開設) 計算幾何	
	解析学	1 以上	1 以上	解析学	(知識情報・図書館学類開設) ◎基礎数学 A (情報科学類開設) 数値計算法, 解析学Ⅲ, 複素関数論	
	「確率論, 統計学」	1 以上	1 以上	「確率論, 統計学」	(知識情報・図書館学類開設) 統計, 多変量解析, データマイニング	
	コンピュータ	1 以上	1 以上	コンピュータ	(知識情報・図書館学類開設) ◎データ構造とアルゴリズム, 知識情報演習Ⅲ	
合 計 (中学 1 種, 高校 1 種)		20	20			

- (注) 1. 教科に関する科目の欄中, 「 」のものは1科目以上にわたり修得すればよい。
 2. 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

情報（情報学群 知識情報・図書館学類）

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		高等学校			
情 報	情報社会及び情報倫理	1 以上	情報社会及び情報倫理	(情報学群開設) ◎情報社会と法制度, 知的財産概論	
	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	1 以上	コンピュータ及び情報処理	(知識情報・図書館学類開設) データ表現と処理, コンピュータシステムとネットワーク	
			コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) プログラミング演習 I	
	情報システム (実習を含む。)	1 以上	情報システム	(知識情報・図書館学類開設) 情報システム概説, データベース概説, 自然言語解析基礎	
			情報システム (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報検索システム	
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	1 以上	情報通信ネットワーク	(知識情報・図書館学類開設) グリッドコンピューティング	
情報通信ネットワーク (実習を含む。)			(知識情報・図書館学類開設) ◎Web プログラミング		
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	1 以上	マルチメディア表現及び技術	(知識情報・図書館学類開設) ◎マルチメディアシステム, デジタルドキュメント, 情報デザインとインタフェース		
		マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) プログラミング演習 II		
情報と職業	1 以上	情報と職業	(教職科目その他開設) ◎情報と職業 (知識情報・図書館学類開設) インターンシップ		
合 計 (高校 1 種)		20			

- (注)
1. 教科に関する科目の欄中, () のものは必ず含めて修得しなければならない。
 2. 教科に関する科目の欄中, ○○及び○とあるものは両科目修得しなければならない。
 3. 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

大学において修得すべき図書館に関する科目

区分	図書館法施行規則に定める科目		本学における開設授業科目			備考
	科目	単位数	授業科目	単位数	開設学類	
甲群 必修 12科目・ 18単位	生涯学習概論	1	生涯学習と図書館	2	知識情報・図書館学類	
	図書館概論	2	図書館論 (～平成 22 年度) 図書館概論 (平成 22 年度～)	2 2		いずれか 1 科目 選 択
	図書館経営論	1	経営・組織論	2		
	図書館サービス論	2	情報サービス経営論	2		
	情報サービス概説	2	情報探索論 情報サービス構成論	2 2		いずれか 1 科目 選 択
	レファレンスサービス演習	1	知識情報演習Ⅱ	2		
	情報検索演習	1	情報基礎実習	1		
	図書館資料論	2	コレクションとアクセス	2		
	専門資料論	1	学術メディア論	2		
	資料組織概説	2	知識資源組織化論	2		
	資料組織演習	2	知識情報演習Ⅰ	2		
乙群 選択 2科目・ 2単位以上	児童サービス論	1	メディア教育と発達 (～平成 21 年度) 読書と豊かな人間性 (平成 22 年度～)	2	いずれか 1 科目 選 択	
	図書及び図書館史	1	図書館文化史論	2		
	資料特論	1	日本図書館学 中国図書館学 デジタルドキュメント	2 2 2	いずれか 1 科目 選 択	
	コミュニケーション論	1	知識形成論 (～平成 21 年度)	2		
	情報機器論	1	情報基礎	2		
	図書館特論	1	デジタルライブラリ インターンシップ	2 2	いずれか 1 科目 選 択	

(備考) 所定の単位を修得した者には、図書館に関する科目の「単位修得証明書」を発行します。卒業後に学務課成績管理・システム担当(大学本部棟2階)に申し込んでください。司書資格の証明を求められた場合には、「単位修得証明書」と「卒業証明書」を提出してください。

図書館法施行規則改正に伴う移行措置 (予告)

- 1) 図書館法に定める「図書館に関する科目」は平成 23 年度までは上記 14 科目 20 単位(本学では 14 科目 27 単位)、平成 24 年度からは 13 科目 24 単位(同 16 科目 31 単位の予定)となります。
- 2) 平成 24 年 3 月 31 日までに全ての単位を修得するか、(1) 24 年 4 月 1 日前から大学に在学し、(2) 在学中に図書館に関する科目を全て修得し、(3) 当該大学を卒業する、という 3 要件が揃っている場合に現制度の単位数で司書資格を取得できます。
- 3) 本学では平成 24 年度から新制度対応科目の提供を開始しますが、旧制度甲群の対応科目は当面の間(少なくとも平成 26 年度まで)履修可能とします。

大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目		本学における開設授業科目			
科目	単位数	授業科目	単位数	開設学類	
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館(～平成21年度)	2	知識情報・図書館学類	いずれか 1科目 選択
		学校図書館論(平成22年度～)	2		
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2		
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2		
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2		
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2		

(備考)

司書教諭講習に相当する科目として修得した単位は、各学群の履修細則の定めるところにより、卒業要件の単位として算入できます。

司書教諭の資格を取得するためには、司書教諭講習に相当する科目を全て修得した後に、学校図書館法第5条第3項の規定に基づく「学校図書館司書教諭講習」に、書類参加の手続きが必要です。手続方法については、掲示でお知らせします。

大学が単位を与える学修一覧

検定名	対象となる級等	認定対象科目
(財)日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定	1級・準1級	英語Ⅱ (1.5単位) ※注1
TOEFL		
ペーパー版テストの点数	550点以上	
コンピュータ版テスト	213点以上	
インターネット版TOEFL	79点以上	
TOEIC	730点以上	
(財)ドイツ語学文学振興協会が実施するドイツ語技能検定	1級・2級・3級	ドイツ語G, L, P(1.5単位)
ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験	基礎統一試験以上	ドイツ語G, L, P(1.5単位)
(財)フランス語教育振興協会が実施する 実用フランス語技能検定	1級・準1級・2級・3級	フランス語Ⅰ-1～3 (1.5単位)
ロシア語検定試験実行委員会が実施する ロシア語検定試験	第4・第3・第2・第1・基礎	ロシア語Ⅰ-1～3 (1.5単位)
(財)日本スペイン協会が実施するスペイン語技能検定	1級・2級・3級・4級・5級	スペイン語 (1.5単位)

- (注) 1 実用英語技能検定及びTOEFL又はTOEICは、いずれか1つの試験についてのみ認定する。
 2 この表に掲げるもののほか、専門基礎科目及び専門科目として認定する単位は、45時間の学修をもって換算する単位とする。
 3 共通科目等開設組織等において定める基準を最低の基準とし、それ以上の基準により各学類・専門学群において与えることができる単位を表す。
 4 ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験の「基礎統一試験」以上の試験とは「職業ドイツ語検定試験」「ドイツ語中級統一試験」「国際ビジネスドイツ語検定試験」「ドイツ語上級統一試験」「ドイツ語小ディプロム試験」及び「ドイツ語大ディプロム試験」を表す。
 5 ロシア語検定における認定の基準は、検定試験結果の基礎レベル以上とする。
 (第4レベル、第3レベル、第2レベル、第1レベル及び基礎レベル)

MEMO

索 引

	氏名	職位	研究室	1学期	2学期	3学期	メールアドレス	担当科目	掲載頁	その他 (学年主任)
1	池内 淳 いけうち あつし	准教授	7D413	火3・4限	火3・4限	火3・4限	atsushi@slis	公共経済学 情報サービス経営論	35 103	3-4担任
2	石井 夏生利 いしい なつり	准教授		木5限	月3限	火3限	kaorish@slis	情報社会と法制度 情報法	12 111	
3	石井 啓壘 いしい ひろとよ	教授	7D315	木4限	木4限	木4限	ishies@slis	知識情報概論 システム思考とモデリング 知的探求の世界II-1	1 68 125	
4	石塚 英弘 いしづか ひでひろ	教授	7D208	月7限	月7限	月7限	ishizuka@slis	専門外国語III-2 専門外国語IV-2 デジタルドキュメント	50 53 79	
5	逸村 裕 いつむら ひろし	教授	7D313	水1限	水1限	水1限	hits@slis	情報基礎実習-1,-2 知識情報特論I 知識情報特論II 学術情報基盤論	4 55 56 101	4-1担任*
6	岩澤 まり子 いわさわ まりこ	教授	7D304	随時	随時	随時	miwasawa@slis	情報探索論 医療情報論 特許情報論	25 62 63	
7	植松 貞夫 うゑまつ さだお	教授	研究科長 室7D413	月10:30-13:00	月10:30-13:00	月10:30-13:00	uematsu@slis	図書館建築論	70	
8	宇陀 則彦 うだ のりひこ	准教授	7D210	水2限	木18:00~18:30	水2限	uda@slis	データベース概説 デジタルライブラリ	30 80	
9	大澤 文人 おおさわ ふみと	助教	7D115	火11:00-12:00	火11:00-12:00	火11:00-12:00	osawa@slis	情報メディアの活用 総合演習	46 128	
10	大庭 一郎 おほば いちろう	講師	7D113	水2限	水2限	水2限	iohba@slis	経営・組織論 学問と社会 情報サービス構成論 知的探求の世界II-6	34 42 106 127	
11	黒古 一夫 くろこ かずお	教授	7D504	木3限	木3限	木5・6限	kuroko@slis	テキスト解釈-5 知識情報特論I 知識情報特論II 出版文化・書誌論	41 55 56 116	4-2担任
12	後藤 嘉宏 ごとう けいこう	准教授	7D513	金2限	木2限	木2限	ygoto@slis	メディア社会学 メディア社会文化論	33 115	2-2担任
13	坂口 哲男 さかぐち てつお	准教授	7D312	火4限	火4限	火4限	saka@slis	知識情報演習I-1 コンピュータシステムとネットワーク Webプログラミング 知的探求の世界I-5	17 31 83 124	
14	佐藤 哲司 さとう てつじ	教授	7D205	月6・7限	月6・7限	月6・7限	sato@slis	情報システム概説 テキスト処理	13 94	3-1担任*
15	三波 千穂美 さんなみ ちほみ	講師	7D302	月13:30~16:00	月13:30~16:00	月13:30~16:00	sannami@slis	学校図書館メディアの構成 知識情報特論I 知識情報特論II テクニカルコミュニケーション論 サイエンスコミュニケーション	44 55 56 60 61	4-4担任
16	沼目 浩輔 ぬまめ こうすけ	教授	7D314	木3・4限	水3限	金3限	shizume@slis	フレッシュマンセミナー 情報リテラシ実習-2 情報数学 ソフトコンピューティング	5 6 10 75	1-2担任
17	上保 秀夫 じょうほ ひでお	助教	7D408	木4・5限	木4・5限	木4・5限	hideo@slis	知識情報演習III-1 専門英語IV-1 レファレンスサイエンス	19 52 66	
18	白井 哲哉 しらい てつや	准教授	7D407	金4限	金4限	金4限	tetsushi@slis	テキスト解釈-1 古文書論	37 120	
19	鈴木 佳苗 すずき かなえ	准教授	7D112	月4限	月4限	木4限	kanae@slis	読書と豊かな人間性 メディア教育の実践と評価 社会体験実習I 社会体験実習II	45 109 121 122	
20	鈴木 伸崇 すずき のぶたか	准教授	7D204	金6限	金6限	金6限	nsuzuki@slis	情報基礎 知識情報演習I-2 知識情報特論I 知識情報特論II データ表現と処理	3 17 55 56 85	4-3担任
21	谷口 祥一 たにぐち しょういち	教授	7D303	火6限	木6限	火6限	taniguch@slis	知識情報演習I-1 知識資源組織化論 知識資源の記述	17 29 90	
22	田村 肇 たむら はじめ	准教授	7D311	水10:00~11:30	水10:00~11:30	水10:00~11:30	tamura@slis	多変量解析 情報経済論	24 104	
23	辻 慶太 つじ けいた	准教授	7D512	水12:00~13:00	水12:00~13:00	水12:00~13:00	keita@slis	知識情報演習II-2 知識情報演習III-2 知識資源の用語管理	18 19 91	
24	時井 真紀 ときい まき	講師	7D203	月6限	火5・6限	火5・6限	tmaki@slis	プログラミング演習I-1,2 情報デザインとインタフェース	8 87	3-3担任
25	磯森 敦 いそもり あつし	准教授	7D114	水9:30~11:30	木9:30~11:30	木9:30~11:30	tosimori@slis	量的調査法 コミュニティ情報論	23 69	2-3担任
26	春海 さおり はるみ さおり	助教	7D403	月5限	火5限	火5限	donkai@slis	インターンシップ 国際インターンシップ 専門英語III-3 専門英語IV-3 図書館文化史論	47 48 51 54 117	
27	中井 央 なかい ひさし	准教授	7D309	金3限	金3限	金3限	nakai@slis	プログラミング演習II-1,2 ソフトウェア構成	9 93	
28	中山 伸一 なかもや しんいち	教授	学群長 室	月1・2限	月4・5限	月1・2限	nakayama@slis	知識発見基礎論 知識構造化法	28 71	学群長
29	長谷川 秀彦 はせがわ ひでひこ	教授	7D211	水16:00~17:00	水16:00~17:00	水16:00~17:00	hasegawa@slis	情報基礎実習-1,-2 統計-1,-2 データマイニング	4 11 74	
30	長谷部 紀元 はせべ きげん	教授	7D207	金5・6限	金5・6限	金5・6限	kh@slis	グリッドコンピューティング ソフトウェア工学	92 97	
31	原 淳之 はら あつゆき	助教	7D406	火15:00~16:30	火4限	火4限	ahara@slis	知識情報演習I-2 知識情報演習II-1,-2 テキスト解釈-4	17 18 40	
32	平久江 祐司 ひらくえ ゆうじ	教授	7D404	月4・5限	月4・5限	月4・5限	hirakue@slis	学習指導と学校図書館 学校図書館論 社会体験実習I 社会体験実習II	43 110 121 122	

氏名	職	研究室	1学期	2学期	3学期	メールアドレス	担当科目	掲載頁	その他 (学年主任)
33 眞築城 哲也 Maeshiro Tetsuya	准教授	7D409	火5・6限	火5・6限	火5・6限	maeshiro@slis	プログラミング演習II-1,2 知識情報特論I 知識情報特論II 計量情報学	9 55 56 73	4-5担任
34 松縄 正登 Matsunawa Masato	教授	7D502	金15:00～16:00	火15:00～16:00	木5限	macyu@slis	知的財産概論 知的財産権論B	22 113	
35 松林 麻美子 Matsubayashi Mamiko	講師	7D111	水2限	水2限	水2限	mamiko@slis	リテラシ実習-5 情報行動論 学術メディア論	7 27 67	3-5担任
36 松村 敦 Matsumura Atsushi	助教	7D212	木6限	木6限	木6限	matsumur@slis	フレッシュマンセミナー 情報リテラシ実習-3 プログラミング演習I-1,2 情報サービスシステム	5 6 8 78	1-3担任
37 松本 浩一 Matsumoto Koichi	教授	7D301	火2限	火2限	火2限	matsuko@slis	テキスト解釈-2 中国図書学	38 118	
38 松本 紳 Matsumoto Makoto	教授	学類長室 /7D202	月・火10:00～11:00	月・火10:00～11:00	月・火10:00～11:00	amy@slis	基礎数学A 学問と社会 マルチメディアシステム 知的探求の世界I-3 知的探求の世界II-3	15 42 84 123 126	学類長 2-1担任
39 溝上 智恵子 Mizoue Chieko	教授	専攻長室 /7D504	金3限	金3限	金3限	mizoue@slis	インターンシップ 国際インターンシップ 教育文化政策	47 48 108	
40 緑川 信之 Midorikawa Nobuyuki	教授	7D306	随時	随時	随時	midorika@slis	知識情報演習III-1 知識資源組織化論 インターンシップ 国際インターンシップ 知識資源の分析	19 29 47 48 89	
41 葉袋 秀樹 Minai Hideki	教授	7D310	月6限	金5限	火4限	himinai@slis	図書館概論 図書館論	14 100	
42 武者小路 澄子 Mushakoji Sumiko	准教授	7D516	火5限	火5限	木5限	sumiko@slis	質的調査法 知識形成論	26 65	
43 村井 麻衣子 Murai Maiko	講師	7D506	水16:00-17:00	木15:00-16:00	木14:00-15:00	myco@slis	フレッシュマンセミナー 情報リテラシ実習-4 知的財産概論 知的財産権論A	5 6 22 112	1-4担任
44 森継 修一 Moritsugu Shuichi	教授	7D214	火18:00～19:30	火18:00～19:30	月17:30～19:30	moritsug@slis	基礎数学B データ構造とアルゴリズム	16 95	
45 横山 幹子 Yokoyama Mikiko	講師	7D405	木5限	火5限	火5限	mikiko@slis	哲学 知識論	2 64	3-2担任
46 芳鐘 冬樹 Fuyuki Yoshikane	准教授	7D414	金3限	水3限	月5限	fuyuki@slis	知識情報演習II-1 専門英語III-1 情報評価	18 49 72	
47 吉田 右子 Yoshida Yuko	准教授	7D116	火2限	火2限	火2限	yyoshida@slis	生涯学習と図書館 コレクションとアクセス 知識情報演習III-2	36 107 19	2-4担任
48 綿抜 豊昭 Watanuki Toyoaki	教授	7D511	水7限	水7限	水7限	wata@slis	フレッシュマンセミナー 情報リテラシ実習-1 テキスト解釈-3 学問と社会 日本図書学	5 6 39 42 119	1-1担任
49 岩丸 厚行 Morishima Atsuyuki	兼任 准教授	7D507	月11:30～12:30	月11:30～12:30	月11:30～12:30	mori@slis	データベース技術	86	
岩丸 良明 Iwamaru Yoshiaki	非常勤 講師	—	—	—	—	iwamaru@sair.ne	経営情報システム論	81, 102	
杉本 重雄 Sugimoto Shigeo	教授	7D416	木11:00-12:00(ほか 随時 (メール予約推奨)	木11:00-12:00(ほか 随時 (メール予約推奨)	木11:00-12:00(ほか 随時 (メール予約推奨)	sugimoto@slis	マークアップ言語	96	
田中 二郎 Tanaka Jiro	教授	SB1004	木13:45～15:00	木13:45～15:00	木13:45～15:00	jiro@cs	ヒューマンインタフェース	88	
田中 裕司 Tanaka Yuji	非常勤 講師	—	—	—	—	—	専門英語I-1,2	20	
手塚 健郎 Tezuka Takerou	准教授	7D307	随時(要予約メール)	随時(要予約メール)	随時(要予約メール)	takerou@slis	図書館情報法制度論	114	
トリファシュ, リア Liana Trufas	非常勤 講師	—	—	—	—	—	専門英語II-1,2	21	
永森 光晴 Nagamori Mitsuharu	講師	7D412	金3限	月4限	金3限	nagamori@slis	マークアップ言語	96	
平湯 あつし Hirayu Atsushi	非常勤 講師	—	—	—	—	—	テクニカルコミュニケーション論	60	
みすえ 和男 Misue Kazuo	准教授	3C316	月16:00～18:00	月16:00～18:00	月16:00～18:00	misue@cs	ヒューマンインタフェース	88	
森川 世紀 Morikawa Seiki	准教授	7D308	木13:00～14:30	木13:00～14:30	木13:00～14:30	morikawa@slis	パブリックガバナンス	105	

*メールアドレスのドメイン部は「.tsukuba.ac.jp」を省略。例えば「gakumu-k@slis」は「gakumu-k@slis.tsukuba.ac.jp」が正しいメールアドレスです。岩丸先生のメールアドレスは「.jp」を省略しました。
非常勤講師へは原則として授業の前後に会うか、学群学務係を経由して連絡してください。メールアドレスが掲載されている講師については当該講師の指示にしたがってください。

科目名索引

〔A-Z〕	情報基礎..... 3
Web プログラミング83	情報基礎実習-1/-2..... 4
〔あ行〕	情報経営・図書館実習..... 99
医療情報論62	情報経済論..... 104
インターンシップ47	情報検索システム..... 82
〔か行〕	情報行動論..... 27
学習指導と学校図書館.....43	情報サービス経営論..... 103
学術情報基盤論101	情報サービス構成論..... 106
学術メディア論67	情報サービスシステム..... 78
学問と社会：知識情報	情報システム概説..... 13
・図書館学類の最前線.....42	情報社会と法制度..... 12
学校図書館メディアの構成.....44	情報数学..... 10
学校図書館論110	情報探索論..... 25
基礎数学 A.....15	情報デザインとインタフェース..... 87
基礎数学 B.....16	情報評価..... 72
教育文化政策108	情報法..... 111
グリッドコンピューティング.....92	情報メディアの活用..... 46
経営情報システム論81, 102	情報リテラシ実習-1～-4..... 6
経営・組織論34	情報リテラシ実習-5..... 7
計量情報学73	専門英語 I-1/-2..... 20
公共経済学35	専門英語 II-1/-2..... 21
国際インターンシップ.....48	専門英語 III-1..... 49
コミュニティ情報論69	専門英語 III-2..... 50
古文書論120	専門英語 III-3..... 51
コレクションとアクセス.....107	専門英語 IV-1..... 52
コンピュータシステムとネットワーク.....31	専門英語 IV-2..... 53
〔さ行〕	専門英語 IV-3..... 54
サイエンスコミュニケーション.....61	総合演習..... 128
システム思考とモデリング.....68	卒業研究..... 57
自然言語解析基礎32	ソフトウェア工学..... 97
質的調査法26	ソフトウェア構成..... 93
社会体験実習 I.....121	ソフトコンピューティング..... 75
社会体験実習 II.....122	〔た行〕
出版文化・書誌論116	多変量解析..... 24
生涯学習と図書館36	知識科学実習..... 59

知識形成論	65	テキスト解釈-5.....	41
知識構造化法	71	テクニカルコミュニケーション論	60
知識資源組織化論	29	哲学.....	2
知識資源の記述	90	統計-1/-2.....	11
知識資源の分析	89	読書と豊かな人間性.....	45
知識資源の用語管理	91	図書館建築論.....	70
知識情報演習 I-1/-2	17	図書館情報法制度論.....	114
知識情報演習 II-1/-2.....	18	図書館文化史論.....	117
知識情報演習 III-1/-2.....	19	図書館概論.....	14
知識情報概論	1	図書館論.....	100
知識情報システム実習.....	77	特許情報論.....	63
知識情報特論 I.....	55	【な行】	
知識情報特論 II.....	56	日本図書館学.....	119
知識発見基礎論	28	【は行】	
知識論	64	パブリックガバナンス論.....	105
知的財産概論	22	ヒューマンインタフェース	88
知的財産権論 A	112	フレッシュマンセミナー	5
知的財産権論 B	113	プログラミング演習 I-1/-2.....	8
知的探求の世界 I-3.....	123	プログラミング演習 II-1/-2.....	9
知的探求の世界 I-5.....	124	【ま行】	
知的探求の世界 II-1	125	マークアップ言語.....	96
知的探求の世界 II-3	126	マルチメディアシステム	84
知的探求の世界 II-6	127	メディア教育の実践と評価.....	109
中国図書館学	118	メディア社会学.....	33
デジタルドキュメント.....	79	メディア社会文化論.....	115
デジタルライブラリ.....	80	【ら行】	
データ構造とアルゴリズム.....	95	量的調査法.....	23
データ表現と処理	85	レファレンスサイエンス	66
データベース概説	30		
データベース技術	86		
データマイニング	74		
テキスト処理	94		
テキスト解釈-1	37		
テキスト解釈-2.....	38		
テキスト解釈-3.....	39		
テキスト解釈-4.....	40		